

政策分野等	2 健康・福祉	更新日	令和8年5月20日
施策等	2 高齢者福祉の充実	担当部	いきがい創生部
基本的な方向性等	2 高齢者が培ってきた能力や経験を活かし、地域や社会で活躍できる環境づくりを推進するとともに、デジタル技術を取り入れた交流の場や学びの機会を充実し、多様な生きがいづくりや社会参加を促進します。		

施策を構成する事業						
番号	事業名	8年度 事業区分	事業費（千円）		継続 評価	担当課
			7年度 （決算）	8年度 （予算）		
1	社会福祉施設等管理：老人憩いの家・ふれあいの家	継続	43,237	12,718	○	いきがい推進課
2	敬老祝品	継続	19,816	19,193	○	いきがい推進課
3	敬老会地域開催補助	継続	9,320	9,800	○	いきがい推進課
4	老人クラブ連合会補助金	継続	817	818	○	いきがい推進課
5	老人クラブ補助金	継続	4,550	4,602	○	いきがい推進課
6	シルバー人材センター補助	継続	28,700	28,200	○	いきがい推進課
7	高齢者体育振興	継続	100	51	○	いきがい推進課
8	かすがいいきいきポイント事業	拡充	10,690	13,937	○	いきがい推進課
事業費合計			117,230	89,319		

関連する総合計画成果指標	指標名	直近値（年度）	目標
	趣味や健康づくり、町内会などの活動に参加している高齢者の割合（％）	40.4 （2021 年度）	65.0 （2026 年度）

総合計画成果指標や施策を構成する事業の成果に基づく効果検証		
効果 (進捗状況)	○	◎：期待する又は期待以上の成果があった ○：現状維持 △：期待する成果がなかった
理由 (主な成果や課題を踏まえた効果検証等)	老人クラブへの参加やボランティア活動は、高齢者が元気に地域や社会で活躍するための有効な取り組みであり、いきがいづくりや社会参加を推進し、多世代の交流と地域貢献も担う重要な存在である。その一方で、多くのクラブで新たな会員の加入が減少しており、役員の高齢化や担い手不足から、活動を縮小・解散するクラブも増えているが、クラブに対し補助金の交付などにより支援することで、会員の通いの場として継続した活動を行うことができている。 また、敬老会の地域開催を支援することで地域住民の敬老意識の高揚を図ることができ、住民と高齢者の交流の機会にもつながっている。 加えて、かすがいいいききポイント事業を開始し、高齢者のいきがいづくりの支援・社会参加の促進に取り組むことができている。	
今後の方向性 (課題解決の方策等)	施策の取組方針	◎重点・強化 ○維持 △縮小
	人生100年時代を見据え、高齢者が多世代と交流し、いつまでも地域で元気にいきいきと活動し、安心して暮らしていけるように、健康づくりや地域福祉活動、生涯学習・スポーツ活動など分野を超えた多様な生き方を支援・充実させる。また、かすがいいいききポイント事業において、対象施設等を拡充し更なる高齢者のいきがいづくりの支援・社会参加の促進に取り組み、豊かな人生を送り続けることができるまちの実現をめざす。	

関連する附属機関の意見等

第六次総合計画 事業点検シート

事業区分	継続	年度	令和8年度	整理番号	2-2-2-1	
事業名	社会福祉施設等管理： 老人憩いの家・ふれあいの家			最終更新日	令和8年5月12日	
実施根拠	春日井市社会福祉施設条例、同施行規則			担当課	いきがい推進課	
関連計画	—		関連する 附属機関	—		
総合計画 施策体系	政策分野等	2 健康・福祉			基本計画 重点方針	—
	施策等	2 高齢者福祉の充実				
	基本的な 方向性等	2 高齢者が培ってきた能力や経験を活かし、地域や社会で活躍できる環境づくりを推進するとともに、デジタル技術を取り入れた交流の場や学びの機会を充実し、多様な生きがいがいづくりや社会参加を促進します。				
目的・ 事業概要	高齢者に対して、健康の増進、教養の向上及びレクリエーションのための便宜を供与する 【老人憩いの家】 ○施設数 15施設 ○管理 指定管理者 春日井市老人クラブ連合会…14施設、桃花園自治会…1施設 管理委託料 216,000円（1年1施設当たり） 浄化槽管理費、光熱水費、施設や設備の修繕（概ね1万円以上）及び防火設備保守点検費は市が負担 【ふれあいの家】 ○施設数 27施設（単独15施設、併設12施設） ○管理 指定管理者 区町内会、自治会、運営委員会等 管理委託料 72,000円（1年1施設当たり） 浄化槽管理費及び光熱水費等は指定管理者が負担、施設の修繕（概ね1万円以上）及び防火設備保守点検費は市が負担 ○その他 平成23年3月に、今後、施設の建て替えや経年劣化による大規模修繕は行わず、施設を廃止するか、地域で修繕して使用する場合は施設を地域に無償譲渡することを指定管理者に通知している。					
	事業期間					
過去の経緯、 主な実績等	【老人憩いの家】					
	○利用状況等					
	年度	R7	R6	R5	R4	R3
	利用件数	5,641件	5,605件	5,789件	5,440件	3,709件
	利用人数	51,961人	47,977人	48,261人	41,578人	26,896人
	事業費	39,622千円	25,353千円	17,772千円	25,834千円	25,868千円
	【ふれあいの家】					
	平成29年度 廻間下ふれあいの家及び高森台ふれあいの家 無償譲渡					
	明知ふれあいの家 廃止					
	令和元年度 気噴北ふれあいの家 廃止					
令和7年度 牛山ふれあいの家 無償譲渡						
○利用状況等						
年度	R7	R6	R5	R4	R3	
利用件数	2,758件	2,492件	2,474件	2,428件	1,775件	
利用人数	24,812人	24,835人	25,056人	25,139人	16,497人	
事業費	3,048千円	2,880千円	3,122千円	3,925千円	3,248千円	
事業費	事業費		8年度(予算)	7年度(決算)	6年度(決算)	5年度(決算)
			12,718千円	43,237千円	30,062千円	20,894千円
	特定財源	国・県支出金	千円	千円	千円	千円
		その他	千円	千円	千円	千円
	一般財源		12,718千円	43,237千円	30,062千円	20,894千円

7年度の 主な実施内容 (実績)	(実施内容・事業費等) 【老人憩いの家】 ○令和7年度各施設利用人数 51,961人 ○水辺老人憩いの家塗装改修工事等 【ふれあいの家】 ○令和7年度各施設利用人数 24,812人 ○押沢台ふれあいの家エアコン取替修繕等					
成果指標	指標名		目標値（年度）	7年度	6年度	5年度
	利用人数（老人憩いの家）		52,000人	51,961人	47,977人	48,261人
	利用人数（ふれあいの家）		25,000人	24,812人	24,835人	25,056人
これまでの 取組みに よる効果 (進捗状況)	○	判断理由 及び 具体的な 成果や 課題等	【老人憩いの家】 近年、高齢者サロン等の利用が増加しているが、施設の老朽化に伴い、限られた予算の中で緊急を要する修繕を順次行っている状況である。 今後、公共施設等マネジメント計画及び公共施設個別施設計画に基づき、利用率が低い施設は廃止を含めて、あり方を検討することから、より効果的な施設の活用を図るとともに、適切に維持管理をする必要がある。 【ふれあいの家】 施設の老朽化が進んでいるなか、限られた予算の中で修繕を順次行っている状況である。今後建替しないことを前提とし、地域の事情や施設の形態（地元施設との併設など）に応じた、個別対応による廃止の申し入れや地元への移管など、柔軟に対応でき、指定管理にとられない効果的・効率的な管理の在り方について検討する必要がある。			
		◎：期待する又は期待以上の効果があった ○：現状維持 △：期待する効果がなかった ー：評価なし				
今後の 方向性	(課題解決のために必要な方策等) 【老人憩いの家】 高齢者サロンなど、住民主体の身近な地域の集いの場として利用促進を図ることにより、利用率の向上を図る。また、施設の現状（利用状況や建物維持等の課題等）を踏まえ、より地域の実情に即して利用促進を図りつつ、効果的な維持管理に努める。 【ふれあいの家】 施設の現状（利用状況や建物等維持の課題等）を踏まえ、令和13年度以降指定管理の更新は行わず、それまでに地域への譲渡及び廃止を進める。					
8年度の 主な実施内容	区分	(前年度からの拡充・縮小、変更・改善内容等)				
	継続	【予算内訳】 委託料等 12,718千円				

第六次総合計画 事業点検シート

事業区分	継続	年度	令和8年度	整理番号	2-2-2-2																																				
事業名	敬老祝品			最終更新日	令和8年5月12日																																				
実施根拠	春日井市敬老祝品贈呈要綱			担当課	いきがい推進課																																				
関連計画	—		関連する 附属機関	—																																					
総合計画 施策体系	政策分野等	2 健康・福祉		基本計画 重点方針	—																																				
	施策等	2 高齢者福祉の充実																																							
	基本的な 方向性等	2 高齢者が培ってきた能力や経験を活かし、地域や社会で活躍できる環境づくりを推進するとともに、デジタル技術を取り入れた交流の場や学びの機会を充実し、多様な生きがいづくりや社会参加を促進します。																																							
目的・ 事業概要	多年にわたり社会の発展に貢献した高齢者に対して、敬老祝品を贈呈することにより感謝の意を表するとともに、その長寿を祝うことを目的とする。 ○贈呈対象者 毎年9月1日現在で住民基本台帳に登録のある者 ○祝品 <table border="1"> <tr> <th>贈呈対象者</th><th>祝品</th></tr> <tr> <td>米寿（数え88歳）</td><td>8,000円相当の商品券</td></tr> <tr> <td>数え100歳</td><td>8,000円相当の商品券</td></tr> </table> ○贈呈の時期 敬老の日及びその前後の間					贈呈対象者	祝品	米寿（数え88歳）	8,000円相当の商品券	数え100歳	8,000円相当の商品券																														
	贈呈対象者	祝品																																							
米寿（数え88歳）	8,000円相当の商品券																																								
数え100歳	8,000円相当の商品券																																								
事業期間	昭和53年度 ～																																								
過去の経緯、 主な実績等	令和7年度までは「敬老金」を支給。 令和8年度から敬老祝金を8,000円相当の商品券（祝品）へ変更 支給対象者の範囲 平成15年度まで 満80歳以上5,000円 平成16年度以降 満80歳以上3,000円 平成20年度以降 満80歳5000円、数え88歳10,000円、数え100歳10,000円 令和6年度以降 数え88歳10,000円、数え100歳10,000円（満80歳廃止） <table border="1"> <tr> <th>年度</th><th>R7年度</th><th>R6年度</th><th>R5年度</th><th>R4年度</th><th>R3年度</th></tr> <tr> <td>満80歳</td><td>—</td><td>—</td><td>3,418人</td><td>3,552人</td><td>3,607人</td></tr> <tr> <td>数え88歳</td><td>1,805人</td><td>1,889人</td><td>1,673人</td><td>1,693人</td><td>1,490人</td></tr> <tr> <td>数え100歳</td><td>113人</td><td>86人</td><td>94人</td><td>93人</td><td>82人</td></tr> <tr> <td>合計</td><td>1,918人</td><td>1,975人</td><td>5,185人</td><td>5,338人</td><td>5,179人</td></tr> <tr> <td>金額合計</td><td>19,180千円</td><td>19,750千円</td><td>34,760千円</td><td>35,620千円</td><td>33,755千円</td></tr> </table> その他 市内男女最高齢者2名の自宅等に訪問し記念品と表彰状を贈呈する					年度	R7年度	R6年度	R5年度	R4年度	R3年度	満80歳	—	—	3,418人	3,552人	3,607人	数え88歳	1,805人	1,889人	1,673人	1,693人	1,490人	数え100歳	113人	86人	94人	93人	82人	合計	1,918人	1,975人	5,185人	5,338人	5,179人	金額合計	19,180千円	19,750千円	34,760千円	35,620千円	33,755千円
	年度	R7年度	R6年度	R5年度	R4年度	R3年度																																			
満80歳	—	—	3,418人	3,552人	3,607人																																				
数え88歳	1,805人	1,889人	1,673人	1,693人	1,490人																																				
数え100歳	113人	86人	94人	93人	82人																																				
合計	1,918人	1,975人	5,185人	5,338人	5,179人																																				
金額合計	19,180千円	19,750千円	34,760千円	35,620千円	33,755千円																																				
事業費	事業費		8年度(予算)	7年度(決算)	6年度(決算)	5年度(決算)																																			
			19,193千円	19,816千円	20,260千円	35,391千円																																			
	特定財源	国・県支出金	千円	千円	千円	千円																																			
		その他	千円	千円	千円	千円																																			
一般財源		19,193千円	19,816千円	20,260千円	35,391千円																																				

7年度の 主な実施内容 (実績)	(実施内容・事業費等) 米寿（数え88歳） 1,805人 18,050,000円 数え100歳 113人 1,130,000円					
成果指標	指標名		目標値（年度）	7年度	6年度	5年度
	満80歳（祝金5,000円） ※令和6年度から廃止		—	—	—	3,418人
	数え88歳（商品券8,000円） ※令和7年度まで祝金10,000円		2,025人	1,805人	1,889人	1,673人
	数え100歳（商品券8,000円） ※令和7年度まで祝金10,000円		127人	113人	86人	94人
	合計金額		17,216千円	1,918千円	19,750千円	34,760千円
これまでの 取組みに よる効果 (進捗状況)	○	判断理由 及び 具体的な 成果や 課題等	【判断理由】 長寿を祝う意義のほか、民生委員が敬老金を個別配付することにより、高齢者の地域見守りにつながってきた。 【課題】 平均寿命の延伸等により高齢者人口が増加しており、今後も財政的な負担が高まっていく見込である。また、お祝いとしての敬老金が形骸化し意味が薄れてきている。そのため、令和6年度より満80歳への敬老金の支給を廃止し、高齢者のいきがいづくりの支援や社会参加の促進の取組として「かすがいいいきポイント」をスタートした。			
			◎：期待する又は期待以上の効果があった ○：現状維持 △：期待する効果がなかった —：評価なし			
今後の 方向性	(課題解決のために必要な方策等) 人生百年時代を迎える中で、受給対象者が増加しており、財政的な負担が高まっている。令和6年度より満80歳への支給を廃止し、支給に替わるいきがいづくりを支援する施策（かすがいいいきポイント）を推進する。 また、個別配付に係る民生委員の負担や現金取扱いに伴うリスク管理の重要性を含め、限られた人員体制の中で、より効率的かつ安全な事業運営を図る必要があることから、令和8年度から郵送での敬老祝品の贈呈へ支給方法の見直しを行う。					
8年度の 主な実施内容	区分	(前年度からの拡充・縮小、変更・改善内容等)				
	継続	敬老祝品贈呈対象者の推計 数え88歳 2,025人 数え100歳 127人				

第六次総合計画 事業点検シート

事業区分	継続	年度	令和8年度	整理番号	2-2-2-3																								
事業名	敬老会地域開催補助			最終更新日	令和8年5月13日																								
実施根拠	春日井市敬老会地域開催補助金交付要綱			担当課	いきがい推進課																								
関連計画	高齢者総合福祉計画		関連する 附属機関	高齢者総合福祉計画推進協議会																									
総合計画 施策体系	政策分野等	2 健康・福祉			基本計画 重点方針	—																							
	施策等	2 高齢者福祉の充実																											
	基本的な 方向性等	2 高齢者が培ってきた能力や経験を活かし、地域や社会で活躍できる環境づくりを推進するとともに、デジタル技術を取り入れた交流の場や学びの機会を充実し、多様な生きがいづくりや社会参加を促進します。																											
目的・ 事業概要	高齢者を敬愛し、長寿を祝うとともに、地域住民の敬老意識の高揚を図ることを目的とする。 ○補助団体 区・町内会・自治会、地区社会福祉協議会、（特別）養護老人ホームの設置者 ○補助対象 講演会、レクリエーション、祝い金または記念品の贈呈等 ○補助金額 <table border="1"> <thead> <tr> <th>対象世帯数</th><th>金額</th><th>対象世帯数</th><th>金額</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①～100世帯</td><td>20,000円</td><td>⑥1,001～1,500世帯</td><td>120,000円</td></tr> <tr> <td>②101～300世帯</td><td>30,000円</td><td>⑦1,501～2,000世帯</td><td>150,000円</td></tr> <tr> <td>③301～500世帯</td><td>50,000円</td><td>⑧2,001～2,500世帯</td><td>200,000円</td></tr> <tr> <td>④501～700世帯</td><td>70,000円</td><td>⑨2,501～3,000世帯</td><td>250,000円</td></tr> <tr> <td>⑤701～1,000世帯</td><td>90,000円</td><td>⑩3,001世帯～</td><td>300,000円</td></tr> </tbody> </table>					対象世帯数	金額	対象世帯数	金額	①～100世帯	20,000円	⑥1,001～1,500世帯	120,000円	②101～300世帯	30,000円	⑦1,501～2,000世帯	150,000円	③301～500世帯	50,000円	⑧2,001～2,500世帯	200,000円	④501～700世帯	70,000円	⑨2,501～3,000世帯	250,000円	⑤701～1,000世帯	90,000円	⑩3,001世帯～	300,000円
	対象世帯数	金額	対象世帯数	金額																									
①～100世帯	20,000円	⑥1,001～1,500世帯	120,000円																										
②101～300世帯	30,000円	⑦1,501～2,000世帯	150,000円																										
③301～500世帯	50,000円	⑧2,001～2,500世帯	200,000円																										
④501～700世帯	70,000円	⑨2,501～3,000世帯	250,000円																										
⑤701～1,000世帯	90,000円	⑩3,001世帯～	300,000円																										
事業期間	平成20年度 ～																												
過去の経緯、 主な実績等	高齢者を敬愛し、長寿を祝うとともに、地域住民の敬老意識の高揚を図ることができた。 また、子ども会や老人クラブ等地域の幅広い世代の参加により、実施団体における多世代交流の機会となっている。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th><th>R7</th><th>R6</th><th>R5</th><th>R4</th><th>R3</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>申請件数</td><td>162件</td><td>174件</td><td>166件</td><td>164件</td><td>153件</td></tr> <tr> <td>参加者数</td><td>21,777人</td><td>19,564人</td><td>20,573人</td><td>20,673人</td><td>21,345人</td></tr> <tr> <td>補助金額</td><td>9,320千円</td><td>9,797千円</td><td>9,391千円</td><td>9,160千円</td><td>8,315千円</td></tr> </tbody> </table>					年度	R7	R6	R5	R4	R3	申請件数	162件	174件	166件	164件	153件	参加者数	21,777人	19,564人	20,573人	20,673人	21,345人	補助金額	9,320千円	9,797千円	9,391千円	9,160千円	8,315千円
	年度	R7	R6	R5	R4	R3																							
申請件数	162件	174件	166件	164件	153件																								
参加者数	21,777人	19,564人	20,573人	20,673人	21,345人																								
補助金額	9,320千円	9,797千円	9,391千円	9,160千円	8,315千円																								
事業費	事業費		8年度(予算)	7年度(決算)	6年度(決算)	5年度(決算)																							
			9,800千円	9,320千円	9,797千円	9,391千円																							
	特定財源	国・県支出金	千円	千円	千円	千円																							
		その他	千円	千円	千円	千円																							
	一般財源		9,800千円	9,320千円	9,797千円	9,391千円																							

7年度の 主な実施内容 (実績)	(実施内容・事業費等)				
	申請件数	162件			
	参加者数	21,777人			
	補助金額	9,320,000 円			
成果指標	指標名	目標値（年度）	7年度	6年度	5年度
	申請件数	165件	162件	174件	166件
	参加者数	22,000人	21,777人	19,564人	20,573人
	補助金額	9,800千円	9,320千円	9,797千円	9,391千円
これまでの 取組みに よる効果 (進捗状況)	○	判断理由 及び 具体的な 成果や 課題等	・高齢者数が増加する中で、市からの補助金があるものの実施団体の持ち出しがあることから敬老事業実施にかかる負担軽減等を目的に、実施団体が敬老祝いの対象年齢を見直す動きがある。		
	◎：期待する又は期待以上の効果があった　○：現状維持　△：期待する効果がなかった　―：評価なし				
今後の 方向性	(課題解決のために必要な方策等) 地域特性や実施団体の規模に応じた敬老事業の実施について検討を促すため、効果的な情報提供を行うなど、敬老事業の多様化を推進する。				
8年度の 主な実施内容	区分	(前年度からの拡充・縮小、変更・改善内容等)			
	継続	高齢者を敬愛し、長寿を祝うとともに、地域住民の敬老意識の高揚を図るため、地域開催の敬老会に対し、補助金を交付する。 ○補助金額及び団体内訳			
		世帯数の区分	補助金額	申請件数	金額
		①～100世帯	20,000円	38	760,000円
		②101～300世帯	30,000円	59	1,770,000円
		③301～500世帯	50,000円	18	900,000円
		④501～700世帯	70,000円	13	910,000円
		⑤701～1,000世帯	90,000円	9	810,000円
		⑥1,001～1,500世帯	120,000円	10	1,200,000円
		⑦1,501～2,000世帯	150,000円	7	1,050,000円
		⑧2,001～2,500世帯	200,000円	9	1,800,000円
		⑨2,501～3,000世帯	250,000円	0	0円
		⑩3,001世帯～	300,000円	2	600,000円
				165	9,800,000円
		※令和6年4月より敬老金の支給年齢の見直しに伴い、地域で開催する敬老行事への支援を強化するため、補助金の区分変更を実施。			

第六次総合計画 事業点検シート

事業区分	継続	年度	令和8年度	整理番号	2-2-2-4																								
事業名	老人クラブ連合会補助金			最終更新日	令和8年5月20日																								
実施根拠	春日井市老人クラブ連合会活動促進事業補助金交付要綱			担当課	いきがい推進課																								
関連計画	高齢者総合福祉計画		関連する 附属機関	高齢者総合福祉計画推進協議会																									
総合計画 施策体系	政策分野等	2 健康・福祉			基本計画 重点方針	—																							
	施策等	2 高齢者福祉の充実																											
	基本的な 方向性等	2 高齢者が培ってきた能力や経験を活かし、地域や社会で活躍できる環境づくりを推進するとともに、デジタル技術を取り入れた交流の場や学びの機会を充実し、多様な生きがいづくりや社会参加を促進します。																											
目的・ 事業概要	高齢者の社会活動を促進するため、春日井市老人クラブ連合会が行う事業に対し、補助金を交付するもの。 ○補助事業及び補助金額 <table border="0"> <tr> <td>(1) 会員の資質向上又は文化振興に資する事業</td> <td>194,000円</td> </tr> <tr> <td>(2) 会員の健康増進又はスポーツ振興に資する事業</td> <td>150,000円</td> </tr> <tr> <td>(3) その他連合会の運営に関する事業</td> <td>200,000円+72円×会員数</td> </tr> <tr> <td>(4) 尾張東部地区四市大学講座開催事業費</td> <td>200,000円</td> </tr> </table>					(1) 会員の資質向上又は文化振興に資する事業	194,000円	(2) 会員の健康増進又はスポーツ振興に資する事業	150,000円	(3) その他連合会の運営に関する事業	200,000円+72円×会員数	(4) 尾張東部地区四市大学講座開催事業費	200,000円																
	(1) 会員の資質向上又は文化振興に資する事業	194,000円																											
(2) 会員の健康増進又はスポーツ振興に資する事業	150,000円																												
(3) その他連合会の運営に関する事業	200,000円+72円×会員数																												
(4) 尾張東部地区四市大学講座開催事業費	200,000円																												
事業期間	平成13年度 ～																												
過去の経緯、 主な実績等	連合会に加盟するすべての老人クラブ会員を対象とした各種の行催事を開催するほか、市や警察等行政機関への協力、市社会福祉協議会の行事への参加、連合会役員らによる委員会・協議会等附属機関の委員への就任など、市政や地域に幅広く貢献している。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th><th>R7</th><th>R6</th><th>R5</th><th>R4</th><th>R3</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>クラブ数</td><td>78</td><td>80</td><td>90</td><td>93</td><td>101</td></tr> <tr> <td>会員数</td><td>3,798人</td><td>4,023人</td><td>4,871人</td><td>5,230人</td><td>5,949人</td></tr> <tr> <td>補助金額</td><td>817千円</td><td>834千円</td><td>1,095千円</td><td>921千円</td><td>972千円</td></tr> </tbody> </table>					年度	R7	R6	R5	R4	R3	クラブ数	78	80	90	93	101	会員数	3,798人	4,023人	4,871人	5,230人	5,949人	補助金額	817千円	834千円	1,095千円	921千円	972千円
年度	R7	R6	R5	R4	R3																								
クラブ数	78	80	90	93	101																								
会員数	3,798人	4,023人	4,871人	5,230人	5,949人																								
補助金額	817千円	834千円	1,095千円	921千円	972千円																								
事業費	事業費		8年度(予算)	7年度(決算)	6年度(決算)	5年度(決算)																							
			818千円	817千円	834千円	1,095千円																							
	特定財源	国・県支出金	444千円	444千円	455千円	496千円																							
		その他	千円	千円	千円	千円																							
一般財源		374千円	373千円	379千円	599千円																								

7年度の 主な実施内容 (実績)	(実施内容・事業費等)					
	○補助事業及び補助金額 (1) 会員の資質向上又は文化振興に資する事業 194,000円 (2) 会員の健康増進又はスポーツ振興に資する事業 150,000円 (3) その他連合会の運営に関する事業 200,000円＋72円×3,798人 (4) 尾張東部地区四市大学講座開催事業費 200,000円					
成果指標	指標名		目標値（年度）	7年度	6年度	5年度
	加盟クラブ数		78	78	80	90
	会員数		3,798人	3,798人	4,023人	4,871人
これまでの 取組みに よる効果 (進捗状況)	○	判断理由 及び 具体的な 成果や 課題等	・連合会を構成する老人クラブ数が減少している。近年は会員数の減少に伴うクラブの解散のほか、連合会から脱退する傾向がある。 ・連合会役員の担い手が不足し、連合会役員の選任に苦慮する地区協議会（市内の老人クラブの連合会内における地域区分）もある。 ・連合会主催の行催事は総合福祉センターや総合体育館等で開催されることが多いが、近年は車の運転に不安を抱える会員なども増えており、会場までの交通手段の確保が課題となっている。			
	◎：期待する又は期待以上の効果があった ○：現状維持 △：期待する効果がなかった ー：評価なし					
今後の 方向性	（課題解決のために必要な方策等） 高齢者が増加する一方で、老人クラブの団体数及び会員数は年々減少し、単位クラブとして存続が危ぶまれるケースがあり、新たな老人クラブの活性化策が必要となっている。 単位老人クラブの解散、市老人クラブ連合会からの脱退を防ぐ方策については、連合会中に立ち上げた「検討委員会」と協議しながら検討していく。 また、役員の負担軽減に向け各種事業の縮小や見直しも図る。					
8年度の 主な実施内容	区分	（前年度からの拡充・縮小、変更・改善内容等）				
	継続	新規会員を増やすための方策や役員の負担軽減に向けた事業の見直しを連合会中に立ち上げた「検討委員会」と協議しながら検討する。				

第六次総合計画 事業点検シート

事業区分	継続	年度	令和8年度	整理番号	2-2-2-5																								
事業名	老人クラブ補助金			最終更新日	令和8年5月13日																								
実施根拠	春日井市老人クラブ社会活動促進事業補助金交付要綱、春日井市老人クラブによる地域交流事業補助金交付要綱			担当課	いきかい推進課																								
関連計画	高齢者総合福祉計画		関連する 附属機関	高齢者総合福祉計画推進協議会																									
総合計画 施策体系	政策分野等	2 健康・福祉		基本計画 重点方針	—																								
	施策等	2 高齢者福祉の充実																											
	基本的な 方向性等	2 高齢者が培ってきた能力や経験を活かし、地域や社会で活躍できる環境づくりを推進するとともに、デジタル技術を取り入れた交流の場や学びの機会を充実し、多様な生きがいづくりや社会参加を促進します。																											
目的・ 事業概要	【春日井市老人クラブ社会活動促進事業補助金】 高齢者の知識及び経験を生かし、生きがいと健康づくりのための多様な社会活動を通じ、老後の生活を豊かなものとするとともに、明るい長寿社会づくりに資するため、老人クラブが行う社会活動促進事業に対し、補助金を交付するもの。 ○補助対象 ・会員数（概ね60歳以上の者）は概ね30人以上であること ・代表者1名を置くとともに、必要に応じて役員を置いていること ・会員から会費を徴収していること ○補助金額 （3,880円×活動月数）＋（200円×会員数） ○実施内容 ①ボランティア活動、②生きがいづくり活動、③健康づくり活動 ④その他社会活動 【春日井市老人クラブによる地域交流事業補助金】 老人クラブ及び地域コミュニティの活性化を図るため、高齢者が培ってきた知識及び経験を活かし、老人クラブが他の任意団体と協働して地域の多世代との交流の場を提供する事業に対し、補助金を交付するもの。 ○補助対象 ・子ども会、PTA等の他の任意団体と協働して実施する事業 ・多世代が交流する事業 ○補助金額 1事業者につき年額50,000円以内 ○実施内容 老人クラブが他の任意団体と協働して地域の多世代との交流の場を提供する事業																												
	事業期間																												
過去の経緯、 主な実績等	【春日井市老人クラブ社会活動促進事業補助金】 各老人クラブでの事業が促進され、地域における清掃活動や登下校時の見守り活動等の社会活動が広く展開されている。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th><th>R7</th><th>R6</th><th>R5</th><th>R4</th><th>R3</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>クラブ数</td><td>78</td><td>80</td><td>90</td><td>93</td><td>101</td></tr> <tr> <td>会員数</td><td>3,798人</td><td>4,023人</td><td>4,871人</td><td>5,230人</td><td>5,949人</td></tr> <tr> <td>補助金額</td><td>4,391千円</td><td>4,529千円</td><td>5,165千円</td><td>5,376千円</td><td>5,892千円</td></tr> </tbody> </table>					年度	R7	R6	R5	R4	R3	クラブ数	78	80	90	93	101	会員数	3,798人	4,023人	4,871人	5,230人	5,949人	補助金額	4,391千円	4,529千円	5,165千円	5,376千円	5,892千円
	年度	R7	R6	R5	R4	R3																							
クラブ数	78	80	90	93	101																								
会員数	3,798人	4,023人	4,871人	5,230人	5,949人																								
補助金額	4,391千円	4,529千円	5,165千円	5,376千円	5,892千円																								
【春日井市老人クラブによる地域交流事業補助金】 老人クラブが他の任意団体と協働して地域の多世代との交流の場を提供する事業を実施している（令和3年度から実施）。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th><th>R7</th><th>R6</th><th>R5</th><th>R4</th><th>R3</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>申請団体</td><td>3</td><td>3</td><td>4</td><td>3</td><td>3</td></tr> <tr> <td>参加人数</td><td>139人</td><td>389人</td><td>353人</td><td>517人</td><td>290人</td></tr> <tr> <td>補助金額</td><td>150千円</td><td>150千円</td><td>200千円</td><td>150千円</td><td>150千円</td></tr> </tbody> </table>						年度	R7	R6	R5	R4	R3	申請団体	3	3	4	3	3	参加人数	139人	389人	353人	517人	290人	補助金額	150千円	150千円	200千円	150千円	150千円
年度	R7	R6	R5	R4	R3																								
申請団体	3	3	4	3	3																								
参加人数	139人	389人	353人	517人	290人																								
補助金額	150千円	150千円	200千円	150千円	150千円																								
事業費	事業費		8年度(予算)	7年度(決算)	6年度(決算)	5年度(決算)																							
			4,602千円	4,550千円	4,679千円	5,365千円																							
	特定財源	国・県支出金	1,728千円	1,728千円	1,746千円	1,853千円																							
		その他	千円	千円	千円	千円																							
	一般財源		2,874千円	2,822千円	2,933千円	3,512千円																							

7年度の 主な実施内容 (実績)	(実施内容・事業費等) 【春日井市老人クラブ社会活動促進事業補助金】 ○補助対象 78クラブ ○補助金額 3,880円×12か月×80クラブ+200円×3,798人 【春日井市老人クラブによる地域交流事業補助金】 ○補助対象 3クラブ ○補助金額 50,000円×3クラブ ○実施内容 ラジオ体操・太極拳等による多世代交流 ○参加者数 延べ139人					
成果指標	指標名		目標値（年度）	7年度	6年度	5年度
	補助金交付クラブ数		78	78	80	90
	会員数		3,798人	3,798人	4,023人	4,871人
	地域交流事業補助金 参加者数		150人	139人	389人	353人
これまでの 取組みに よる効果 (進捗状況)	○	判断理由 及び 具体的な 成果や 課題等	【春日井市老人クラブ社会活動促進事業補助金】 ・老人クラブの加入要件の年齢に達する人が増えているが、老人クラブの会員数は平成12年の9,975人をピークに年々減少している。 ・老人クラブの役員や会員の高齢化によりクラブの維持が困難になり、クラブ数の減少や会員数の減少につながっている。 【春日井市老人クラブによる地域交流事業補助金】 ・他の任意団体と協働して多世代交流事業を実施することで、老人クラブ及び地域コミュニティの活性化につながった。			
	◎：期待する又は期待以上の効果があった ○：現状維持 △：期待する効果がなかった —：評価なし					
今後の 方向性	(課題解決のために必要な方策等) 【春日井市老人クラブ社会活動促進事業補助金】 高齢者が増加する一方で、老人クラブの団体数及び会員数は年々減少しており、新たな老人クラブの活性化策が必要となっている。 持続可能な老人クラブのあり方について、各クラブから課題を吸い上げ、必要な支援体制及び新たな活性化策を検討する。 新規会員を増やすための魅力ある取り組みを、市老人クラブ連合会中に立ち上げた「検討委員会」と協議しながら検討する。 【春日井市老人クラブによる地域交流事業補助金】 多世代交流と地域コミュニティの活性化を図るため、地域交流事業を継続する。					
8年度の 主な実施内容	区分	(前年度からの拡充・縮小、変更・改善内容等)				
	継続	新規会員を増やすための方策や役員の負担軽減に向けた事業の見直しを連合会中に立ち上げた「検討委員会」と協議しながら検討する。				

第六次総合計画 事業点検シート

事業区分	継続	年度	令和8年度	整理番号	2-2-2-6																																																	
事業名	シルバー人材センター補助			最終更新日	令和8年5月13日																																																	
実施根拠	春日井市高齢者能力活用推進事業補助金交付要綱			担当課	いきがい推進課																																																	
関連計画	高齢者総合福祉計画		関連する 附属機関	高齢者福祉計画推進協議会																																																		
総合計画 施策体系	政策分野等	2 健康・福祉			基本計画 重点方針	—																																																
	施策等	2 高齢者福祉の充実																																																				
	基本的な 方向性等	2 高齢者が培ってきた能力や経験を活かし、地域や社会で活躍できる環境づくりを推進するとともに、デジタル技術を取り入れた交流の場や学びの機会を充実し、多様な生きがいづくりや社会参加を促進します。																																																				
目的・ 事業概要	公益社団法人春日井市シルバー人材センターが行う事業で、臨時的かつ短期的な就業の機会を提供することにより、自らの生きがいの充実や社会参加を希望する高齢者の福祉の増進を図る。 また、高齢者が活躍できる拠点としての機能を担うため、高齢者に関する各種の相談に応ずるとともに、健康の増進、教養の向上及びレクリエーションのための講座の委託を実施し、高齢者の生きがいづくりや社会参加を推進する。																																																					
	事業期間	平成12年度 ～																																																				
過去の経緯、 主な実績等	会員数も増加し、就業延べ人員についても増加しており、一定の事業成果を挙げている。 <table border="1"> <tr> <td>年度</td><td>R7</td><td>R6</td><td>R5</td><td>R4</td><td>R3</td></tr> <tr> <td>会員数</td><td>783人</td><td>783人</td><td>776人</td><td>758人</td><td>740人</td></tr> <tr> <td>受注件数</td><td>3,259人</td><td>3,475件</td><td>3,669件</td><td>3,784件</td><td>3,666件</td></tr> <tr> <td>就業延べ人員</td><td>50,437人</td><td>54,697人</td><td>59,103人</td><td>59,644人</td><td>56,852人</td></tr> <tr> <td>補助金額</td><td>28,500千円</td><td>28,500千円</td><td>27,500千円</td><td>27,500千円</td><td>28,500千円</td></tr> </table> 令和元年度より、高齢者が活躍できる拠点としての機能を担うため、高齢者活躍拠点事業として、高齢者の健康増進、生きがいづくり等に関する講座をシルバー人材センターに実施を委託していたが、令和3年度からは、シルバー人材センター補助事業として予算を計上し委託することとなった。 <table border="1"> <tr> <td>年度</td><td>R7</td><td>R6</td><td>R5</td><td>R4</td><td>R3</td></tr> <tr> <td>回数</td><td>13回</td><td>13回</td><td>13回</td><td>11回</td><td>10回</td></tr> <tr> <td>参加人数</td><td>115人</td><td>107人</td><td>119人</td><td>94人</td><td>83人</td></tr> </table>						年度	R7	R6	R5	R4	R3	会員数	783人	783人	776人	758人	740人	受注件数	3,259人	3,475件	3,669件	3,784件	3,666件	就業延べ人員	50,437人	54,697人	59,103人	59,644人	56,852人	補助金額	28,500千円	28,500千円	27,500千円	27,500千円	28,500千円	年度	R7	R6	R5	R4	R3	回数	13回	13回	13回	11回	10回	参加人数	115人	107人	119人	94人	83人
	年度	R7	R6	R5	R4	R3																																																
	会員数	783人	783人	776人	758人	740人																																																
	受注件数	3,259人	3,475件	3,669件	3,784件	3,666件																																																
	就業延べ人員	50,437人	54,697人	59,103人	59,644人	56,852人																																																
	補助金額	28,500千円	28,500千円	27,500千円	27,500千円	28,500千円																																																
	年度	R7	R6	R5	R4	R3																																																
回数	13回	13回	13回	11回	10回																																																	
参加人数	115人	107人	119人	94人	83人																																																	
事業費	事業費		8年度(予算)	7年度(決算)	6年度(決算)	5年度(決算)																																																
			28,200千円	28,700千円	28,700千円	27,700千円																																																
	特定財源	千円	千円	千円	千円	千円																																																
		千円	千円	千円	千円	千円																																																
		一般財源	28,200千円	28,700千円	28,700千円	27,700千円																																																

7年度の 主な実施内容 (実績)	(実施内容・事業費等) 高齢者能力活用推進事業補助金を通して、シルバー人材センターのより適切な運営を進めることにより、高齢者の多様な就労ニーズに対応した。 シルバー人材センター補助事業として、市老人クラブ連合会員及びシルバー人材センター会員を対象とした、高齢者の教養の向上及びレクリエーション等に資する講座の委託を実施した。					
成果指標	指標名		目標値（年度）	7年度	6年度	5年度
	登録者数		790人	783人	783人	776人
	就業延人員		51,000人	50,437人	54,697人	59,103人
	講座参加人数		120人	115人	107人	119人
	補助金額		28,200千円	28,700千円	28,700千円	27,700千円
これまでの 取組みに よる効果 (進捗状況)	○	判断理由 及び 具体的な 成果や 課題等	高齢者が生涯現役で活躍できる環境を整備する必要があり、就労支援は重要な課題である。 シルバー人材センターの移転により、新たに高齢者が活躍できる拠点機能が求められており、同法人の機能強化を促進するとともに、高齢者のいきがいづくり講座の委託を実施する。			
	◎：期待する又は期待以上の効果があった ○：現状維持 △：期待する効果がなかった ー：評価なし					
今後の 方向性	(課題解決のために必要な方策等) 高齢者が生涯現役で活躍できる環境を整備する必要があり、就労支援は重要な課題である。 高齢者が活躍できる拠点機能が求められており、シルバー人材センターの機能強化を促進するとともに、高齢者の生きがいづくり講座の委託を実施する。					
8年度の 主な実施内容	区分	(前年度からの拡充・縮小、変更・改善内容等)				
	継続					

第六次総合計画 事業点検シート

事業区分	継続	年度	令和8年度	整理番号	2-2-2-7	
事業名	高齢者体育振興			最終更新日	令和8年5月13日	
実施根拠	全国健康福祉祭出場者激励費支給要綱			担当課	いきがい推進課	
関連計画	—		関連する 附属機関	—		
総合計画 施策体系	政策分野等	2 健康・福祉		基本計画 重点方針	—	
	施策等	2 高齢者福祉の充実				
	基本的な 方向性等	2 高齢者が培ってきた能力や経験を活かし、地域や社会で活躍できる環境づくりを推進するとともに、デジタル技術を取り入れた交流の場や学びの機会を充実し、多様な生きがいづくりや社会参加を促進します。				
目的・ 事業概要	○全国健康福祉祭出場者への激励費支給 全国健康福祉祭に選手として出場する者の活躍を激励するとともに、市民の模範となる活動を推進するため、市長から激励費を支給する（激励費5,000円／人）。 ※令和8年度から「春日井市文化スポーツイベント補助金要綱」との均衡等を図るため激励費を10,000円から5,000円に見直した。					
	事業期間					
過去の経緯、 主な実績等	○全国健康福祉祭出場者への激励費支給 毎年開催される全国健康福祉祭出場者の中には、上位入賞となる方がいる。 R5年度 入賞者なし R6年度 水泳 50mバタフライ男 80～84歳 第2位 サッカー 愛知シニア60 Hブロック 準優勝 R7年度 水泳 50m平泳ぎ女 75～79歳 第3位 サッカー 愛知シニア60 Mブロック 準優勝 ディスクゴルフ：女性 70歳代の部 優勝					
事業費	事業費		8年度(予算)	7年度(決算)	6年度(決算)	5年度(決算)
			51千円	100千円	70千円	80千円
	特定財源	国・県支出金	千円	千円	千円	千円
		その他	千円	千円	千円	千円
	一般財源		51千円	100千円	70千円	80千円

7年度の 主な実施内容 (実績)	(実施内容・事業費等) 全国健康福祉祭ぎふ大会（ねんりんピック岐阜 2025）に、10 名が出場した。					
成果指標	指標名		目標値（年度）	7 年度	6 年度	5 年度
	全国健康福祉祭出場者数		10人	10人	7人	8人
これまでの 取組みに よる効果 (進捗状況)	○	判断理由 及び 具体的な 成果や 課題等	・全国健康福祉祭に選手として出場する者の活躍を激励するとともに、市民の模範となる活動を推進するため、市長から激励費を支給する。 ・過去には、上位入賞を果たした出場者もいる。			
			◎：期待する又は期待以上の効果があった ○：現状維持 △：期待する効果がなかった ー：評価なし			
今後の 方向性	(課題解決のために必要な方策等) ・全国健康福祉祭に選手として出場する者の活躍を激励するとともに、市民の模範となる活動を推進するため、市長から激励費を支給する。					
8年度の 主な実施内容	区分	(前年度からの拡充・縮小、変更・改善内容等)				
	継続	○全国健康福祉祭埼玉大会（ねんりんピック彩の国 2026）に、選手として出場する者の活躍を激励するとともに、市民の模範となる活動を推進するため、市長から激励費を支給する。				

第六次総合計画 事業点検シート

事業区分	拡充	年度	令和8年度		整理番号	2-2-2-8	
事業名	かすがいいいききポイント事業				最終更新日	令和8年5月20日	
実施根拠	かすがいいいききポイント事業実施要項				担当課	いきがい推進課	
関連計画	高齢者総合福祉計画		関連する 附属機関	高齢者総合福祉計画推進協議会			
総合計画 施策体系	政策分野等	2 健康・福祉			基本計画 重点方針	—	
	施策等	2 高齢者福祉の充実					
	基本的な 方向性等	2 高齢者が培ってきた能力や経験を活かし、地域や社会で活躍できる環境づくりを推進するとともに、デジタル技術を取り入れた交流の場や学びの機会を充実し、多様な生きがいつくりや社会参加を促進します。					
目的・ 事業概要	【目的】 65歳以上の市民の方に、対象となる趣味活動や地域活動などを行った際に、電子マネーに交換できるポイントを付与することにより、高齢者のいきがいつくりを支援するとともに継続的な社会参加を促進する。 【事業概要】 利用者が、対象公共施設においてポイント付与対象となる活動等をした際、会場内に掲示してるQRコードをスマホのアプリで読み込むことでポイントが付与される。また、一定のポイントが貯まると、電子マネーに交換できる。なお、貯まったポイントは一部の施設で施設使用料としても使用可能。						
	事業期間	令和6年度 ～					
過去の経緯、 主な実績等	ポイント付与対象公共施設						
	施設名		開始日	施設名		開始日	
	市民活動支援センター	令和7年1月16日	総合福祉センター	令和7年4月16日			
	味美ふれあいセンター		福祉の里レインボープラザ				
	高蔵寺ふれあいセンター		福祉文化体育館				
	南部ふれあいセンター		レディヤンかすがい				
	西部ふれあいセンター		保健センター				
	中央公民館		総合保健医療センター				
	知多公民館		老人憩いの家（全15施設）	令和7年8月6日			
	鷹来公民館		グリーンパレス春日井	令和7年8月13日			
	坂下公民館		落合公園体育館				
	青年の家		総合体育館	令和7年9月6日			
	東部市民センター		春日井市シルバー人材センター	令和8年1月13日			
事業費	事業費		8年度(予算)	7年度(決算)	6年度(決算)	5年度(決算)	
			13,937千円	10,690千円	12,405千円	千円	
	特定財源	国・県支出金	5,226千円	4,009千円	5,896千円	千円	
		その他	6,969千円	5,345千円	1,222千円	千円	
	一般財源		1,742千円	1,336千円	5,287千円	千円	

7年度の 主な実施内容 (実績)	(実施内容・事業費等) ・ポイント付与対象施設 22 施設 ・アプリ登録者数 3,198 人 ・ポイント付与 5,675,300 ポイント ・ポイント使用 (1)電子マネー交換 3,465,000 ポイント (2)施設使用料 20,300 ポイント【温水プール(トレーニング室)】					
成果指標	指標名		目標値(年度)	7年度	6年度	5年度
	アプリ登録者数		4,500人	3,198人	947人	－
これまでの 取組みに よる効果 (進捗状況)	○	判断理由 及び 具体的な 成果や 課題等	【判断理由】 プロポーザル実施により選定した事業者への委託のもと、いきいきポイント専用のアプリを開発し、ほぼ想定どおりの利用者数を達成している。 【課題】 アプリ登録者の増加や利用促進のため、対象施設やイベントを充実し、より多くの高齢者に生涯学習活動や地域活動への参加を促す。			
			◎：期待する又は期待以上の効果があった ○：現状維持 △：期待する効果がなかった ー：評価なし			
今後の 方向性	(課題解決のために必要な方策等) ポイント付与の対象となる活動範囲、ポイント管理・交換等について、より効果的な事業の在り方について検討していく必要がある。 また、ポイントの不正な取得や電子マネーへの交換などがないよう、その余地について考えるとともに、対策を講じる必要がある。					
8年度の 主な実施内容	区分	(前年度からの拡充・縮小、変更・改善内容等)				
	拡充	【ポイント付与の対象施設や事業を拡充】 4月 朝宮公園(フィットネススタジオ) 5月 サンフロッグ(プール・トレーニング室) 6月 福祉の里トレーニング室 他課に施設及びイベント等希望調査実施 (以後、随時付与開始) 10月 各老人クラブでの付与開始 2月 アンケート実施 (コミュニティ活動参加、老人クラブ等)				

政策分野等	4 市民活動・共生・文化・スポーツ	更新日	令和8年5月10日
施策等	1 地域コミュニティの活性化と市民参加の促進	担当部	いきがい創生部
基本的な方向性等	3 地域の課題解決や活力の創出に自発的に取り組む市民活動団体を支援するほか、これらの活動への関心を高め、人を思いやり手を差し伸べることが生きがいにつながる生活文化の醸成を図ります。		

施策を構成する事業						
番号	事業名	8年度 事業区分	事業費（千円）		継続 評価	担当課
			7年度 （決算）	8年度 （予算）		
1	市民活動支援の推進 （市民活動支援センター事業）	継続	6,479	6,679	○	市民活動支援センター
事業費合計			6,479	6,679		

関連する 総合計画 成果指標	指標名	直近値（年度）	目標
	地域活動やボランティア活動に参加している人の割合（％）	44.1 (2021 年度)	55.0 (2026 年度)

総合計画成果指標や施策を構成する事業の成果に基づく効果検証			
効果 (進捗状況)	◎	◎：期待する又は期待以上の成果があった ○：現状維持 △：期待する成果がなかった	
理由 (主な成果 や課題を踏 まえた効果 検証等)	・ささえ愛センターまつりを市主催から市民活動登録団体が立ち上げた実行委員会での開催に移行することで、市民活動団体相互の連携・協力が推進した。 ・市民活動団体の認知度等の向上のため、これまでの会場以外に市内商業施設でパネル展やワークショップを行い、情報発信を行うことができた。 ・高齢化により活動継続を不安視する団体が増加しているため、市民活動を担える若者や現役世代を発掘、育成するセミナーを開催し、予定人数上の受講者が参加し、新たに団体を立ち上げる受講者が現れる等効果があった。		
今後の 方向性 (課題解決 の方策等)	施策の取組方針	◎	◎重点・強化 ○維持 △縮小
	・登録団体相互の連携や協働を促進させていくために、登録団体が主体的に活動できる環境の整備を進める。 ・青少年ボランティアスクールや親子でボランティアチャレンジ等の市民活動体験事業を継続して実施していくことで、春日井市社会福祉協議会や市民活動団体と協働し、市民活動の認知度向上に取り組んでいく。 ・専門知識や経験、スキルを有する民間事業者を活用して市民活動を支える人材の発掘・育成を行うとともに、育成した人材が活躍できる環境の整備を進め本市の市民活動支援が継続的かつ効果的に実施できるよう支援体制を構築する。 ・柔軟で継続的な支援が行えるよう専門的な知識やスキル、経験を有する民間事業者による指定管理とする。		

関連する附属機関の意見等

第六次総合計画 事業点検シート

事業区分	継続	年度	令和8年度	整理番号	4-1-3-1	
事業名	市民活動支援の推進 (市民活動支援センター事業)			最終更新日	令和8年5月10日	
実施根拠	—			担当課	市民活動支援センター	
関連計画	—		関連する 附属機関	—		
総合計画 施策体系	政策分野等	4 市民活動・共生・文化・スポーツ		基本計画 重点方針	—	
	施策等	1 地域コミュニティの活性化と市民参加の促進				
	基本的な 方向性等	3 地域の課題解決や活力の創出に自発的に取り組む市民活動団体を支援するほか、これらの活動への関心を高め、人を思いやり手を差し伸べることが生きがいにつながる生活文化の醸成を図ります。				
目的・ 事業概要	【目的】 - 市民活動団体の活動目的や内容に応じた支援や市民への情報発信により、団体の活動力や認知度、信頼性を向上させるとともに、持続的な活動の促進を図る。 【事業概要】 - 市民活動団体の活動状況を把握することで、団体に応じた支援を行うとともに、各団体の特徴を活かした連携の促進を図る。 - 登録団体が青少年ボランティアスクールやパネル展などの市民活動支援センターの事業に積極的に関わることで市民協働を推進する。 - 登録団体等が利用できる全自動印刷機や大判プリンターなどを作業コーナーに設置し、団体の総会資料やイベントポスターの作成などの活動支援を行う。 - 市民活動団体を育成するためのセミナーや活動を支援する人材育成等を行い、団体活動の継続や促進及び人材の確保や育成を図る。 - かすがい市民活動情報サイトの管理運営及び情報紙の発行、Xへの投稿、パネル展の開催などにより、幅広く情報発信を行う。					
	事業期間	平成19年度 ～				
過去の経緯、 主な実績等	平成16年度	春日井市社会福祉協議会との共催により「青少年ボランティアスクール（中学生～大学生）」を開始。				
	平成19年度	- 市民活動支援センターを開設し、市内で活動する市民活動団体の登録を開始。 - 全自動印刷機を設置。 - 登録団体の会員や税理士などが講師になり、団体の組織運営、団体の会計・経理処理、助成金、情報サイト活用など様々な分野をテーマとしたセミナーを実施。				
	平成20年度	- かすがい市民活動情報サイトの運用開始。 - 市民への啓発や団体同士の交流を図るささえ愛センターまつりの実施。				
	平成22年度	「ささえ愛センターだより」と「NPO・ボランティア情報」を統合し、情報紙「ささえ愛」を発行。				
	平成25年度	- 登録団体相互の連携・協力を目指し、ささえ愛センター市民交流会議を創設。 - 市民交流会議が主体的自主的に行う交流会やセミナーの開催を支援。 - 一般の市民が市民活動支援センターの事業に関わる「ささえ愛センターサポーター制度」を創設。				
	平成26年度	- 市民がボランティアの体験ができる「オトナのボランティアスクール」を開始。 - 市民交流会議に市民活動・NPO相談を委託。 - 社会福祉協議会ボランティアセンターと連携し施設及び設備の相互利用を開始。				
	平成27年度	「青少年ボランティアスクール」の対象者と内容を見直し。（小学5年生～高校生） 「オトナのボランティアスクール」の対象者を見直し。（18歳以上[大学生含む]）				
	平成28年度	情報紙「ささえ愛」をささえ愛センターサポーター主体での作成に運用変更。				
	令和2年度	アウトリーチによる活動支援を開始。				
	令和4年度	かすがい市民活動情報サイトのリニューアル。				
	令和6年度	「オトナのボランティアスクール」の内容等を見直し、「親子でボランティアチャレンジ」として実施。 - 民間商業施設サンマルシェで初めてパネル展示会とワークショップを開催。 - 市民交流会議が3月に解散。				
	令和7年度	かすがい次世代まちづくりリーダー育成事業を開催。				
事業費	事業費		8年度(予算)	7年度(決算)	6年度(決算)	5年度(決算)
			6,679千円	6,479千円	4,118千円	16,288千円
	特定財源	国・県支出金	0円	0円	0円	0円
		その他	0円	0円	0円	0円
一般財源		6,679千円	6,479千円	4,118千円	16,288千円	

第六次総合計画 事業点検シート

7年度の 主な実施内容 (実績)	(実施内容・事業費等)					
	・アウトリーチにより登録団体の活動における諸課題を把握し、他部署と共有、連携して課題を解決したことで、団体の活動が充実。 ・子どもたちにボランティアの体験をしてもらうため、登録団体の協力を得て青少年ボランティアスクール(8月 延べ参加人数219人)、親子でボランティアチャレンジ(10月 延べ参加人数14組28人)事業を実施。 ・市民活動セミナー2講座(参加73人)の実施。 ・登録団体が連携して実行委員会を立ち上げ、ささえ愛センターまつりを開催。 (令和8年4月26日に開催済) ・登録団体の活動を市民に広く紹介するパネル展示会について開催場所を拡充して実施。(市役所市民ホール[6月]、サンマルシェ[8月]、市民活動支援センター[10月]、高蔵寺ふれあいセンター[11月]、イオン春日井[12月]) ・若い世代の市民活動参加のきっかけづくりのため、近隣大学とボランティア活動について連携。また、連携先を6大学から7大学へ拡充。(延べ参加人数35人) ・市民活動を担う人材の発掘・育成のため、大学生及び20～50代の現役世代を対象にかすがいまちづくりリーダー育成事業を実施。(延べ人数211人)					
成果指標	指標名		目標値(年度)	7年度	6年度	5年度
	来館者数		40,000人(10年度)	30,422人	27,678人	38,733人
	新規登録団体数		20団体(10年度)	11団体	12団体	15団体
	サイトアクセス件数		85,000件(10年度)	89,438件	88,487件	84,431件
これまでの 取組みに よる効果 (進捗状況)	◎	判断理由 及び 具体的な 成果や 課題等	・かすがい市民活動情報サイトへの更新を促すことで情報が常に更新される状況となり、市民のアクセス数増加につながった。 ・登録するメリットをPRし、新規団体登録数の増加につなげる。 ・新規に実施した商業施設でのパネル展示会においては、出展した団体に対して問い合わせや入会が増える等、活動を知ってもらえる良い機会となった。 ・新規事業のかすがい次世代まちづくりリーダー育成事業により、活動を担う現役世代の人材発掘・育成を行うことができた。			
	◎：期待する又は期待以上の効果があった ○：現状維持 △：期待する効果がなかった ー：評価なし					
今後の 方向性	(課題解決のために必要な方策等)					
・登録団体相互の連携や協働を促進させていくために、登録団体が主体的に活動できる環境の整備を進める。 ・ボランティアの活動体験で終わるのではなく、市民活動に興味をもってもらい団体の活動に参加するきっかけとなるように取り組んでいく。 ・社会福祉協議会ボランティアセンター登録団体との連携を深め、相互にイベント協力などを行ない市民活動・ボランティアを担う人材の幅広い交流を図る。 ・近隣大学と連携し、学生が市民活動への興味を持ち参加してもらえるように情報発信を積極的に行いPRしていく。 ・発掘、育成した市民活動を担う若者や現役世代が活躍できる環境の整備を進めるとともに、市民活動を支援する人材の発掘・育成を行い、市民活動支援が継続的かつ効果的に実施できるような体制を構築する。						
8年度の 主な実施内容	区分	(前年度からの拡充・縮小、変更・改善内容等)				
	拡充	・次世代まちづくりリーダー育成(市民活動支援編)事業委託により、専門知識や経験、スキルを有する民間事業者を活用して、若者や現役世代を対象に次世代の市民活動を支援する人材の発掘及び育成を行う。 ・パネル展示会の開催場所や回数を見直し、充実を図る。 ・新規入会や問い合わせなどが多くあった商業施設でのパネル展示会の充実を図る。 ・市民活動の継続的かつ効果的な支援のため、センターの運営を令和9年度から民間事業者による指定管理とする準備を進める。				

政策分野等	4 市民活動・共生・文化・スポーツ	更新日	令和8年5月15日
施策等	3 文化・スポーツ・生涯学習の推進	担当部	いきがい創生部
基本的な方向性等	1 書道文化の振興や地域文化財の保存と活用を図るとともに、文化芸術に親しむ機会や場の充実と文化芸術活動を担う人材の育成を促進し、誰もが文化芸術に親しむことができる環境づくりを推進します。		

施策を構成する事業						
番号	事業名	8年度 事業区分	事業費（千円）		継続 評価	担当課
			7年度 （決算）	8年度 （予算）		
1	市民美術展覧会	継続	4,693	4,700	○	文化スポーツ振興課
2	文化ボランティア （市民メセナ活動支援）	継続	53	63	○	文化スポーツ振興課
3	市民第九演奏会	継続	6,800	7,530	○	文化スポーツ振興課
4	短詩型文学祭	継続	1,612	1,625	○	文化スポーツ振興課
5	道風展	継続	2,500	2,600	○	文化スポーツ振興課
6	「書のまち春日井」発信	継続	10,626	10,967	◎	文化スポーツ振興課
7	文化活動事業助成	継続	2,727	3,957	○	文化スポーツ振興課
8	文化芸術選奨	継続	11	16	○	文化スポーツ振興課
9	鑑賞事業 （文化財団運営費補助）	継続	103,261	149,756	◎	文化スポーツ振興課 （文化財団）
10	自分史事業 （文化財団運営費補助）	継続	2,177	3,464	○	文化スポーツ振興課 （文化財団）
11	かすがいどこでもア ート・ドア （文化財団運営費補助）	継続	2,417	3,255	◎	文化スポーツ振興課 （文化財団）
12	道風記念館展示 （道風記念館事業）	継続	5,396	4,076	○	道風記念館
13	道風記念館講座 （道風記念館事業）	継続	472	504	○	道風記念館
14	道風の書臨書作品展 （道風記念館事業）	継続	1,355	1,463	○	道風記念館
15	道風記念館だより （道風記念館事業）	継続	367	238	○	道風記念館
16	道風記念館グッズ販売 （道風記念館事業）	継続	472	400	○	道風記念館
事業費合計			144,827	194,489		

関連する 総合計画 成果指標	指標名	直近値（年度）	目標
	文化・スポーツ活動や生涯学習に関する団体の会員数（人）	47,095 （2025 年）	60,300 （2026 年）

総合計画成果指標や施策を構成する事業の成果に基づく効果検証			
効果 （進捗状況）	○	◎：期待する又は期待以上の成果があった ○：現状維持 △：期待する成果がなかった	
理由 （主な成果 や課題を踏 まえた効果 検証等）	書になじみの薄い年齢層にも生活の中で「書のまち春日井」を感じてもらう取組みとして、令和3年度から実施している新生児への書家揮毫命名紙入り写真立ての贈呈について、保護者からは、「書のまち春日井らしいプレゼントで、記念に残る」などの感想をいただいている。 その他、ヨロッカ春日井（旧イースス春日井）等での書道パフォーマンスの披露や、商業施設や文化施設で書を体験できるイベント、親子向け体験教室、書家派遣事業を行うなど、実際に筆を持って書く機会及び書を身近に感じていただけるような機会の提供も幅広く行うことができた。また、小学校の書道科で活用できるよう、「書のまち春日井と小野道風」についてのパンフレット（中学年向けと高学年向けの2種類）を作成し継続して配付することができた。その他、マスコットキャラクター「道風くん」は幼年層を中心に幅広い世代に認知されるようになり、商標及び着ぐるみの貸出件数も高い水準を保っている。 文化財団の自主事業を中心に、文化芸術鑑賞機会の提供を行った。また、文化芸術事業に足を運ぶ機会の少ない市民を対象とした「かすがいどこでもアート・ドア」等も実施した。その他、文化芸術活動を支援するため、市民美術展覧会・短詩型文学祭・市民第九演奏会など発表及び鑑賞機会の提供、文化協会や市交響楽団等の文化団体への活動補助などを行った。 文化芸術選奨として本市の文化芸術の向上発展に貢献している個人又は団体を表彰することで、広く市民の文化芸術に対する関心を高め、本市の文化芸術の振興を図ることができた。		
今後の 方向性 （課題解決 の方策等）	施策の取組方針	○	◎重点・強化 ○維持 △縮小
	高齢化とともに書道文化に関心の高い年齢層が減少する傾向にあり、これまで書になじみの薄かった層にも関心を広める取組みが必要であるため、商業施設で書道パフォーマンスを実施し、その揮毫作品を市内施設で展示したり、多くの人が集まる機会に書道体験イベントを行う他、書に関する講座を充実させていく。 新生児への書家揮毫命名紙入り写真立てについては、令和3年度の事業開始から5年が経過し、好評を得ている一方、写真立ての値上がりや揮毫する書家の負担などの課題もあり、費用対効果を鑑みて事業の見直しを検討する。 市民美術展覧会や市民第九演奏会など発表機会の提供及び文化団体への活動補助等を続けているが、少子化・高齢化のため、参加者が減少する傾向にある。いずれも新規の参加者獲得を目指して、PRの強化や体験講座の開催など行っている。事業によっては、効果が上がっているものの、団体会員数の減少が抑えられない状況である。 文化芸術選奨については、引き続き広く周知を行い、制度の浸透を図っていく。		

関連する附属機関の意見等
（春日井市文化振興審議会） - 子どもたちに焦点を当てたイベントを実施している点は評価できる。文化財や民俗芸能を将来にわたり保存・継承していくためには、こうした次世代育成の取組をさらに拡充することが重要である。今後は、地域の歴史をより深く実感できる場づくりや、文化施設の効果的な活用策についても検討されたい。 （道風記念館運営協議会） - 常設展について、解説がわかりやすくなったり、キャプションが大きくなったりと展覧会に改善や工夫がみられ、みる側にとってありがたい展示となっている。新たに2階に設置された、展覧会に関連した図書コーナーなど、見る側に寄り添った取り組みが増えており、良いと思う。 - 企画展「書の魅力」では、講演会の開催が予定されているなど、予算削減で苦労がある中でもいろいろと工夫をしているようだ。企画展「書の魅力」の目的である書の鑑賞法を広く伝えるというのは、館にとって大切なことである。頑張ってもらいたい。 - 書道人口を、低年齢の段階から育てていく必要がある。春日井市では小学校1年生から毛筆に触れる取り組みをしている。これらが続けていけるようお願いしたい。そのためには、教育委員会との連携も大切だと考える。

第六次総合計画 事業点検シート

事業区分	継続	年度	令和8年度	整理番号	4-3-1-1																												
事業名	市民美術展覧会			最終更新日	令和8年5月13日																												
実施根拠	春日井市民美術展覧会規約			担当課	文化スポーツ振興課																												
関連計画	第2次かすがい市民文化振興プラン		関連する 附属機関																														
総合計画 施策体系	政策分野等	4 市民活動・共生・文化・スポーツ		基本計画 重点方針	—																												
	施策等	3 文化・スポーツ・生涯学習の推進																															
	基本的な 方向性等	1 書道文化の振興や地域文化財の保存と活用を図るとともに、文化芸術に親しむ機会や場所の充実と文化芸術活動を担う人材の育成を促進し、誰もが文化芸術に親しむことができる環境づくりを推進します。																															
目的・ 事業概要	【目的】 市民が制作した美術作品の発表と鑑賞の場を設けることにより、市民文化の向上を図る。 【事業概要】 1 主催 春日井市、春日井市教育委員会 2 委託先 (公財) かすがい市民文化財団 3 部門 日本画、洋画、書、彫塑工芸、写真 4 出品料 無料 5 会場 市役所11・12階、 文芸館ギャラリー・視聴覚ホール・交流アトリウム 6 会期 8月下旬の9日間 ※表彰式・開会式は会期初日に開催																																
	事業期間	昭和20年度～																															
過去の経緯、 主な実績等	【過去の経緯】 - 市制施行後間もない昭和20年度に開始し、長い歴史に培われた市民参加の美術展覧会として親しまれ、市民文化の振興に貢献している。 - 平成12年度から従来の市役所会場に加え、文化フォーラム春日井を会場とした。 - 平成18年度からギャラリートークを開始し、市民の美術への理解を深めている。 - 令和元年度からポスターデザインを、作品を制作する市民をモチーフにしたビジュアルとキャッチコピーにリニューアルし、若年層や女性に訴求する工夫を行った。 - 令和6年度から、高校生を対象とした「高校生奨励賞」を創設し、出品者が増加傾向にある10代のさらなる参加を促す取り組みを行った。 【事業実績】 応募作品数 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>R7/74回</th><th>R6/73回</th><th>R5/72回</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>日本画</td><td>44</td><td>44</td><td>45</td></tr> <tr> <td>洋画</td><td>119</td><td>134</td><td>132</td></tr> <tr> <td>書</td><td>242</td><td>246</td><td>281</td></tr> <tr> <td>彫塑工芸</td><td>58</td><td>52</td><td>49</td></tr> <tr> <td>写真</td><td>134</td><td>138</td><td>148</td></tr> <tr> <td>合計</td><td>597</td><td>614</td><td>655</td></tr> </tbody> </table>						R7/74回	R6/73回	R5/72回	日本画	44	44	45	洋画	119	134	132	書	242	246	281	彫塑工芸	58	52	49	写真	134	138	148	合計	597	614	655
		R7/74回	R6/73回	R5/72回																													
日本画	44	44	45																														
洋画	119	134	132																														
書	242	246	281																														
彫塑工芸	58	52	49																														
写真	134	138	148																														
合計	597	614	655																														
事業費	事業費		8年度(予算)	7年度(決算)	6年度(決算)	5年度(決算)																											
			4,700千円	4,693千円	4,795千円	4,895千円																											
	特定財源	国・県支出金	千円	千円	千円	千円																											
		その他	千円	千円	千円	千円																											
	一般財源		4,700千円	4,693千円	4,795千円	4,895千円																											

7年度の 主な実施内容 (実績)	(実施内容・事業費等)					
	1 名 称 第74回春日井市民美術展覧会					
	2 期 間 令和7年8月16日(土)～8月24日(日)					
	3 賞 市長賞、財団理事長賞、教育委員会賞、市議会議長賞、観光コンベンション協会会長賞、奨励賞、高校生奨励賞、委嘱特別賞					
4 その他 高校生奨励賞を創設						
成果指標	指標名		目標値(8年度)	7年度	6年度	5年度
	出品数		660人	597人	614人	655
	鑑賞者数		12,000人	11,549人	9,625人	8,980人
これまでの 取組みに よる効果 (進捗状況)	○	判断理由 及び 具体的な 成果や 課題等	【判断理由及び成果】 ・第69回より開始したインターネットでの出品申込利用者は年々増加しており、第74回展では97名と全応募点数の16.2%を占める。 ・高校生奨励賞を創設した効果として、高校生からの出品が、第72回展(38名)から第73回展(47名)、第74回展(42人)へと出品者が増加。高校生の美術教育への波及効果も期待される。 ・第70回展より、市及び文化財団のホームページで公開しているカラー版入賞者名簿に、第74回展では425件のアクセスがあり、3年連続で増加している。 【課題】 ・審査会員の高齢化が依然として課題であり、令和6年度は2名の辞任者が出ている。審査の専門性・公平性を維持するためにも、部門によっては新たな審査員の推挙を検討する必要がある。			
			◎：期待する又は期待以上の効果があった ○：現状維持 △：期待する効果がなかった ー：評価なし			
今後の 方向性	(課題解決のために必要な方策等) ・市内高校の美術部、写真部等の部活顧問にも出品依頼を引き続き行い、学生の出品数増加に努める。(高校生奨励賞の認知度を上げ、次年度以降効率的にPRする。) ・新規出品者だけでなく、長期に渡って出品されている方にも焦点を当て、市民展への出品する満足度の広報を狙う。 ・市民展の事務の無駄を省きながらも、出品者・鑑賞者にとってより良い展覧会となるよう、小さな事でもすぐに改善できるように審査会員と調整し、検討を重ねていく。					
8年度の 主な実施内容	区分	(前年度からの拡充・縮小、変更・改善内容等)				
	継続	・出品者・鑑賞者アンケートを実施し、そこで出された意見について、審査会員と協議のうえ、改善できることは改善していく。 ・出品者同士や出品者と鑑賞者が部門横断的に交流する場を提供する為、72回展より開設したSNS(インスタグラム)を引き続き運用し、効果測定をしている。				

第六次総合計画 事業点検シート

事業区分	継続	年度	令和8年度		整理番号	4-3-1-2
事業名	文化ボランティア（市民メセナ活動支援）				最終更新日	令和8年5月13日
実施根拠	春日井市文化振興基本条例、春日井市市民メセナ基金条例				担当課	文化スポーツ振興課
関連計画	第2次かすがい市民文化振興プラン			関連する 附属機関	—	
総合計画 施策体系	政策分野等	4 市民活動・共生・文化・スポーツ			基本計画 重点方針	—
	施策等	3 文化・スポーツ・生涯学習の推進				
	基本的な 方向性等	1 書道文化の振興や地域文化財の保存と活用を図るとともに、文化芸術に親しむ機会や場所の充実と文化芸術活動を担う人材の育成を促進し、誰もが文化芸術に親しむことができる環境づくりを推進します。				
目的・ 事業概要	【目的】 春日井市市民メセナ基金を財源として、市民自らが市民の文化活動を支援する基盤を構築するため、文化ボランティアの登録及び育成を行う。 【事業概要】 登録された文化ボランティアは、市の仲介により文化イベント等の受付業務や会場整理等の支援活動をするほか、活動のPR及び会員募集のための自主事業を行う。					
	事業期間	平成15年度～				
過去の経緯、 主な実績等	【事業実績】 文化ボランティア活動支援（平成15年度開始） ボランティア活動、教養講座、コーディネート活動、定例会、顔合わせ会（総会）を実施。 その他、文化ボランティアの企画による、一般の方を対象とした文化イベントを実施している。これにより、文化ボランティア活動のPRを行うとともに、新規ボランティア登録者を得ることができた。					
事業費	事業費		8年度(予算)	7年度(決算)	6年度(決算)	5年度(決算)
			63千円	53千円	60千円	52千円
	特定財源	国・県支出金	千円	千円	千円	千円
		その他	63千円	53千円	60千円	52千円
	一般財源		千円	千円	千円	千円

7年度の 主な実施内容 (実績)	(実施内容・事業費等)					
	顔合わせ会（総会）		1 回			
	定例会		10 回（ボランティア活動の反省会など）			
	ボランティア活動		7 回（受付や会場案内など）			
	自主企画コンサート		1 回			
研修会		1 回				
成果指標	指標名		目標値（8年度）	7 年度	6 年度	5 年度
	ボランティア登録者数		30人	28人	30人	27人
	ボランティア活動要請数		8回	7回	7回	11回
	ボランティア活動人数（延）		60人	61人	59人	78人
これまでの 取組みに よる効果 （進捗状況）	○	判断理由 及び 具体的な 成果や 課題等	・ 例年活動要請される主催者があるなど、ボランティア活動の認知度は一定程度認められる。 ・ 継続的に活動している会員同士では相互のコミュニケーションも深まってきており、高齢者の自己実現の機会として効果をあげている。 ・ ボランティア活動の機会には市民メセナ活動のPRを行い、寄附を募ったところ、例年以上の寄附が集まった。 ・ 新規会員も不安なく参加ができるよう、主催者の依頼内容を確認書にまとめ、共有している。 【課題】 ・ ボランティア活動の認知度は一定程度認められているが、更なる認知度の向上にむけて、周知方法を検討していく必要がある。			
	◎：期待する又は期待以上の効果があった ○：現状維持 △：期待する効果がなかった ー：評価なし					
今後の 方向性	（課題解決のために必要な方策等） ・ 文化ボランティアへ活動を要請する団体が固定化してきているので、誰でもボランティアへ活動要請できることを積極的にPRする。 ・ 文化ボランティア登録者数を増やすため、ボランティア活動要請団体のメンバーにボランティア加入を呼びかけるなど、PRを積極的に行う。 ・ 引き続き、ボランティア活動機会には市民メセナ活動のPRを行い、寄附を募る。					
8年度の 主な実施内容	区分	（前年度からの拡充・縮小、変更・改善内容等）				
	継続	ボランティア活動への依頼及び市民メセナ活動の原資となる基金への寄附について、PR方法の検討を行う				

第六次総合計画 事業点検シート

事業区分	継続	年度	令和8年度	整理番号	4-3-1-3															
事業名	市民第九演奏会			最終更新日	令和8年5月13日															
実施根拠	春日井市市民第九演奏会実行委員会会則			担当課	文化スポーツ振興課															
関連計画	第2次かすがい市民文化振興プラン		関連する 附属機関	—																
総合計画 施策体系	政策分野等	4 市民活動・共生・文化・スポーツ		基本計画 重点方針	—															
	施策等	3 文化・スポーツ・生涯学習の推進																		
	基本的な 方向性等	1 書道文化の振興や地域文化財の保存と活用を図るとともに、文化芸術に親しむ機会や場所の充実と文化芸術活動を担う人材の育成を促進し、誰もが文化芸術に親しむことができる環境づくりを推進します。																		
目的・ 事業概要	【目的】 合唱及び演奏を行う市民に練習の場と発表の場を提供し、市民手作りの演奏会の開催により市民文化の振興を図る																			
	【事業概要】 市民合唱団と市民オーケストラとのコラボレーションで構成され、一流のソリストを招いて実施している。 1 主 催 春日井市、春日井市教育委員会、（公財）かすがい市民文化財団、春日井市民第九演奏会実行委員会 2 委託先 春日井市民第九演奏会実行委員会 事務局：中部大学 3 出演者 ソリスト（プロの声楽家を招聘）、市民交響楽団、市民第九合唱団 4 開催日 12月第2日曜日 午後2時30分開演 5 会 場 市民会館 6 入場料 A席2,500円、B席2,000円（全指定席、10～11月発売開始）																			
	事業期間	平成5年度～																		
過去の経緯、 主な実績等	【過去の経緯】 平成5年に市制50周年記念事業として開始 平成26年度より、全席自由席から全席指定席とし、席取りなどの混乱を解消した。 平成26年度より、入場料を1,000円から1,500円に変更し、経費の改善を図っている。 平成28年度より、文化財団のチケット管理システムの利用を開始し、Webからのチケット予約が可能となった。これにより、全ての販売チャンネルで同一のチケット在庫を確認することができるようになり、購入希望者及び運営側の利便性が向上した。 令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止 令和3・4年度は、感染症対策を講じた上で、演奏会を開催 令和8年度より、入場料をA席1,500円から2,500円に、B席1,000円を2,000円に変更																			
	<table><tr><td>年度</td><td>7年度</td><td>6年度</td><td>5年度</td></tr><tr><td>入場者数</td><td>850</td><td>848</td><td>832</td></tr><tr><td>出演者数</td><td>220</td><td>242</td><td>221</td></tr><tr><td>合計</td><td>1,070</td><td>1,090</td><td>1,053</td></tr></table>					年度	7年度	6年度	5年度	入場者数	850	848	832	出演者数	220	242	221	合計	1,070	1,090
年度	7年度	6年度	5年度																	
入場者数	850	848	832																	
出演者数	220	242	221																	
合計	1,070	1,090	1,053																	
事業費	事業費		8年度(予算)	7年度(決算)	6年度(決算)	5年度(決算)														
			7,530千円	6,800千円	6,800千円	6,650千円														
	特定財源	国・県支出金	千円	千円	千円	千円														
		その他	2,560千円	1,820千円	1,745千円	1,824千円														
一般財源		4,970千円	4,980千円	5,055千円	4,826千円															

7年度の 主な実施内容 (実績)	(実施内容・事業費等) 1 名 称 2025春日井市民第九演奏会 2 開催日 令和7年12月7日(日)開催 3 出演者 春日井市民第九合唱団、春日井市交響楽団 指揮 井村 誠貴 ソプラノ 奥村 育子、アルト 森 季子 テノール 城 宏憲、バリトン 西元 佑					
成果指標	指標名		目標値(8年度)	7年度	6年度	5年度
	出演者数		240	220	242	181
	入場者数		850	850	848	489
これまでの 取組みに よる効果 (進捗状況)	○	判断理由 及び 具体的な 成果や 課題等	毎年多くの合唱団参加希望者があり、市民文化発表の場として定着している。全席指定で入場券の販売を行っているが、完売となる年もあり、年末の催事として市民に浸透している。 出演者(合唱団)には第1回から参加している方も少なくなく、事業継続の成果と言えるが、高齢化が進んでいることから、合唱団募集チラシを作成し、HPに掲載する内容を充実させるなどした結果、新規申込者が10%を超えるようになった。 初心者でも練習についていける様、パート別練習回数を増やすとともに練習内容をホームページやメールで周知している。 【課題】 ・合唱団への新規加入者が、ドイツ語での歌唱などがハードルになり、練習についていけなくなって途中退会する事例がある。合唱団員の高齢化によりパートに偏りが出ている。 ・舞台設営費等の物価が上昇しており、委託料が増額している。 ・令和8年度の入場料を増額し、収益の改善を図る。			
		◎：期待する又は期待以上の効果があった ○：現状維持 △：期待する効果がなかった ー：評価なし				
今後の 方向性	(課題解決のために必要な方策等) ・第九演奏会は市民が気軽に文化を体験できる事業であるので、引き続き開催する。 ・現在の音楽監督(大阪府在住)が就任し10年以上が経過しているため、将来の音楽監督交代に向け、新たな音楽監督の候補者について、市内出身者や近隣市町在住者を中心に、情報収集を進めていく。					
8年度の 主な実施内容	区分	(前年度からの拡充・縮小、変更・改善内容等)				
	継続	・25歳以下の学生の参加料を無料とし、若年層の参加を促進していく。 ・合唱団の練習及び指導内容について、引き続き、初心者も無理なく演奏会本番を迎えられるよう、初心者向けの練習機会を開催する。また、男女別の練習回数を維持し、タイミングを図って合同練習を組み込むなど、効果的に練習を進められるよう合唱指導者や合唱団役員と協議する。				

第六次総合計画 事業点検シート

事業区分	継続	年度	令和8年度	整理番号	4-3-1-4																
事業名	短詩型文学祭			最終更新日	令和8年5月13日																
実施根拠	春日井市短詩型文学祭要綱			担当課	文化スポーツ振興課																
関連計画	第2次かすがい市民文化振興プラン		関連する 附属機関																		
総合計画 施策体系	政策分野等	4 市民活動・共生・文化・スポーツ			基本計画 重点方針	—															
	施策等	3 文化・スポーツ・生涯学習の推進																			
	基本的な 方向性等	1 書道文化の振興や地域文化財の保存と活用を図るとともに、文化芸術に親しむ機会や場所の充実と文化芸術活動を担う人材の育成を促進し、誰もが文化芸術に親しむことができる環境づくりを推進します。																			
目的・ 事業概要	【目的】 市民が制作した文芸作品の発表と鑑賞の場を設けることにより、市民文化の向上を図る。 【事業概要】 1 主催 春日井市、春日井市教育委員会、春日井市文化協会 2 委託先 (公財) かすがい市民文化財団 3 部門 短歌、俳句、川柳、狂俳、詩 4 出品料 無料 5 会場 文芸館・交流アトリウム 6 作品展 1月下旬から2月上旬																				
	事業期間	昭和56年度～																			
過去の経緯、 主な実績等	【過去の経緯】 昭和56年に市文化協会主催で始まった事業。その後、市へ移管。 【事業実績】 応募作品数 <table border="1"> <tr> <td></td><td>R7/45回</td><td>R6/44回</td><td>R5/43回</td></tr> <tr> <td>一般の部</td><td>1,008</td><td>1,021</td><td>1,005</td></tr> <tr> <td>小・中学生の部</td><td>21,066</td><td>20,726</td><td>20,874</td></tr> <tr> <td>合計</td><td>22,074</td><td>21,747</td><td>21,879</td></tr> </table>						R7/45回	R6/44回	R5/43回	一般の部	1,008	1,021	1,005	小・中学生の部	21,066	20,726	20,874	合計	22,074	21,747	21,879
	R7/45回	R6/44回	R5/43回																		
一般の部	1,008	1,021	1,005																		
小・中学生の部	21,066	20,726	20,874																		
合計	22,074	21,747	21,879																		
事業費	事業費		8年度(予算)	7年度(決算)	6年度(決算)	5年度(決算)															
			1,625千円	1,612千円	1,664千円	1,569千円															
	特定財源	国・県支出金	千円	千円	千円	千円															
		その他	千円	千円	千円	千円															
	一般財源		1,625千円	1,612千円	1,664千円	1,569千円															

7年度の 主な実施内容 (実績)	(実施内容・事業費等)					
	1 名称	第45回春日井市短詩型文学祭				
	2 作品展	令和8年1月24日(土)～2月8日(日) 14日間開催				
	3 表彰式	令和8年2月1日(日)				
	4 賞	市長賞、財団理事長賞、市議会議長賞、教育委員会賞、文化協会賞、秀逸、優秀(小・中学生の部のみ)、佳作				
成果指標	指標名		目標値(8年度)	7年度	6年度	5年度
	出品数		22,000	21,542	21,747	21,879
	鑑賞者数		6,500	5,658	6,359	8,224
これまでの 取組みに よる効果 (進捗状況)	○	判断理由 及び 具体的な 成果や 課題等	【判断理由及び成果】 ・昨年度は、一般の部は微減したものの、小・中学生の部では増加し、22,074作品の応募があった。 ・例年6,000人以上の動員を記録している(令和5年度は祝日の関係で会期が長かったことから、鑑賞者数が突出して多くなった)。 ・鑑賞者のアンケートでも満足度が高い。 ・750円で販売していた作品集を、3年度から無料配布し、令和7年度は1,642冊配布した。 ・令和5年度から引き続き、ドイツ人イラストレーターのクレメンス・メッツラー氏を起用し、「若い人には新しく、年配の人には懐かしい」をテーマに、春日井市の風景の中で、短詩型文学の創作をしている男女を描いたキービジュアルを制作した。幅広い年代に訴求するデザインで応募者の新規開拓を試み、成果を出した。 【課題】 ・教員の働き方改革に伴い、応募作品の学校内での取りまとめなど教員への負荷が問題になっている。学校を経由しないでも児童生徒が応募できるよう、ネットでの作品募集をさらに広めていく必要がある。 ・実行委員及び審査員の高齢化が顕著であり、退任する委員があっても新たな実行委員・審査員の推挙が難しい部門がある。			
			◎：期待する又は期待以上の効果があった ○：現状維持 △：期待する効果がなかった ー：評価なし			
今後の 方向性	(課題解決のために必要な方策等) ・現役世代の新規出品を増やすため、また学校を経由しない応募を増やすため、募集方法や広報の仕方について検討していく。 ・実行委員制度をとっているが、市内在住で実行委員及び審査員を務めることのできる人材が不足しつつあるので、あり方を検討する必要がある。					
8年度の 主な実施内容	区分	(前年度からの拡充・縮小、変更・改善内容等)				
	継続	・小・中学校との連携方法を検討し、関係部署と調整を進める。 ・一般の部は、より幅広い市民に出品してもらえるよう、応募方法やPR方法を検討する。 ・市内、県内在住に拘らず、各分野で実績のある審査員に審査してもらえるような体制を組めないか、検討していく。 ・地域固有の文学“狂俳”の部門に10代・20代の若者の応募が増えるように努める。				

第六次総合計画 事業点検シート

事業区分	継続	年度	令和8年度	整理番号	4-3-1-5																				
事業名	小野道風公奉賛全国書道展覧会（道風展）			最終更新日	令和8年5月13日																				
実施根拠	小野道風公奉賛全国書道展覧会規約			担当課	文化スポーツ振興課																				
関連計画	第2次かすがい市民文化振興プラン		関連する 附属機関																						
総合計画 施策体系	政策分野等	4 市民活動・共生・文化・スポーツ			基本計画 重点方針																				
	施策等	3 文化・スポーツ・生涯学習の推進																							
	基本的な 方向性等	1 書道文化の振興や地域文化財の保存と活用を図るとともに、文化芸術に親しむ機会や場所の充実と文化芸術活動を担う人材の育成を促進し、誰もが文化芸術に親しむことができる環境づくりを推進します。																							
目的・ 事業概要	【目的】 春日井市で生まれたと伝えられる小野道風の偉業を顕彰するとともに、「書のまち春日井」を全国発信し、書道文化の振興を図る。 【事業概要】 1 主 催 春日井市、かすがい市民文化財団、春日井市教育委員会、小野道風公遺跡保存会、中日新聞社 2 委託先 道風展運営委員会 ※事務局は（公財）かすがい市民文化財団内に設置 3 部 門 一般部（漢字、かな、近代詩文、少字数、小品）、学生部（条幅、半紙） 4 出品料 一般部 5,000円（小品は3,000円）、条幅1,300円、半紙400円 5 会 場 市役所10・11・12階、文芸館ギャラリー、道風記念館 6 会 期 10月26日から11月3日の9日間 会期初日に開会式・表彰式を開催。 また11月3日には特別賞受賞作品の作品解説会を実施。																								
	事業期間	昭和24年度～																							
過去の経緯、 主な実績等	【過去の経緯】 昭和24年、小野道風生誕1050年祭を経て、書家藤田東谷氏らが中心となり、小野道風公遺跡保存会の主催で第1回展が開催された。 昭和26年第3回展から市が主催に加わり、昭和29年開催の第6回展からは、主催に中日新聞社が加わり、名古屋展も開催されるようになった。（名古屋展は平成30年度をもって終了） 【事業実績】 応募作品数 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>R7/77回</th><th>R6/76回</th><th>R5/75回</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般部</td><td>299</td><td>325</td><td>353</td></tr> <tr> <td>学生条幅</td><td>722</td><td>653</td><td>668</td></tr> <tr> <td>学生半紙</td><td>4,337</td><td>4,724</td><td>4,873</td></tr> <tr> <td>合計</td><td>5,358</td><td>5,702</td><td>5,894</td></tr> </tbody> </table>						R7/77回	R6/76回	R5/75回	一般部	299	325	353	学生条幅	722	653	668	学生半紙	4,337	4,724	4,873	合計	5,358	5,702	5,894
		R7/77回	R6/76回	R5/75回																					
	一般部	299	325	353																					
	学生条幅	722	653	668																					
	学生半紙	4,337	4,724	4,873																					
	合計	5,358	5,702	5,894																					
事業費	事業費		8年度(予算)	7年度(決算)	6年度(決算)	5年度(決算)																			
			2,600千円	2,500千円	2,500千円	2,500千円																			
	特定財源	国・県支出金	1,000千円	958千円	1,000千円	1,000千円																			
		その他	千円	583千円	千円	千円																			
	一般財源		1,600千円	959千円	1,500千円	1,500千円																			

7年度の 主な実施内容 (実績)	(実施内容・事業費等)					
	1 名 称 小野道風公奉賛第77回全国書道展覧会					
	2 期 間 (1) 本展 令和7年10月26日(日)～11月3日(月・休)					
	(2) 市内巡回展 令和7年11月4日(火)～12月14日(日)					
	3 賞 文部科学大臣賞、知事賞、市長賞、財団理事長賞、中日新聞社賞、県教育委員会賞、市教育委員会賞、県議会議長賞、市議会議長賞、中部日本書道会賞、市観光コンベンション協会会長賞、遺跡保存会賞ほか					
4 VR展 令和7年10月26日(日)～11月30日(日)						
5 クラウドファンディング 寄附件数：21件						
寄附金額：583,000円						
成果指標	指標名		目標値(8年度)	7年度	6年度	5年度
	出品点数		5,750	5,358	5,702	5,894
	鑑賞者数		7,300	6,808	7,288	6,526
これまでの 取組みに よる効果 (進捗状況)	○	判断理由 及び 具体的な 成果や 課題等	【判断理由及び成果】 ・自治体主催で全国規模の書道公募展を開催している事例は極めて珍しく、佐久全国臨書展(長野県佐久市/平成24年～/応募点数約3,000点)、安芸全国書展(高知県安芸市/昭和57年～/応募点数約1,400点)と比較しても、道風展の規模は際立っている。 ・元年度よりインターネット上で展覧会会場を公開するVR展を実施し、遠方の出品者(受賞者)にも配慮している。 ・無料配布の「作品集」を道風展のPRツールとして広く配布することで、来場者の90%近い方に満足していただくことができた。 【課題】 ・人件費や物価等の単価上昇により資金繰りが厳しくなりつつある。 ・審査会の運営や展示作業などに従事している運営委員(市内書家)をはじめ、書道教室の指導者らの高齢化も進んでおり、安定した展覧会運営や、教室の後継者との関係づくりの機会を逃さないことが課題となっている。また、新規出品者の開拓の為に新たな一手を打つ必要性がある。 ・令和7年度は新たにクラウドファンディングにより寄付を募った。一方で、県補助を減額することとなった。			
		◎：期待する又は期待以上の効果があった ○：現状維持 △：期待する効果がなかった ー：評価なし				
今後の 方向性	(課題解決のために必要な方策等) ・全国公募展として市内や愛知県内だけではなく、県外からの出品増を図る必要があることから、VR展、表彰式でのおもてなし企画の継続、展開方法を探る。 ・道風展のブランドイメージを明確にし、発信する。道風展での上位入賞を目指したくなるような展覧会を目指す。 ・運営委員の社中から、新たな運営委員を追加するよう働きかけるとともに、既存の委員にはさらに積極的な運営への参加を促す。 ・人件費や賞品代の高騰に対応するため、財政課と交渉し、運営予算の増額を図る。					
8年度の 主な実施内容	区分	(前年度からの拡充・縮小、変更・改善内容等)				
	継続	・「書のまち春日井」発信事業と連携し、書に関心が低い層にも鑑賞いただけるような方策を検討する。 ・運営委員(市内書家)と調整し、より効率的な運営に努める。 ・人件費の単価上昇を見込み、開場時間を遅らせ、閉場時間を早めることで開場時間を短縮し、来場者の少ない時間帯の人件費を抑える。 ・出品数が減少傾向にあることから、例えば学生半紙の部の出品料を無料にするなど、出品料の適正化を運営委員(市内書家)と共に協議する。 ・助成金や補助金など、獲得可能な財源がないか情報収集を行うと共に、財政課と交渉し、運営予算の増額を図る。				

第六次総合計画 事業点検シート

事業区分	継続	年度	令和8年度	整理番号	4-3-1-6		
事業名	「書のまち春日井」発信			最終更新日	令和8年5月13日		
実施根拠	春日井市文化振興基本条例			担当課	文化スポーツ振興課		
関連計画	第2次かすがい市民文化振興プラン		関連する 附属機関	—			
総合計画 施策体系	政策分野等	4 市民活動・共生・文化・スポーツ		基本計画 重点方針	—		
	施策等	3 文化・スポーツ・生涯学習の推進					
	基本的な 方向性等	1 書道文化の振興や地域文化財の保存と活用を図るとともに、文化芸術に親しむ機会や場所の充実と文化芸術活動を担う人材の育成を促進し、誰もが文化芸術に親しむことができる環境づくりを推進します。					
目的・ 事業概要	【目的】 三跡のひとり小野道風の誕生伝説が春日井市に残ることから、古くから書道の盛んな土地であった。半世紀以上前から「県下児童生徒席上揮毫大会」や、全国公募の「道風展」が開催されており、昭和56年に全国でも数少ない書の専門美術館「道風記念館」を開館した。 平成元年からは「書のまち春日井」を全国にアピールし、書道文化の推進に努めている。 【事業概要】 道風展優秀作品の展示、マスコットキャラクター「道風くん」の活用（商標・着ぐるみの貸出、グッズの作成・販売）、書に触れる体験の提供。						
	事業期間	平成元年度～					
過去の経緯、 主な実績等	【過去の経緯】 平成6年度 小野道風生誕1100年記念事業を実施。 平成17年度 かすがいオペラ・小野道風「しずく柳」を制作。愛・地球博にて発表。 平成19年度 道風展優秀作品の巡回展示を開始。 平成20年度 マスコットキャラクター「道風くん」制作。翌21年度よりグッズ製作・販売開始。 平成24年度 着ぐるみの一般貸出を開始。小野小学校、西尾小学校で書道科を導入。 平成25年度 テーマソング、ダンスを制作。市制70周年記念事業（かすがいオペラ・小野道風「しずく柳」、毎日現代書巡回展春日井展）を実施。 平成26年度 NHK「スクールライブショー」書道パフォーマンス収録、展覧会「四神の書」開催。 平成27年度 書道科を市内20校へ実施拡大、公民館等への水書道体験コーナーの設置及び「今月の一文字」の募集開始、公用車へ啓発マグネットシート貼付 平成28年度 書道科を市内全小学校で実施。第31回国民文化祭・あいち2016「書のまち春日井書の文化遺産」を開催。書にまつわる他市との連携事業として佐久市立天来記念館（長野県）を視察し、佐久全国臨書展と相互出品の呼びかけを継続実施。 平成29年度 書道用品店名古屋ホウコドウを誘致（平成30年4月開店）。 平成30年度 「書のまち春日井」PRパンフレット（一般用）作成、以降改訂増刷し配布を継続。 令和元年度 令和改元記念「今月の一文字」特設コーナーを庁舎に設置し、記念写真撮影スポットを併設。「書のまち春日井」PRパンフレット（小学生向け）作成。以降毎年増刷し小学3・5年生に配布。「道風くん」商標更新（R12年4月まで延長） 令和2年度 あ〜とふるマイタウン事業を継承する形で書家派遣事業「わ〜く書っぷ」実施、年賀状用写真撮影スポット設置（市内施設4ヶ所）、年賀状作品展開催。 令和3年度 新生児に書家揮毫命名紙入り写真立てを贈呈（R3.4.1生まれ以降）。文化庁伝統文化親子教室事業を受託、親子向け体験講座（8メニュー）開催。イーアス春日井で書道体験イベントを実施。無印良品店舗内で「書」に関するインタビュー映像放映。 令和4年度 あいち市町村フェアで書道パフォーマンスを披露、イーアス春日井にて書道パフォーマンス、書道体験イベントに加え年賀状作品を実施。 令和5年度 公共施設で大型書作品（書道パフォーマンス作品）を展示。道風くんマスコットキーホルダーを制作・販売。						
	事業費		8年度(予算)	7年度(決算)	6年度(決算)	5年度(決算)	
			10,967千円	10,626千円	10,618千円	12,692千円	
	事業費	特定財源	国・県支出金	50千円	0円	0千円	0千円
			その他	10,917千円	7,004千円	8,707千円	8,954千円
		一般財源		0千円	3,622千円	1,911千円	3,738千円

7年度の 主な実施内容 (実績)	(実施内容・事業費等) ・商業施設等で書道体験イベントを開催 ・新生児向け書家揮毫命名紙入り写真立てプレゼント ・わ〜く書っぷ(書家派遣事業)実施(5メニュー、計9回実施) ・年賀状用写真撮影スポット設置(道風記念館、ぐりんぐりんなど4施設) ・筆書きの年賀状を募集し、年賀状作品展を開催。 ・小学生向け「書のまち春日井パンフレット」の配布 ・マスコットキャラクター「道風くん」の商標及び「道風くん」着ぐるみの貸出 ・「道風くん」グッズの販売及び新規販売グッズの作成 ・各公民館・ふれあいセンター等に水書道コーナーを設置。					
成果指標	指標名		目標値(8年度)	7年度	6年度	5年度
	商標貸出件数		70	65	50	44
	着ぐるみ貸出件数		70	51	48	61
これまでの 取組みに よる効果 (進捗状況)	◎	判断理由 及び 具体的な 成果や 課題等	・市民アンケートで、「書のまち春日井」に愛着や誇りを感じる、またはやや愛着や誇りを感じるとの回答が、67%となった。また、小野道風やマスコットキャラクター「道風くん」の認知度(良く知っている+聞いたことがあるとの回答)が、いずれも9割を超えている。 ・幅広い年齢層に書を身近に感じていただけるよう、新生児に書家揮毫命名紙入り写真立てを贈呈し、「書のまち春日井らしい、良いプレゼントを受け取れた」など、保護者から好評をいただいているものの、写真立ての値上がりや書家の負担などの課題もある。 ・商業施設等で書道体験イベントを実施したり、親子で書などを体験できる講座を開催したりすることで、筆で書くことを身近に感じる機会を提供できた。 ・書家派遣事業「わ〜く書っぷ」の実施回数を増やすことができた。 ・商標や着ぐるみ利用について、市の関係だけではなく、幅広い機会に活用されている。 ・「書のまち春日井」や小野道風についての理解を深めるため、一般向けパンフレットを継続的に配布するとともに、書道科授業での活用を目的に、小学生・中学年向けと高学年向けのパンフレットを配布した。 ・市内外へのPR強化については、市内商業施設でのPR事業開催など、関係機関と連携しつつ進めている。 【課題】 ・書家や書の愛好家が高齢化していることもあり、幅広い世代が書に触れ、筆で文字を書く機会を継続的に提供していく必要がある。			
	◎：期待する又は期待以上の効果があった ○：現状維持 △：期待する効果がなかった ―：評価なし					
今後の 方向性	(課題解決のために必要な方策等) ・普段は書になじみがない層にもPRできるような機会の提供を続けていく。 ・市内全小学校で1年生から書道科に取り組んでいるので、小学生やその保護者が「書のまち春日井」への理解や関心を深めるよう小学生向けパンフレットを継続して配布していくとともにデジタル化について検討する。 ・広く市民に書作品を鑑賞いただく機会を設けるとともに、市内高校書道部の協力を得て、市内外から多くの参加者が見込まれるイベント等で筆を使って文字を書く機会を設ける。 ・新生児に書家揮毫命名紙入り写真立てについては、費用対効果と負担軽減を鑑み、見直しを検討する。 ・多くの方々に「書のまち春日井」を意識していただけるよう、ホームページを活用して、書に関する情報発信を積極的に行っていく。					
8年度の 主な実施内容	区分	(前年度からの拡充・縮小、変更・改善内容等)				
	継続	商業施設で書道パフォーマンスを実施し、揮毫作品を施設で展示する。 商業施設等市内外から多くの参加者が見込まれる場で書道体験イベントを実施。 新生児に書家が揮毫した命名紙入り写真立てを贈呈し、書を身近に感じる機会を提供。 マスコットキャラクター「道風くん」を活用した取組みを実施。 書のまち春日井や小野道風への理解が広がるよう一般向けのパンフレットを活用。 小学校書道科授業用に中学年向け、高学年向けのパンフレットの配布。 アジア競技大会文化プログラムとして、高校書道部と連携し、外国人選手や観客を対象に書道体験ブースを運営。				

第六次総合計画 事業点検シート

事業区分	継続	年度	令和8年度	整理番号	4-3-1-7																																								
事業名	文化活動事業助成			最終更新日	令和8年5月13日																																								
実施根拠	春日井市文化振興補助金交付要綱、春日井市文化スポーツイベント補助金交付要綱			担当課	文化スポーツ振興課																																								
関連計画	第2次かすがい市民文化振興プラン		関連する 附属機関	—																																									
総合計画 施策体系	政策分野等	4 市民活動・共生・文化・スポーツ			基本計画 重点方針																																								
	施策等	3 文化・スポーツ・生涯学習の推進																																											
	基本的な 方向性等	1 書道文化の振興や地域文化財の保存と活用を図るとともに、文化芸術に親しむ機会や場所の充実と文化芸術活動を担う人材の育成を促進し、誰もが文化芸術に親しむことができる環境づくりを推進します。																																											
目的・ 事業概要	【目的】 市の文化芸術の振興を図るため、文化活動団体が行う事業に対して補助を行う。 【事業概要】 1 春日井市文化振興補助金交付要綱による補助 - 文化・美術・音楽に関する文化活動を行う団体へ、 ①市民に鑑賞及び創造の機会を提供する展示会、公演会等 ②市民に参加の機会を提供する講座、ワークショップ等 ③文化芸術活動の情報を提供する事業及び普及拡大のための他団体との共同事業について補助金を交付する。 2 春日井市文化スポーツイベント補助金交付要綱による補助 - 国際的、広域的文化交流事業の開催、国際文化交流事業及び国内での文化事業への参加について補助金を交付する。																																												
	事業期間	昭和54年度～ ※文化スポーツイベント補助金は平成21年度より																																											
過去の経緯、 主な実績等	【過去の経緯】 昭和54年度～ 春日井市文化協会、春日井市美術協会、春日井市民音楽連盟、春日井市交響楽団、春日井児童合唱団が行う文化事業に補助金を交付。 平成18年度～ 文化振興補助金要綱を改正し団体運営費の定額補助から、事業への補助とした。 平成21年度 文化スポーツイベント補助金交付要綱を定め、音楽団体等へ補助金を交付。 【事業実績】 1 春日井市文化振興補助金交付要綱による補助 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>令和7年度補助額</th><th>令和6年度補助額</th><th>令和5年度補助額</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>文化協会</td><td>559,000円</td><td>620,000円</td><td>617,000円</td></tr> <tr> <td>美術協会</td><td>263,000円</td><td>314,000円</td><td>312,000円</td></tr> <tr> <td>市民音楽連盟</td><td>550,000円</td><td>466,000円</td><td>254,000円</td></tr> <tr> <td>交響楽団</td><td>600,000円</td><td>600,000円</td><td>600,000円</td></tr> <tr> <td>児童合唱団</td><td>600,000円</td><td>600,000円</td><td>600,000円</td></tr> </tbody> </table> 2 春日井市文化スポーツイベント補助金交付要綱による補助 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>令和7年度補助額</th><th>令和6年度補助額</th><th>令和5年度補助額</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>事業の開催</td><td>0円</td><td>1,000,000円</td><td>769,000円</td></tr> <tr> <td>国際交流文化事業</td><td>0円</td><td>0円</td><td>0円</td></tr> <tr> <td>国内文化事業参加</td><td>155,000円</td><td>165,000円</td><td>55,000円</td></tr> </tbody> </table>						令和7年度補助額	令和6年度補助額	令和5年度補助額	文化協会	559,000円	620,000円	617,000円	美術協会	263,000円	314,000円	312,000円	市民音楽連盟	550,000円	466,000円	254,000円	交響楽団	600,000円	600,000円	600,000円	児童合唱団	600,000円	600,000円	600,000円		令和7年度補助額	令和6年度補助額	令和5年度補助額	事業の開催	0円	1,000,000円	769,000円	国際交流文化事業	0円	0円	0円	国内文化事業参加	155,000円	165,000円	55,000円
		令和7年度補助額	令和6年度補助額	令和5年度補助額																																									
文化協会	559,000円	620,000円	617,000円																																										
美術協会	263,000円	314,000円	312,000円																																										
市民音楽連盟	550,000円	466,000円	254,000円																																										
交響楽団	600,000円	600,000円	600,000円																																										
児童合唱団	600,000円	600,000円	600,000円																																										
	令和7年度補助額	令和6年度補助額	令和5年度補助額																																										
事業の開催	0円	1,000,000円	769,000円																																										
国際交流文化事業	0円	0円	0円																																										
国内文化事業参加	155,000円	165,000円	55,000円																																										
事業費	事業費		8年度(予算)	7年度(決算)	6年度(決算)	5年度(決算)																																							
			3,957千円	2,727千円	3,765千円	3,207千円																																							
	特定財源	国・県支出金	千円	千円	千円	千円																																							
		その他	千円	千円	千円	千円																																							
一般財源		3,957千円	2,727千円	3,765千円	3,207千円																																								

7年度の 主な実施内容 (実績)	(実施内容・事業費等)					
	1 春日井市文化振興補助金交付要綱による補助 文化協会、美術協会、市民音楽連盟、交響楽団、児童合唱団（5団体） 2 春日井市文化スポーツイベント補助金交付要綱による補助 国内での文化事業への参加 12人					
成果指標	指標名		目標値（8年度）	7年度	6年度	5年度
	文化振興補助金による補助		2,907,000	2,572,000	2,600,000	2,383,000
	文化スポーツイベント補助金による補助金（文化分野のみ）		1,050,000	155,000	1,165,000	824,000
これまでの 取組みに よる効果 (進捗状況)	○	判断理由 及び 具体的な 成果や 課題等	・補助金の交付という事業の性質上、目標を設定することが難しい。 ・文化活動団体の実施事業により、市の文化芸術の振興が図られる。 ・文化活動団体の会員数が高齢化と共に減少しつつある。 ・長年にわたり活動している団体が節目となる演奏会等を開催する際に、文化スポーツイベント補助金は有効である。 ・文化スポーツイベント補助金は、全国大会に出場する学生等の支援として有効である。 【課題】 ・文化活動団体については、各団体の運営状況を把握するとともに、補助金に頼ることのない自立運営を促していく。 ・文化スポーツイベント補助金をより必要としている事業、団体への情報提供に努める。			
	◎：期待する又は期待以上の効果があった ○：現状維持 △：期待する効果がなかった ー：評価なし					
今後の 方向性	(課題解決のために必要な方策等) ・適切な補助金のあり方を常に検討する。 ・文化活動団体については、各団体の運営状況を把握するとともに、補助金に頼ることのない自立運営を促していく。 ・文化スポーツイベント補助金については、申請団体のみが恩恵を受けるのではなく、その事業に参加（鑑賞）する市民の利益となるよう努める。					
8年度の 主な実施内容	区分	(前年度からの拡充・縮小、変更・改善内容等)				
	継続	周年事業の開催を予定している団体に対し、引き続き情報提供していく。				

第六次総合計画 事業点検シート

事業区分	継続	年度	令和8年度	整理番号	4-3-1-8																														
事業名	文化芸術選奨			最終更新日	令和8年5月13日																														
実施根拠	—			担当課	文化スポーツ振興課																														
関連計画	第2次かすがい市民文化振興プラン		関連する 附属機関	文化振興審議会																															
総合計画 施策体系	政策分野等	4 市民活動・共生・文化・スポーツ			基本計画 重点方針																														
	施策等	3 文化・スポーツ・生涯学習の推進																																	
	基本的な 方向性等	1 書道文化の振興や地域文化財の保存と活用を図るとともに、文化芸術に親しむ機会や場所の充実と文化芸術活動を担う人材の育成を促進し、誰もが文化芸術に親しむことができる環境づくりを推進します。																																	
目的・ 事業概要	【目的】 文化芸術の向上発展に貢献し、業績が顕著なものを表彰することにより、本市の文化芸術の振興を図ることを目的とする。 【事業概要】 「(春日井市芸術文化選奨)」 (1) 賞及び被表彰者 ①文化芸術功労賞 本市の文化芸術の向上に貢献し、その業績が顕著な個人又は団体 ②文化芸術賞 本市の文化芸術の各分野において一定の活動実績があり、将来にわたって一層の貢献が期待できる個人又は団体 ③文化芸術奨励賞 文化芸術の各分野における一層の向上と、本市の文化芸術の振興に将来にわたって貢献できると期待できる個人又は団体 (2) 選考方法 春日井市文化振興審議会により受賞候補者を選考し、市長が決定 (3) 表彰式等 毎年表彰式を開催し、該当者へ表彰状及び記念品を贈呈																																		
	事業期間	令和6年度～																																	
過去の経緯、 主な実績等	【過去の経緯】 令和5年度 文化芸術選奨の創設を文化振興審議会で検討 令和6年度 文化芸術選奨創設 文化芸術功労賞、文化芸術賞、文化芸術奨励賞																																		
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th><th colspan="2">7年度</th><th colspan="2">6年度</th></tr> <tr> <th></th><th>応募数</th><th>受賞数</th><th>応募数</th><th>受賞数</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>文化芸術功労賞</td><td>3</td><td>3</td><td>5</td><td>5</td></tr> <tr> <td>文化芸術賞</td><td>1</td><td>1</td><td>2</td><td>2</td></tr> <tr> <td>文化芸術奨励賞</td><td>6</td><td>6</td><td>8</td><td>8</td></tr> <tr> <td>計</td><td>10</td><td>10</td><td>15</td><td>15</td></tr> </tbody> </table>					年度	7年度		6年度			応募数	受賞数	応募数	受賞数	文化芸術功労賞	3	3	5	5	文化芸術賞	1	1	2	2	文化芸術奨励賞	6	6	8	8	計	10	10	15	15
	年度	7年度		6年度																															
		応募数	受賞数	応募数	受賞数																														
	文化芸術功労賞	3	3	5	5																														
	文化芸術賞	1	1	2	2																														
	文化芸術奨励賞	6	6	8	8																														
計	10	10	15	15																															
事業費	事業費		8年度(予算)	7年度(決算)	6年度(決算)	5年度(決算)																													
			11千円	16千円	98千円	千円																													
	特定財源	国・県支出金	千円	千円	千円	千円																													
		その他	千円	千円	千円	千円																													
	一般財源		11千円	16千円	98千円	千円																													

7年度の 主な実施内容 (実績)	(実施内容・事業費等) 広報、パンフレット、ホームページ等で制度について広く周知 推薦受付 第3回文化振興審議会で受賞候補者の決定 3月21日（祝） 文化芸術選奨表彰式					
成果指標	指標名		目標値（8年度）	7年度	6年度	5年度
	応募（推薦）数		20	10	22	
これまでの 取組みに よる効果 (進捗状況)	○	判断理由 及び 具体的な 成果や 課題等	制度創設から2回目となり、募集から受賞者決定、表彰式まで滞りなく行うことができた。 広報やホームページ、新聞等で制度について広く周知を行うことができた。 また、表彰式について新聞にも大きく取り上げられた。			
		◎：期待する又は期待以上の効果があった ○：現状維持 △：期待する効果がなかった ー：評価なし				
今後の 方向性	(課題解決のために必要な方策等) ・広報やホームページ等で広く周知を行い、制度の浸透を図る。 ・各団体や学校に周知を行うなど、受賞候補者の情報を収集する。					
8年度の 主な実施内容	区分	(前年度からの拡充・縮小、変更・改善内容等)				
	継続	広報、パンフレット、ホームページ等で制度について広く周知 文化振興審議会で受賞候補者の決定 受賞者を決定し、3月中旬から下旬に表彰を行う				

第六次総合計画 事業点検シート

事業区分	継続	年度	令和8年度	整理番号	4-3-1-9	
事業名	かすがい市民文化財団自主事業 鑑賞事業 (かすがい市民文化財団運営費補助)			最終更新日	令和8年5月13日	
実施根拠	かすがい市民文化財団運営費補助金交付要綱			担当課	文化スポーツ振興課 (文化財団)	
関連計画	第2次かすがい市民文化振興プラン		関連する 附属機関	—		
総合計画 施策体系	政策分野等	4 市民活動・共生・文化・スポーツ		基本計画 重点方針	—	
	施策等	3 文化・スポーツ・生涯学習の推進				
	基本的な 方向性等	1 書道文化の振興や地域文化財の保存と活用を図るとともに、文化芸術に親しむ機会や場所の充実と文化芸術活動を担う人材の育成を促進し、誰もが文化芸術に親しむことができる環境づくりを推進します。				
目的・ 事業概要	【目的】 市民の心を豊かに育むとともに、“いきがいづくり”の一助となるよう、質の高い多彩な芸術を鑑賞する機会を提供する。 【事業概要】 一部のジャンルや世代に偏ることなく、質の高い魅力的な事業を実施し、誰もが芸術を鑑賞できる機会を提供する。また、年齢や性別、社会的状況等に関わらず、より多くの市民が鑑賞できるよう、様々な工夫や配慮を行う。 ・舞台系事業（音楽、演劇、舞踊、邦楽、伝統芸能、演芸、映画他） ・美術系事業（絵画、彫刻、写真、映像、現代美術、インスタレーション他）					
	事業期間	平成12年度～				
過去の経緯、 主な実績等	【過去の経緯】 平成12年度 かすがい市民文化財団発足 平成17年度 文芸館・市民会館 指定管理者制度導入 平成23年度 公益財団法人かすがい市民文化財団へ移行 平成24年度 文芸館・市民会館 地域創造大賞（総務大臣賞）受賞 平成26年度 かすがい市民文化財団ミッション策定 平成27年度 文化財団組織再編（グループ編成・専門職のキャリアアップ等） 令和5年度 自主事業を取りまとめる管理職「統括プロデューサー」の新設 【事業実績】 文化財団発足当初から積極的に取り組んでおり、舞台芸術公演と美術展を主軸に、質の高い鑑賞事業を展開している。市民会館、文芸館に加え、近年は東部市民センターでの開催回数を増やし、東西に長い春日井に限なく文化芸術の鑑賞機会を提供している。 鑑賞事業のラインナップは多彩であり、一流の芸術家の作品を鑑賞できることから鑑賞者満足度も高い。また、鑑賞者人口開拓を目的に、青少年が良質な芸術を安価に鑑賞できる支援制度「青少年鑑賞サポートプログラム（学生の特券）」を手掛けており、利用者が増加傾向にある。 経営面では、文化財団発足当初（12年度）は、自主財源比率46.2%と市補助金の依存度が高かったが、チケット代の見直しや経費削減を進めたことで、近年は80%を超える年もあり、自主財源比率が高まっている。公益性と収益性のバランスを取りつつ、持続可能な運営を行っている。					
	事業費	事業費		8年度(予算)	7年度(決算)	6年度(決算)
149,756千円				103,261千円	100,986千円	98,041千円
特定財源		国・県支出金	千円	千円	千円	千円
		その他	119,756千円	74,988千円	67,012千円	57,378千円
一般財源		30,000千円	28,273千円	33,974千円	40,663千円	

7年度の 主な実施内容 (実績)	(実施内容・事業費等)				
	【美術系】・96歳セツの新聞ちぎり絵原画展(7,453人 1,392,889円) ・三沢厚彦 ANIMALS 彫刻と絵画(8,239人 6,662,639円) ・横村さとる展(1,467人 3,373,760円) 【舞台系】・水曜日のカンパネラ(924人 4,988,518円) ・立川晴の輔&小春志 二人会(406人 1,719,946円) ・フォレストコンサート(868人 5,260,994円) ・ブロードウェイミュージカル「A Year with Frog and Toad〜がまくんとかえるくん」(1,654人 43,060円) ・君島大空×石若駿 外は夏の形(452人 1,933,211円) ・おでかけコマツマツリ in 春日井(2ステージ延べ213人 1,180,191円) ・走れ☆星の王子メロス(346人 3,966,050円) ・キャプテン・アメイジング(2ステージ延べ546人 6,185,168円) ・園田隆一郎指揮 愛知室内オーケストラ春日井特別演奏会(836人 5,606,722円) ・大人のハロウィン講談(107人 908,370円) ・ミュージカル「忍たま乱太郎」第15弾再演(3ステージ延べ2,777人 26,084円) ・ウルトラ6兄弟 THE LIVE ウルトラマン編(2ステージ延べ1,797人 72,440円) ・令和7年度 松竹大歌舞伎(752人 8,607,199円) ・OSK 日本歌劇団トップスター翼和希 REVUE SHOW！(2ステージ延べ1,820人 10,694,462円) ・桂文珍独演会(462人 15,400円) ・演劇×自分史プロジェクト第7弾(WS参加者延べ1,044人、公演鑑賞者391人 5,816,588円) ・屋コン&夜コン・親子のためのはじめての音楽会(14回延べ4,777人 1,517,229円) ・かすがい得1000ライブ(4回延べ1,659人 2,176,123円) ・午後のクラシック in Kozoji ※東部主催(3回延べ938人 1,630,479円) など				
成果指標	指標名	目標値(8年度)	7年度	6年度	5年度
	年間延べ鑑賞者数	43,000人	42,571人	43,109人	22,369人
	学生の特券及び文化庁子ども鑑賞体験支援事業(子ども招待)利用者数	3,000人 (うち子ども招待900人)	3,085人 (うち子ども招待649人)	892人	662人
これまでの 取組みによる効果 (進捗状況)	◎	判断理由 及び 具体的な 成果や 課題等	・「96歳セツの新聞ちぎり絵原画展」は3年ぶり2回目の開催となり、全国からファンが駆け付け、シティセールスにも繋がった。「三沢厚彦展」では市内の中学校が採用している美術教科書に掲載されている彫刻作品の実物を間近で見られるとあって、多くの子どもたちに文化施設に来場するきっかけを提供できた。「横村さとる展」では、入場者数こそ目標には達しなかったが、関連コンサートやサイン会、トークショー、コラボメニューを実施し、同氏の熱心なファンにとって満足度の高い濃い展示内容となった。 ・東部市民センター主催事業の企画制作として、「午後のクラシックin Kozoji」のシリーズ事業をスタート。平日昼間中心の開催ながら各公演で来場者数200名以上を維持し、手頃な価格設定により高齢層を中心に安定した集客を実現できた。 ・「屋コン&夜コン」では、企業団体のスポンサー制度を今期初めて導入し、11社(団体)合計100万円の協賛金を頂くことができた。来場者の寄付金も755,158円にのぼり、「市民に支えられているコンサート」という本事業の目指すあり方が、来場者の声、経済面ともに実現しつつある。		
	◎：期待する又は期待以上の効果があった ○：現状維持 △：期待する効果がなかった ―：評価なし				
今後の 方向性	(課題解決のために必要な方策等) ・引き続き良質な事業を継続し「文化度の高いまち」として認知されることで、市のイメージアップ及びシティセールスに繋げる。また、入場無料のコンサートであっても継続的に寄附金を募集し、寄附の文化を根付かせる。 ・子育てしやすいまちづくりの一助となるべく、親子向け事業の充実を図るとともに、「文化庁子供鑑賞体験支援事業」による子ども無料招待や「学生の特券」に継続的に実施することで、子どもたちに鑑賞機会を提供し、長期的な視点で文化振興を図る。 ・「演劇×自分史プロジェクト」で地域に根付いたコミュニティや演劇鑑賞者人口を醸成すべく、大規模な演劇公演を行う際には、事前の原作解説講座や鑑賞後の感想シェア会などを催し、鑑賞者が多角的な視点を持てるような機会を創出する。				
8年度の 主な実施内容	区分	(前年度からの拡充・縮小、変更・改善内容等)			
	継続	・若年層から現役世代の鑑賞機会を増やせるよう SNS を活用し、引き続き PR 方法を検討する。			

第六次総合計画 事業点検シート

事業区分	継続		年度	令和8年度	整理番号	4-3-1-10
事業名	自分史事業 (かすがい市民文化財団運営費補助)				最終更新日	令和8年5月13日
実施根拠	かすがい市民文化財団運営費補助金交付要綱				担当課	文化スポーツ振興課 (文化財団)
関連計画	第2次かすがい市民文化振興プラン			関連する 附属機関	—	
総合計画 施策体系	政策分野等	4 市民活動・共生・文化・スポーツ			基本計画 重点方針	—
	施策等	3 文化・スポーツ・生涯学習の推進				
	基本的な 方向性等	1 書道文化の振興や地域文化財の保存と活用を図るとともに、文化芸術に親しむ機会や場所の充実と文化芸術活動を担う人材の育成を促進し、誰もが文化芸術に親しむことができる環境づくりを推進します。				
目的・ 事業概要	【目的】 自分史活動により、個人を敬い、心のつながりを認識することを目指す。 【事業概要】 日本自分史センターでは時代を共有する貴重な資料として自分史を保存・公開している。また、自分史を書きたい方を支援するため、自分史の専門家に相談できる機会を設けている。「自分史講座」では、文章の書き方を学べる機会を提供している。「公募自分史」では短編の自分史を全国から公募、優秀作品として本にまとめ、令和5年度から掲載者の交流会を実施。また、令和5年には「劇場等文化施設を活用した孤独・孤立対策のための地域交流拠点の整備事業」を受託、自分史を軸としたアルバム作りや、モヤモヤを話すワークショップを実施した。この実績から、令和6年度より「モヤモヤを話す、聞く」セッションや、オンラインでの取組みとしてポッドキャスト番組を実施している。令和7年度からは、（一財）地域創造の助成を得て、隣人の人生を知り豊かなコミュニティの創出を目指す「キッチン・ストーリーズ」を高蔵寺地区でスタートした。					
	事業期間	平成12年度～				
過去の経緯、 主な実績等	平成11年度	日本自分史センターを開設し自分史相談、自分史講座、自分史シンポジウム等を開催				
	平成12年度 平成20年度	公募自分史スタート 自分史シンポジウムをより親しみやすい「自分史フェスタ」にリニューアル				
	平成30年度	文化情報プラザに自分史書架を設置。				
	令和元年度	公募自分史の募集規定を大幅に改定				
	令和4年度	浅田政志 写真展「Life Stories」を開催。				
	令和5年度	公募自分史の掲載者交流会実施。 孤独・孤立対策のための地域交流拠点の整備事業受託。				
	令和6年度	ポッドキャスト番組「そしておしゃべりは続く」開設。 「モヤモヤを話す、聞く」セッション実施。				
	令和7年度	「キッチン・ストーリーズ」を3年プログラムでスタート。				
	【事業実績】 文化フォーラム春日井開館以来、継続的に取り組んでいる自分史事業。地方自治体（公共施設）が自分史事業を柱としている事例は大変珍しい。一時期、自費出版や終活・エンディングノートがブームとなり盛り上がりをみせたが、継続的に自分史活動を行う市民の高齢化が顕著であり、事業の先細りが懸念される。 このような状況を受け、自分史のすそ野を広げようと、令和6年度に受託した「孤独・孤立対策整備事業」において自分史を社会課題解決に活用したことを受け、オンライン上での取組みとしてポッドキャスト番組を配信したり、少人数での対面セッション「モヤモヤを話す、聞く」を実施している。また、高蔵寺地区の高齢化・孤立化に取り組むため、令和7年度より「キッチン・ストーリーズ」をスタートした。					
事業費	事業費		8年度(予算)	7年度(決算)	6年度(決算)	5年度(決算)
			3,464千円	2,177千円	1,911千円	2,852千円
	特定財源	国・県支出金	千円	千円	千円	千円
		その他	1,112千円	546千円	152千円	1,153千円
	一般財源		2,352千円	1,631千円	1,759千円	1,699千円

7年度の 主な実施内容 (実績)	(実施内容・事業費等) ① 自分史活動支援（自分史センター利用者数391名利用 蔵書8,608タイトル 相談件数58件、ポッドキャスト フォロワー数722名、再生数29,693回 559,748円） ② 自分史講座（講座1回 21名、モヤモヤを話す・聞く2回 33名 計264,416円） ③ 公募自分史（応募 217 作品 626,562 円） ④ キッチン・ストーリーズ（参加者数 34 名 727,089 円）				
成果指標	指標名	目標値（8年度）	7年度	6年度	5年度
	掌編自分史応募作品数	200作品	217作品	261作品	121作品
	自分史関連事業 延べ参加者数	1,200人	1,201人	1,263人	642人
これまでの 取組みに よる効果 (進捗状況)	○	判断理由 及び 具体的な 成果や 課題等	【判断理由及び成果】 ・公募自分史では、応募数が昨年より44作品減少したが、30代以下の応募が半数を占めた。自分史は年を重ねた方が書くものと思われがちだが、子どもたちが自分自身を表現する場にもなり得る。誰もが簡単に発信できる時代に、書くことを通して自身をみつめる機会を提供するきっかけとなった。また掲載者の交流会では、普段出会うことのない年配の方と小学生が会話を交わし、感想を伝えあうなど、世代間交流につながった。7年度は独立系書店に販路を広げたため、SNSでの広報につながり、納品数を売り上げた。今後も販促を強化する。 ・自分史相談という閉じられた窓口ではなく、複数人での対話形式の講座「モヤモヤを話す、聞く」では、安全・安心な場所を担保した上で、それぞれが自己開示できるコミュニティの場を作ることができた。利害関係の無い人たちでの複数対話は、書くだけでない新たな自分史の紡ぎ方である。今年はミヒヤエル・エンデの『モモ』を題材にした、モヤモヤ会も実施。社会課題の一助となるよう、今後も活用していく。 ・ネット上での発信や双方向コミュニケーションを目的に、自分史相談のオンラインバージョンとしてポッドキャスト番組「そしておしゃべりは続く」では、オンラインの気軽さから、ゲストを迎えるなどの工夫を凝らし、進行している。 ・新たにスタートした「キッチン・ストーリーズ」では、高蔵寺での小さなコミュニティ作りにつながった。 【課題】 ・2年目以降の「キッチン・ストーリーズ」を通した、東部地区へのアプローチの、更なる拡充。		
◎：期待する又は期待以上の効果があった ○：現状維持 △：期待する効果がなかった ー：評価なし					
今後の 方向性	(課題解決のために必要な方策等) ・春日井固有の文化である「自分史事業」をジャンル横断的に展開・再構築するため、自分史プロデューサーを配置し、さまざまな水平展開で事業を行った。これまでの活動を吟味しつつ、自分史事業の新たな展開を進めていく。 ・ポッドキャスト番組の配信や「キッチン・ストーリーズ」の実施、「Life Stories プロジェクト」によるイメージ刷新に伴い、自分史をポジティブに捉えられるようなフォーマットに変わりつつある。より多くの方に知ってもらえるためにも、引き続き様々な工夫を行っていく。 ・公募自分史は、自分史PR事業となるため、自分史パンフレットと一体化し、周知をはかり、地域特有の文化として発信する。 ・利用者の利便性向上のため、自分史蔵書のデータや、あり方そのものを見直す。				
8年度の 主な実施内容	区分	(前年度からの拡充・縮小、変更・改善内容等)			
	継続	・自分史相談、オンラインでの双方向形式の対話としてポッドキャスト番組を配信。 ・自分史講座、「モヤモヤを話す、聞く」の東部地区での実施。 ・自分史のアウトリーチ「キッチン・ストーリーズ」の展開。東部地区の開拓。 ・公募自分史「あなたの“小さな”物語」の紹介にあわせ、自分史事業をPR。			

第六次総合計画 事業点検シート

事業区分	継続	年度	令和8年度	整理番号	4-3-1-11						
事業名	かすがいどこでもアート・ドア (かすがい市民文化財団運営費補助)			最終更新日	令和8年5月13日						
実施根拠	かすがい市民文化財団運営費補助金交付要綱			担当課	文化スポーツ振興課 (文化財団)						
関連計画	第2次かすがい市民文化振興プラン		関連する 附属機関	—							
総合計画 施策体系	政策分野等	4 市民活動・共生・文化・スポーツ			基本計画 重点方針	—					
	施策等	3 文化・スポーツ・生涯学習の推進									
	基本的な 方向性等	1 書道文化の振興や地域文化財の保存と活用を図るとともに、文化芸術に親しむ機会や場所の充実と文化芸術活動を担う人材の育成を促進し、誰もが文化芸術に親しむことができる環境づくりを推進します。									
目的・ 事業概要	【目的】 普段、ホールに訪れない・訪れる機会が少ない市民の元にアーティストが出向き、生の芸術文化に触れる機会を提供するアウトリーチ事業。 【事業概要】 学校や保育園、福祉施設などにアーティストを派遣し、特別授業（ワークショップ）や出張コンサートを行うもので、美術、音楽、演劇など様々なジャンルに取り組んでいる。特に小・中学校向けの音楽プログラムでは、従来の芸術鑑賞会型を発展させた授業型アウトリーチ「スクール・アート・ドア」を令和4年度より開始。費用に関しては「かすがい どこでもアート・ドア」登録アーティストの派遣分を年度末に市民メセナ基金を取り崩して事業の運営費に充当するほか、それ以外については文化財団支出としている。 令和5年度からは、学校側の希望に沿って指導案作成の段階から手厚く授業をサポートする美術系のアート・ドアも開始。指導が難しいとされる読書感想画や造形遊びなど、教員の悩みを解消しながら、児童にプロの指導を提供することを目的としている。数時間の指導で児童の創作意欲や表現力がみるみる向上しており、年々小中学校からの派遣要望が増えている。										
	事業期間	平成22年度～									
過去の経緯、 主な実績等	【過去の経緯】 平成22年度 アウトリーチ事業に本格着手 平成24年度 昼コン&夜コンに出演する演奏家を市内各施設に派遣 平成29年度 事業名を「かすがい どこでもアート・ドア」に改める 令和元年度 市より「あ〜とふるマイタウン（芸術家等派遣事業）」音楽系を移管 令和2年度 市より「あ〜とふるマイタウン（芸術家等派遣事業）」伝統芸能系を移管 令和4年度 小・中学校の授業型アウトリーチ「スクール・アート・ドア」を開始 令和5年度 「かすがい どこでもアート・ドア（美術系）」を開始 【事業実績】 幼稚園、保育園では子供たちの興味関心を引き出し、文化芸術との良き出会いの場を提供している。地域団体では、普段市民会館や文化フォーラムなどへ足を運びづらい高齢者などに、自分の生活圏内に居ながらにして文化芸術に触れる体験を提供するとともに、地域コミュニティの活性化を図っている。学校では普段の授業では得難いリアルなアートに触れる体験を通して、文化芸術の良き理解者を育成する一助となっている。また教員にとっても、授業の新しいアプローチを発見したり、文化芸術に触れて子どもたちが変化していく様子を実感したりする良い機会となっている。										
		R7	R6	R5	R4	R3	R2	R1	H30	H29	H28
	派遣アーティスト数	24	25	16	17	9	12	7	5	5	5
	訪問箇所	54	58	43	30	23	15	14	5	9	8
	延べ参加人数	4,334	6,878	5,238	4,358	2,578	1,535	1,407	653	847	653
	事業費	事業費		8年度(予算)		7年度(決算)		6年度(決算)		5年度(決算)	
3,255千円				2,417千円		2,438千円		2,287千円			
特定財源		国・県支出金	0千円		0千円		0千円		0千円		
		その他	2,700千円		0千円		178千円		192千円		
一般財源		555千円		2,417千円		2,260千円		2,095千円			

7年度の 主な実施内容 (実績)	(実施内容・事業費等) 【美術】林幸秀（造形作家/エデュケーションアドバイザー）、山田雅哉（日本画）、安藤シオン（イラストレーター）、林韓燮（名古屋柳城女子大学准教授）、吉田克己（元大手小学校校長／春日井小学校非常勤講師）、芝佐和子（日本画家/社会福祉士）、羊水サヤ（画家） 【音楽】若手音楽家支援事業登録アーティスト13名、亀居優斗（クラリネット）、瀬木理央（ヴァイオリン）、園田隆一郎（指揮・ピアノ）、福川伸陽（ホルン） 【伝統芸能】なるみ家笑天（社会人落語「楽語の会」）					
成果指標	指標名		目標値（年度）	7年度	6年度	5年度
	派遣箇所数		40箇所以上	54箇所	58箇所	43箇所
	参加者数		4,000人以上	4,334人	6,878人	5,238人
これまでの 取組みによる効果 (進捗状況)	◎	判断理由 及び 具体的な 成果や 課題等	【判断理由及び成果】 ・園田、亀居、福川の3名が5校を訪問した「アート・ドア」の結果、同氏らが出演する市民会館や東部市民センターでの公演への来場のきっかけとなり、ハイレベルな生のオーケストラ演奏をホールで聴く体験を多くの子もたちに届けることができた。鑑賞と普及の両面で地域に根差した事業展開を行うことができた。 ・派遣回数を重ね、事前のリハーサルに財団職員が積極的に関わるることによってパフォーマンスの質を向上させることができた。連続してアート・ドアの派遣先となった学校、幼稚園、保育園等への実施後アンケートでは、前回以上に良いという好意的な評価を受けている。 ・幼稚園、保育園では乳児＆年少と年中＆年長に分けての発達段階別プログラムの実施が定着し、子どもたちと現場スタッフさんに無理のない形で音楽に親しめると好評である。 ・地域団体への派遣においては、新しい地域の人々のつながりや出会いが生まれ、アート・ドア本来の趣旨である、文化による地域社会の発展が現実のものとなってきている。なお、令和7年度より紹介派遣への財団職員帯同は行っておらず参加者数がカウントできないため、成果指標の参加者数へは反映されない。 ・学校での授業型ではバリエーションが増し、学校側の様々なニーズに応えられるようになってきている。 ・美術系アウトリーチは、指導案作成の段階から教員をサポートし、教員の悩みを解決しながら、屋外や体育館で活動した。「造形あそび」などの単元をアーティストが手伝う出前授業も実施し、児童の創作意欲や表現力の向上が見られる成果を上げられた。 【課題】 ・本事業の派遣アーティストの主力である若手音楽家支援事業登録アーティストの育成。 ・市民メセナ基金（寄付）の獲得。			
◎：期待する又は期待以上の効果があった ○：現状維持 △：期待する効果がなかった ー：評価なし						
今後の 方向性	（課題解決のために必要な方策等） ・永賢組からの協賛金を得ることが出来たため、より一層の内容の充実を図れるようにする。 ・「午後のクラシックin Kozoji」等の有料公演と連動しながらアーティストを地域派遣し、鑑賞と普及の両面で地域に根差した事業展開を行う。 ・前年度並みの派遣回数、参加者数を維持しつつも、一つ一つの内容の充実を図る。特に若手音楽家支援事業登録アーティストの出演するプログラムは、前年度の様々な試行錯誤を活かし、よりアーティスト自身が主体的に各派遣先のニーズを組んだプログラムを創る。 ・学校の芸術鑑賞会や地域の敬老会、公民館やふれあいセンターの主催イベントでアーティストに直接謝礼が支払われる「紹介型」のアート・ドアを増やしていく。 ・本事業が市民メセナ基金活用事業であることをより広くPRし、市内の個人や企業の支援を受けられるよう努める。					
8年度の 主な実施内容	区分	（前年度からの拡充・縮小、変更・改善内容等）				
	継続	・小中学校の授業型アウトリーチ「スクール・アート・ドア」については特にアーティストのクオリティを担保するために、アウトリーチのアドバイザーによるフォローアップセミナーを開催するなど、若手音楽家の育成に力を入れる。 ・永賢組の「100万人のクラシックライブ」とも協力し、多くの地域で、演奏を届けられるようにする。				

第六次総合計画 事業点検シート

事業区分	継続	年度	令和8年度	整理番号	4-3-1-12	
事業名	道風記念館展示（道風記念館事業）			最終更新日	令和8年5月20日	
実施根拠	道風記念館条例			担当課	道風記念館	
関連計画	第2次かすがい市民文化振興プラン		関連する 附属機関	道風記念館運営協議会		
総合計画 施策体系	政策分野等	4 市民活動・共生・文化・スポーツ		基本計画 重点方針	—	
	施策等	3 文化・スポーツ・生涯学習の推進				
	基本的な 方向性等	1 書道文化の振興や地域文化財の保存と活用を図るとともに、文化芸術に親しむ機会や場の充実と文化芸術活動を担う人材の育成を促進し、誰もが文化芸術に親しむことができる環境づくりを推進します。				
目的・ 事業概要	【目的】 小野道風の偉業を顕彰し後世に伝えるとともに、書専門の美術館として、貴重な書道関係資料の収集・保存・活用を図る。様々な展覧会を開催し、誰もが書に親しめる場所をつくる。					
	【事業概要】 1 特別展：平安・鎌倉時代の古筆、中国古代の碑拓本など貴重な資料を展示する。（隔年1回） 2 企画展：子ども向けの展覧会や、郷土の著名書家の遺墨展などを開催する。（年1～2回） 3 館蔵品展：様々なテーマを設けて館蔵の近現代書作品を展示する。（年3回） 4 常設展：小野道風を中心とする平安時代の書に関する資料を常設展示する。					
	事業期間	昭和56年度～				
過去の経緯、 主な実績等	昭和56年11月に開館し、令和7年度で44年が経過した。毎回異なったテーマを設け、すべての展示を自主企画して開催している。また、展覧会の内容に応じた講演会、ギャラリートーク、展示品解説を実施している。					
	1 特別記念展覧会 昭和61年度 開館5周年記念特別展「八幡切」 平成3年度 開館10周年記念特別展「書聖小野道風」 平成13年度 開館20周年記念特別展「空海と道風」 平成15年度 市制施行60周年記念特別展「古筆の美～古筆を守り伝える心～」 平成23年度 開館30周年記念春の特別展「美術としての書、文学資料としての書」 平成23年度 開館30周年記念秋の特別展「春日井市道風記念館所蔵名品展」 令和3年度 開館40周年記念特別展「書の美、書の価値～つたえるということ～」 2 過去3年の特別展 令和4年度 特別展「生誕110年記念 比田井南谷～線の芸術～」 令和5年度 特別展「人と書～日本の書の息吹～」 令和6年度 特別展「岡寺版集帖」 3 過去3年の企画展 令和4年度 企画展「おののとうふう～道風が生きた時代～」 企画展「松下芝堂」 令和5年度 企画展「おののとうふう～和様の書をつくった三跡～」 企画展「中国名碑拓本展」 令和6年度 企画展「おののとうふう～中国の書と和様の書～」 企画展「道風記念館所蔵現代の書優品展」					
事業費	事業費		8年度(予算)	7年度(決算)	6年度(決算)	5年度(決算)
			4,076千円	5,396千円	5,455千円	6,169千円
	特定財源	国・県支出金	0千円	0千円	0千円	0千円
		その他	0千円	0千円	0千円	0千円
	一般財源		4,076千円	5,396千円	5,455千円	6,169千円

第六次総合計画 事業点検シート

7年度の 主な実施内容 (実績)	(実施内容・事業費等) 1 特別展:「刻された古代日本の書」475人 2 企画展:「藤田蒼碩の書」1,255人 「おののとうふう〜小野一族のひみつ〜」726人 3 館蔵品展:「小さきものはみな愛し」692人(4月1日から) 「一回性の美学」777人 「書の魅力」3,178人 「その地を想って筆をとる」369人(3月31日まで)					
成果指標	指標名		目標値(8年度)	7年度	6年度	5年度
	観覧者数		8,000人	7,472人	7,101人	6,465人
これまでの 取組みに よる効果 (進捗状況)	○	判断理由 及び 具体的な 成果や 課題等	判断理由・成果 ・昭和56年に開館以来、継続して展覧会等事業を実施することにより、書専門の美術館としての全国的な認知度は高い。 ・書を専門とし、毎回異なったテーマを設け、すべての展示を自主企画して継続開催している。その点で美術館博物館関係の有識者や、書に関心のある人から高い評価を得ている。 課題 ・来館者から「書はわからない。興味がない。」という意見をよく耳にする。書に興味のない人にも来館してもらいたい。 ・書作品や書道関係書籍の寄贈の申し出はあるが、収蔵スペースに余裕がないため、有益な資料でも採納できない。 ・市域の南西端に位置し、交通アクセスも良くないため、自動車以外での来館が難しい。			
		◎:期待する又は期待以上の効果があった ○:現状維持 △:期待する効果がなかった ー:評価なし				
今後の 方向性	(課題解決のために必要な方策等) ・展示内容など事業の質を落とさないようにしながら、丁寧でわかりやすい解説パネルを心がける。また初心者向けの展示品解説も継続して開催し、親しみやすい美術館を目指す。 ・書に興味のない人に来館してもらい、書に興味を持ってもらうために工夫をする。特に子どものうちから書に親しんでもらう環境をつくるため、子ども向けの企画展を夏休みに開催し、ワークショップを継続開催する。 ・有限である収蔵スペースを有効利用するため、新たに収蔵する品をよく精査する。スペースを取る額装作品や屏風はできるだけコンパクトな軸装へと再表装していく。文化フォーラム春日井の収蔵庫を一部借用する予定をしており、移動する作品を選別中である。しかし許容量を大幅に越えているので、借用後もスペースは足りず、収蔵庫の拡大を検討する必要がある。					
8年度の 主な実施内容	区分	(前年度からの拡充・縮小、変更・改善内容等)				
	縮小	年間を通じて、自主企画事業を継続実施する。 1 特別展:本年度より隔年開催とし、実施しない。 2 企画展:「おののとうふう〜和様の書のうつりかわり〜」 「書の魅力」 3 館蔵品展:「心ととのう書」始め3回				

第六次総合計画 事業点検シート

事業区分	継続	年度	令和8年度	整理番号	4-3-1-13	
事業名	道風記念館講座（道風記念館事業）			最終更新日	令和8年5月20日	
実施根拠	道風記念館条例			担当課	道風記念館	
関連計画	第2次かすがい市民文化振興プラン		関連する 附属機関	道風記念館運営協議会		
総合計画 施策体系	政策分野等	4 市民活動・共生・文化・スポーツ		基本計画 重点方針	—	
	施策等	3 文化・スポーツ・生涯学習の推進				
	基本的な 方向性等	1 書道文化の振興や地域文化財の保存と活用を図るとともに、文化芸術に親しむ機会や場の充実と文化芸術活動を担う人材の育成を促進し、誰もが文化芸術に親しむことができる環境づくりを推進します。				
目的・ 事業概要	【目的】 書専門の美術館として、書の鑑賞の手助けとなり、書に親しみを持ってもらえるような講座を開催する。 【事業概要】 1 道風記念館講座 書をより楽しく深く鑑賞するために開催する書道史や文字学、文学等幅広い内容の講座。 2 臨書講座 実技を通して書に親しみ、書の鑑賞眼を養うために開催する臨書講座。 3 子ども・家族向けワークショップ 夏休みに開催する企画展「おののとうふう」の関連事業として開催する実技講座。					
	事業期間	昭和56年度～				
過去の経緯、 主な実績等	一般向けの座学講座・臨書実技講座では、毎回異なったテーマの講座を継続開催している。 平成21年度からは、夏休み期間中に子ども向けワークショップを開催している。 1 過去5年の道風記念館講座 令和2年度 「王朝文学と古筆切」 講師：日比野浩信氏 令和3年度 新型コロナウイルス流行のため中止 令和4年度 「手紙を楽しむ」 講師：山本祐子氏 令和5年度 「書にふれる、はじめての講座」 講師：橋詰桃邨氏 令和6年度 「源氏物語絵巻の魅力にせまる」 講師：四辻秀紀氏 初心者向け講座「書にふれる、はじめての講座」 講師：橋詰桃邨氏 2 過去5年の臨書講座 令和2年度 「三色紙をかく」 講師：村瀬俊彦氏 令和3年度 新型コロナウイルス流行のため中止 令和4年度 「高野切第一種をかく」講師：近藤浩平氏 令和5年度 「道風と行成」 講師：安達柏亭氏 令和6年度 「伝藤原行成筆重之集をかく」① 講師：馬場紀行氏 3 ワークショップ 「道風くんにチャレンジ！」 家族で楽しみながら、オリジナル道風くんうちわをつくる 「秘密の特訓」 小学校2年生～6年生向けの書の実技指導 「はじめてのふで」 年長～小学校1年生向けの書の実技指導					
	事業費	事業費		8年度(予算)	7年度(決算)	6年度(決算)
504千円				472千円	434千円	328千円
特定財源		国・県支出金	0千円	0千円	0千円	0千円
		その他	135千円	135千円	135千円	135千円
一般財源		369千円	337千円	299千円	193千円	

第六次総合計画 事業点検シート

7年度の 主な実施内容 (実績)	(実施内容・事業費等)					
	1 「写本・版本・古筆切」 講師：日比野浩信氏 受講者数：28名					
	2 臨書講座「伝藤原行成筆重之集をかく」② 講師：馬場紀行氏 受講者数：23名					
	3 「古筆で和歌をよむ」 講師：日比野浩信氏 受講者数：30名					
	4 ワークショップ「筆ってこうつかうんだ！2・3年生クラス」 参加者数：55名					
	5 ワークショップ「筆ってこうつかうんだ！4～6年生クラス」 参加者数：29名					
	6 ワークショップ「はじめてのふで」 参加者数：56名					
	7 ワークショップ「道風くんにチャレンジ！」 参加者数：48名					
8 こどもガイドツアー 参加者数：4人						
成果指標	指標名		目標値（8年度）	7年度	6年度	5年度
	受講者数		300人	273人	331人	371人
これまでの 取組みに よる効果 (進捗状況)	○	判断理由 及び 具体的な 成果や 課題等	判断理由・成果 ・道風記念館講座、臨書講座、ワークショップのすべてにおいて受講希望者が多く、定員を超える応募者がある。受講者は熱心に講座を受講し、展覧会を観覧して、書に関する知識や鑑賞眼を高めることができている。 ・受講希望者が定員を超えた場合は講師と交渉し定員を増やしたり講座数を増やすなどして受講者側に立った対応を心がけている。また、道風記念館講座、臨書講座、ワークショップのすべてにおいてリピート率が高いため、受講者の満足度も高いと思われる。 ・5～7年度はワークショップの効果を上げるため受講定員数を絞った。講師・参加者からの評判はよく、効果は上がったといえる。			
			課題 ・道風記念館講座、臨書講座について、講師、受講者ともにレベルの高い良質な講座であるが、その分初心者が受講しにくい状況があった。初心者限定の講座の開講を試みている。新しい受講者を獲得できる機会であるが、受講希望者が少人数であるため、数年おきの開催とすることとした。			
◎：期待する又は期待以上の効果があった ○：現状維持 △：期待する効果がなかった ー：評価なし						
今後の 方向性	(課題解決のために必要な方策等) ・書の美術館である道風記念館で開講する講座ということで、レベルの高い講座を望まれているのを感じる。多彩で質の高い講座内容を提供し、受講者数を調節するなど、受講者が高い満足度を得られる講座を継続的に開講していく。 ・書の愛好者の増加を図るため、初心者向け講座の運営を引き続き試みていく。受講希望者が少ないことが予想されるため、数年おきの開催とする。					
8年度の 主な実施内容	区分	(前年度からの拡充・縮小、変更・改善内容等)				
	継続	1 臨書講座「古写経の鑑賞と臨書」 講師：安達柏亭氏 2 道風記念館講座「古筆で和歌をよむ」 講師：日比野浩信氏 3 ワークショップ「筆ってこうつかうんだ！2・3年生クラス」 4 ワークショップ「筆ってこうつかうんだ！4～6年生クラス」 5 ワークショップ「はじめてのふで」 6 ワークショップ「道風くんにチャレンジ！」 7 企画展おののとうふう 子どもガイドツアー				

第六次総合計画 事業点検シート

事業区分	継続	年度	令和8年度	整理番号	4-3-1-14	
事業名	道風の書臨書作品展（道風記念館事業）			最終更新日	令和8年5月20日	
実施根拠	道風記念館条例			担当課	道風記念館	
関連計画	第2次かすがい市民文化振興プラン		関連する 附属機関	道風記念館運営協議会		
総合計画 施策体系	政策分野等	4 市民活動・共生・文化・スポーツ		基本計画 重点方針	—	
	施策等	3 文化・スポーツ・生涯学習の推進				
	基本的な 方向性等	1 書道文化の振興や地域文化財の保存と活用を図るとともに、文化芸術に親しむ機会や場の充実と文化芸術活動を担う人材の育成を促進し、誰もが文化芸術に親しむことができる環境づくりを推進します。				
目的・ 事業概要	【目的】 小野道風の書を学ぶ機会を創出することで、道風の偉業を顕彰し広く世に伝える。					
	【事業概要】 和様の書を創始した小野道風の書と、道風の書を継承した藤原佐理、藤原行成の書を課題に作品を公募し、展覧会を開催する。					
	事業期間	昭和56年度～				
過去の経緯、 主な実績等	昭和56年11月の開館以来継続して開催している。					
	本事業の特徴 1 道風記念館顧問である古筆研究家による、公平な審査であること。 2 優秀作品は、道風記念館に永年保存すること。 3 課題となった古筆を原寸大で臨書すること。 4 出品料、表装料ともに無料であること。					
過去の経緯、 主な実績等	過去3年の課題 令和4年度 一般部 「小野道風筆屏風土代」 応募点数247点 「伝小野道風筆小島切」 応募点数 224点 高校生部 「小野道風筆屏風土代」 応募点数2,230点 「伝小野道風筆継色紙」 応募点数190点 令和5年度 一般部 「藤原佐理筆詩懷紙」 応募点数215点 「伝小野道風筆秋萩帖」 応募点数273点 高校生部 「小野道風筆玉泉帖」 応募点数2,230点 「伝小野道風筆本阿弥切」 応募点数148点 令和6年度 一般部 「小野道風筆玉泉帖」 応募点数230点 「伝藤原行成筆粘葉本和漢朗詠集」 応募点数 279点 高校生部 「小野道風筆智証大師諡号勅書」 応募点数2,492点 「伝小野道風筆小島切」 応募点数223点					
事業費	事業費		8年度(予算)	7年度(決算)	6年度(決算)	5年度(決算)
			1,463千円	1,355千円	1,317千円	1,134千円
	特定財源	国・県支出金	0千円	0千円	0千円	0千円
		その他	0千円	0千円	0千円	0千円
	一般財源		1,463千円	1,355千円	1,317千円	1,134千円

第六次総合計画 事業点検シート

7年度の 主な実施内容 (実績)	(実施内容・事業費等) 第44回道風の書臨書作品展 一般部課題「小野道風筆屏風土代」応募点数224点 「伝小野道風筆継色紙」応募点数341点 高校生部課題「小野道風筆屏風土代」応募点数2,243点 「伝小野道風秋萩城」応募点数286点					
成果指標	指標名		目標値（8年度）	7年度	6年度	5年度
	応募点数		3,300点	3,094点	3,224点	2,866点
これまでの 取組みに よる効果 (進捗状況)	○	判断理由 及び 具体的な 成果や 課題等	判断理由・成果 ・特に一般部は、団体出品ではなく個人出品であるため、書の指導者を介さずに個人が出品可能である。さらに出品料が不要であるため、気軽な出品が可能である。よって全国的に広範囲の地域から作品応募がある。 ・道風の創始した和様の書は、現代では書かれることが少ないため、この公募展が道風の書を学ぶ貴重な機会となり、道風の書の顕彰につながっている。 ・全国各地から作品の応募があるため、書のまち春日井及び道風記念館、小野道風の認知度を上げている。 ・コロナ禍の中において授業削減等のあった高校からの出品数が減少したが、回復しつつある。 課題 ・本公募展は、長年にわたり毎年出品される参加者の割合が多く、44年実施するなかで出品者も高齢化し、今後応募点数が減少していく可能性が高い。			
			◎：期待する又は期待以上の効果があった　○：現状維持　△：期待する効果がなかった　―：評価なし			
今後の 方向性	(課題解決のために必要な方策等) ・若い世代の出品者を増やす必要がある。今までは、書道をたしなむ高年齢層がインターネットを使用しない傾向にあることから、書道関係雑誌など紙媒体によるPRを中心にしてきた。今後はそれに加え、本公募展の実施状況などを詳しくHPに掲載するなどして、広い年齢層に向けて情報を提供することで、出品数の増加を図る。 ・県外からの出品者も多いため、表彰式を継続して開催し、来館を促してPRを図る。					
8年度の 主な実施内容	区分	(前年度からの拡充・縮小、変更・改善内容等)				
	継続	第45回道風の書臨書作品展 一般部課題「藤原行成筆白氏詩巻」 「伝小野道風筆本阿弥切」 高校生部課題「小野道風筆玉泉帖」 「伝小野道風筆継色紙」				

第六次総合計画 事業点検シート

事業区分	継続	年度	令和8年度	整理番号	4-3-1-15	
事業名	道風記念館だより（道風記念館事業）			最終更新日	令和8年5月20日	
実施根拠	道風記念館条例			担当課	道風記念館	
関連計画	第2次かすがい市民文化振興プラン		関連する 附属機関	道風記念館運営協議会		
総合計画 施策体系	政策分野等	4 市民活動・共生・文化・スポーツ			基本計画 重点方針	—
	施策等	3 文化・スポーツ・生涯学習の推進				
	基本的な 方向性等	1 書道文化の振興や地域文化財の保存と活用を図るとともに、文化芸術に親しむ機会や場の充実と文化芸術活動を担う人材の育成を促進し、誰もが文化芸術に親しむことができる環境づくりを推進します。				
目的・ 事業概要	【目的】 来館者や博物館関係者に向けて道風記念館の情報を発信し、PRを図る。 【事業概要】 道風記念館だよりを年2回発行する。 1年間の事業報告やこれからの展覧会案内を始め、小野道風や書についての研究発表など、様々な記事を掲載する。					
	事業期間	昭和56年度～				
過去の経緯、 主な実績等	昭和56年11月の開館以来継続して発行している。 令和8年度より事業縮小し、年4回の発行を年2回発行することとした。 1 タイトル 道風記念館だより 2 発行予定 年4回（9月、3月） 3 規格 B5判、モノクロ印刷 4頁 4 発行部数 3,000部 5 主な配布先 事業協力者 500名 愛知県博物館協会加盟館、書関係美術館 216館 全国美術博物館 225館 市出先機関 26箇所 来館者					
事業費	事業費		8年度(予算)	7年度(決算)	6年度(決算)	5年度(決算)
			238千円	367千円	368千円	394千円
	特定財源	国・県支出金	0千円	0千円	0千円	0千円
		その他	0千円	0千円	0千円	0千円
	一般財源		238千円	367千円	368円	394千円

第六次総合計画 事業点検シート

7年度の 主な実施内容 (実績)	(実施内容・事業費等) 道風記念館だより第75号～78号を発行 ・第75号掲載記事 収蔵品紹介、連載「中国古代の簡牘」、令和6年度事業報告、展覧会案内 ・第76号掲載記事 展示品紹介、特別展案内、令和7年度後期スケジュール、臨書作品募集 ・第77号掲載記事 収蔵品紹介、連載「料紙装飾の魅力」 ・第78号掲載記事 収蔵品紹介、連載「本朝能書伝」、令和8年前期スケジュール、臨書作品募集					
成果指標	指標名		目標値（8年度）	7年度	6年度	5度
	発行回数		2号	4号	4号	4号
これまでの 取組みに よる効果 (進捗状況)	○	判断理由 及び 具体的な 成果や 課題等	判断理由・成果 ・道風記念館の情報を継続して発信することで、PRにつながっている。 ・小野道風や書についての記事を多く掲載しているため、資料としての価値がある。 ・過去1年間に発行した記念館だよりをHP上で公開することとし、より多くの人の目に触れる機会を創出している。 課題 ・配布方法として、全国の美術館等に広く配布している他、館内に設置し、来館者が自由に持ち帰ることができるようにしている。また、発行から1年間はホームページで公開している。美術館関係者等専門家からは評価は高いが、一般の読者数は多くないと思われる。			
			◎：期待する又は期待以上の効果があった ○：現状維持 △：期待する効果がなかった ー：評価なし			
今後の 方向性	(課題解決のために必要な方策等) ・一般の読者も楽しめるよう、その時々合った展覧会の案内や多彩な内容の記事を掲載する。 ・既刊の記念館だよりの有益記事をまとめて出版するため、編集作業をつづける。					
8年度の 主な実施内容	区分	(前年度からの拡充・縮小、変更・改善内容等)				
	縮小	年4回発行から年2回の発行とする。 道風記念館だより第79～80号を発行する。				

第六次総合計画 事業点検シート

事業区分	継続	年度	令和8年度	整理番号	4-3-1-16	
事業名	道風記念館グッズ販売（道風記念館事業）			最終更新日	令和8年5月20日	
実施根拠	道風記念館条例			担当課	道風記念館	
関連計画	第2次かすがい市民文化振興プラン		関連する 附属機関	—		
総合計画 施策体系	政策分野等	4 市民活動・共生・文化・スポーツ			基本計画 重点方針	—
	施策等	3 文化・スポーツ・生涯学習の推進				
	基本的な 方向性等	1 書道文化の振興や地域文化財の保存と活用を図るとともに、文化芸術に親しむ機会や場の充実と文化芸術活動を担う人材の育成を促進し、誰もが文化芸術に親しむことができる環境づくりを推進します。				
目的・ 事業概要	【目的】 オリジナルグッズや、書の美術館ならではのグッズを土産物として販売し、来館者の満足度を上げる。 【事業概要】 オリジナルグッズの制作・販売。書道用具や書道関係の書籍など、書の美術館ならではのグッズの仕入れ・販売。					
	事業期間	昭和56年度～				
過去の経緯、 主な実績等	オリジナルグッズや、書の美術館ならではのグッズを販売している。 オリジナルグッズ ・所蔵作品をデザインしたポストカード、一筆箋、便箋、メモロール、クリアファイルなど ・小野道風や蛙、柳をデザインした文鎮、しおり、便箋、ノートなど 書の美術館ならではのグッズ ・筆、墨、硯、筆置きなどの書道用具 ・小野道風や書に関する書籍					
事業費	事業費		8年度(予算)	7年度(決算)	6年度(決算)	5年度(決算)
			400千円	472千円	527千円	541千円
	特定財源	国・県支出金	0千円	0千円	0千円	0千円
		その他	0千円	0千円	0千円	0千円
	一般財源		400千円	472千円	527千円	541千円

第六次総合計画 事業点検シート

7年度の 主な実施内容 (実績)	(実施内容・事業費等) オリジナルグッズの制作・販売。書道用具や書道関係の書籍など、書の美術館ならではのグッズの仕入れ・販売。					
成果指標	指標名		目標値(8年度)	7年度	6年度	5年度
	売上高		900千円	985千円	734千円	544円
これまでの 取組みによる効果 (進捗状況)	○	判断理由 及び 具体的な 成果や 課題等	判断理由・成果 ・オリジナルグッズは販売後、館のPRにつながるため、より意味のある販売物品といえる。 ・来館者のニーズに対応した選りすぐりの書道用具を仕入れており、特に筆の販売状況がよい。 課題 ・魅力ある展示を開催し、特別展開連商品を仕入れる等の工夫を継続していく必要がある。 ・販売スペースが狭いこと。			
		◎：期待する又は期待以上の効果があった ○：現状維持 △：期待する効果がなかった ー：評価なし				
今後の 方向性	(課題解決のために必要な方策等) ・販売スペースは狭くとも、新たに棚を設ける等、効果的なディスプレイになるよう工夫する必要がある。 ・説明を加えるなど商品の魅力を引き出す工夫をしながら書の美術館ならではのグッズを販売していく。 ・売れるオリジナルグッズづくりをすすめる。					
8年度の 主な実施内容	区分	(前年度からの拡充・縮小、変更・改善内容等)				
	継続	オリジナルグッズの制作・販売。書道用具や書道関係の書籍など、書の美術館ならではのグッズの仕入れ・販売。				

政策分野等	4 市民活動・共生・文化・スポーツ	更新日	令和8年5月29日
施策等	3 文化・スポーツ・生涯学習の推進	担当部	いきがい創生部
基本的な方向性等	2 身近にスポーツに親しむことができる機会や場を確保し、生涯スポーツやコミュニティスポーツを推進するとともに、スポーツ活動を支える人材の育成を促進し、誰もがいつでもスポーツを楽しむことができる環境づくりを推進します。		

施策を構成する事業						
番号	事業名	8年度 事業区分	事業費（千円）		継続 評価	担当課
			7年度 （決算）	8年度 （予算）		
1	学校体育施設開放	継続	1,884	2,087	○	文化スポーツ振興課
2	新春春日井マラソン大会	継続	11,479	11,500	◎	文化スポーツ振興課
3	スポーツ・ふれあい財団運営費補助	継続	774,067	756,000	○	文化スポーツ振興課
4	スポーツ協会補助	継続	7,231	7,500	○	文化スポーツ振興課
5	レクリエーションスポーツ祭（レクスボ普及・振興事業）	継続	1,300	1,214	◎	文化スポーツ振興課
6	学校区スポーツ振興	継続	110	110	○	文化スポーツ振興課
7	市民スポーツ大会	継続	2,065	2,800	○	文化スポーツ振興課
8	文化スポーツ応援団（スポーツ応援事業）	継続	5,765	3,850	○	文化スポーツ振興課
9	スポーツ賞表彰・全国大会等支援	継続	807	1,173	○	文化スポーツ振興課
10	総合体育館等体育施設管理	継続	531,144	489,306	○	文化スポーツ振興課
11	屋外体育施設管理	継続	46,137	49,547	○	文化スポーツ振興課
12	アジア競技大会関連事業	拡充	439,397	11,000	○	文化スポーツ振興課
13	大学と連携したスポーツの推進	継続	—	—	◎	文化スポーツ振興課
事業費合計						

関連する 総合計画 成果指標	指標名	直近値（年度）	目標
	文化・スポーツ活動や生涯学習に関する団体の会員数（人）	47,095 (2025年度)	60,300 (2026年度)

総合計画成果指標や施策を構成する事業の成果に基づく効果検証			
効果 (進捗状況)	○	◎：期待する又は期待以上の成果があった ○：現状維持 △：期待する成果がなかった	
理由 (主な成果 や課題を踏 まえた効果 検証等)	【成果】 スポーツには様々な種目があり、また、市民がスポーツに取り組む目的も、健康増進や競技力向上、レクリエーション、他者との交流など多様である。このような多様なニーズに応えるために、総合体育館を始めとするスポーツ施設について、専門的知識を有するスポーツ・ふれあい財団を指定管理者として、さらにスポーツ協会など市以外の多様な主体と連携することで、世代に応じた機会の提供や教室の開催などにより、生涯スポーツを推進している。 また、継続的に開催されている全国高等学校剣道選抜大会や、都市対抗野球大会への市内企業出場に対する支援は、トップレベルのスポーツ観戦機会の提供だけでなく、全国に向けた市のPRの一助となっている。 スポーツ施設については、劣化箇所の修繕や、利便性向上のための工事を計画的に実施することで、利用者が安全安心にスポーツに取り組むことができる環境を提供できている。		
	【課題】 ・引き続き多様な主体との連携を推進する必要がある。 ・安全安心なスポーツ環境整備に向け、老朽化した設備の更新を計画的に進める必要がある。		
今後の 方向性 (課題解決 の方策等)	施策の取組方針	○	◎重点・強化 ○維持 △縮小
	・スポーツに関して豊富な資源を有する中部大学と連携を続けていく。 ・引続き、スポーツ・ふれあい財団やスポーツ協会を始めとする関係団体と連携して各種スポーツイベントを実施する。また、剣道の全国大会等の大規模大会についても、円滑な開催に向け、主催者と調整する。 ・総合体育館等のスポーツ施設については、指定管理者であるスポーツ・ふれあい財団や各業務委託先、市関係部署等と緊密な連携を図りながら、引き続き効率的な管理運営と良好なスポーツ環境の整備に向けた計画的な修繕工事を実施し、安全安心なスポーツに取り組むことができる環境整備に努める。 ・総合体育館のネーミングライツ事業について、ネーミングライツ料を施設の維持・管理費に充当するとともに、パートナー企業との連携に努める。 ・アジア競技大会開催に向けた改修工事については、市関係部署や大会組織委員会と綿密な調整を行いながら施設利用者に配慮しつつ国際大会の開催水準を満たすよう施設整備を進め、合わせて老朽箇所の修繕を計画的に行う。		

関連する附属機関の意見等

第六次総合計画 事業点検シート

事業区分	継続	年度	令和8年度	整理番号	4-3-2-1	
事業名	学校体育施設開放			最終更新日	令和8年5月29日	
実施根拠	春日井市スポーツ振興基本条例 春日井市立学校体育施設の開放に関する規則 春日井市県立学校体育施設スポーツ開放実施要綱			担当課	文化スポーツ振興課	
関連計画	—		関連する 附属機関	—		
総合計画 施策体系	政策分野等	4 市民活動・共生・文化・スポーツ		基本計画 重点方針	—	
	施策等	3 文化・スポーツ・生涯学習の推進				
	基本的な 方向性等	2 身近にスポーツに親しむことができる機会や場を確保し、生涯スポーツやコミュニティスポーツを推進するとともに、スポーツ活動を支える人材の育成を促進し、誰もがいつでもスポーツを楽しむことができる環境づくりを推進します。				
目的・ 事業概要	【目的】 市立小中学校及び県立学校の体育施設を、学校教育に支障のない範囲で地域住民等に開放することにより、社会体育の振興を図り、市民の誰もがスポーツに親しむことができる生涯スポーツ社会を実現する。 【事業概要】 (1) 小中学校体育施設開放（春日井市立学校体育施設の開放に関する規則） ア) 開放校 52校（小学校37校、中学校15校） イ) 対象者 市内に在住、在勤、在学する者で構成される10人以上の団体 ウ) 開放時期 平日夜間及び土・日曜日の午前、午後、夜間（中学校は平日及び土・日曜日とも夜間のみ） エ) 実費徴収金 体育館：小学校 1回500円、中学校及び丸田・出川小学校 1回800円 武道場（中学校）：1回500円 空調機使用料金 1時間480円 オ) 利用手順 1月に広報等で次年度利用団体を募集（希望が重複する場合は調整） ※（公財）春日井市スポーツ・ふれあい財団に事務を委託 (2) 県立学校体育施設開放（春日井市県立学校体育施設スポーツ開放実施要綱） ア) 開放校 6校（校庭） イ) 対象者 市内に在住、在勤、在学する者で構成される10人以上の団体 ウ) 開放時期 学校教育などで使用しない土・日曜日、祝休日 エ) 使用料 無料 オ) 利用手順 3月に広報等で次年度利用団体を募集（希望が重複する場合は抽選会を実施し、希望日の利用を許可） ※開放校の門扉解錠や見回り等の業務を行う管理指導員を設置					
	事業期間	昭和61年～				
過去の経緯、 主な実績等	・平成26年度から、藤山台東小学校閉校及び藤山台小学校との統合に伴い、小学校の開放数が39校から38校となった。 ・平成28年度から、西藤山台小学校閉校及び藤山台小学校との統合に伴い、また新たに開校した藤山台小学校の体育館を1年間非開放としたため、小学校の開放数が36校となった。なお、旧藤山台東小学校施設及び旧西藤山台小学校施設の体育館開放事業がニュータウン創生課主管で開始された。 ・平成29年度から、藤山台小学校体育館及び春日井高等特別支援学校運動場の開放を開始し、開放学校数が、小学校37校、県立学校8校となった。 ・令和元年度～令和3年度にかけて、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和2年3月1日から令和2年10月31日まで、令和3年1月18日から3月7日まで、令和3年5月12日から6月20日まで、8月30日から9月30日まで、及び1月29日から当面の間の開放を休止 ・令和8年4月24日より空調機使用料金徴収開始。					
事業費	事業費		8年度(予算)	7年度(決算)	6年度(決算)	5年度(決算)
			2,087千円	1,884千円	1,989千円	1,753千円
	特定財源	国・県支出金	千円	千円	千円	千円
		その他	2,087千円	1,884千円	1,989千円	1,753千円
一般財源			千円	千円	千円	千円

7年度の 主な実施内容 (実績)	(実施内容・事業費等)					
	小中学校 中学校 市内県立学校	体育館 武道場 校庭	52校 15校 6校	延べ利用者数 延べ利用者数 延べ利用者数	276,984人 20,332人 682人	
成果指標	指標名		目標値(年度)	7年度	6年度	5年度
	施設開放学校数		60校(R8)	60校	60校	60校
	延べ利用者		300,000人(R8)	297,998人	289,371人	294,563人
これまでの 取組みに よる効果 (進捗状況)	○	判断理由 及び 具体的な 成果や 課題等	【成果】 ・身近な学校体育施設を利用してスポーツを継続的に親しむことができる事業として安定したニーズがあり、生涯スポーツの推進に貢献している。 (土日は90%以上、平日は70%の利用率がある) 【課題】 ＜小中学校体育施設開放＞ ・夜間開放時の音や光等の近隣住民への配慮 ・中長期的な修繕又は工事実施に係る施設営繕担当課との綿密な情報共有、利用団体への迅速な情報提供 ・体育館電球等の消耗品、消耗備品の取替え等の迅速な対応 ・夏季における熱中症対策 ・各学校での体育施設開放運営委員会のあり方の検討 ・募集方法や利用許可など、多くの団体が公平に使用することができ、過度な事務負担にならないよう事業の見直しが必要。 ＜県立学校体育施設開放＞ ・適切な施設使用の周知 ・啓発			
			◎：期待する又は期待以上の効果があった　○：現状維持　△：期待する効果がなかった　－：評価なし			
今後の 方向性	(課題解決のために必要な方策等) ＜小中学校体育施設開放＞ ・利用者のニーズを把握しながら適切な安全管理と近隣住民への配慮を行い、合わせて適正な受益者負担により、事業を継続する。 ・施設営繕担当課や開放校と情報共有と連携を図り、修繕又は工事実施計画を把握するとともに、利用団体への迅速な情報提供を行い、安心かつ満足して利用できるよう事業を実施する。 ・中長期的な修繕又は工事施工期間中における開放については、利用に係る安全を優先し、利用休止を検討する。 ・各学校での体育施設開放運営委員会のあり方について、現方式の継続、変更等を検討する。 ・空調機使用料金を実費徴収要綱から令和9年度から施設使用料及び空調使用料を包括した条例とする。 ・他市町村の運用を調査し、運用の見直しを検討する。 ＜県立学校体育施設開放＞ ・開放校や管理指導員と連携を図りながら、事業を継続する。					
8年度の 主な実施内容	区分	(前年度からの拡充・縮小、変更・改善内容等)				
	継続	・春日井市立学校の体育館及び武道場の開放に係る実費徴収要綱改正 ・春日井市立学校の体育館及び武道場の開放に係る条例・規則の制定 ・春日井市立学校の体育館及び武道場の開放の運用の見直し				

第六次総合計画 事業点検シート

事業区分	継続	年度	令和8年度	整理番号	4-3-2-2	
事業名	新春春日井マラソン大会			最終更新日	令和8年5月29日	
実施根拠	スポーツ基本法 春日井市スポーツ振興基本条例			担当課	文化スポーツ振興課	
関連計画	—		関連する 附属機関	—		
総合計画 施策体系	政策分野等	4 市民活動・共生・文化・スポーツ		基本計画 重点方針	—	
	施策等	3 文化・スポーツ・生涯学習の推進				
	基本的な 方向性等	2 身近にスポーツに親しむことができる機会や場を確保し、生涯スポーツやコミュニティスポーツを推進するとともに、スポーツ活動を支える人材の育成を促進し、誰もがいつでもスポーツを楽しむことができる環境づくりを推進します。				
目的・ 事業概要	【目的】 市民が楽しみながら体力づくりと健康増進を図り、家族や参加者相互の交流を深めることを目的に、新春を飾るスポーツの祭典として開催する。 【事業概要】 ・新春春日井マラソン大会の開催 新春春日井マラソン大会実行委員会に運営を委託 (1) 日時 成人の日の前日 (2) 会場 春日井市総合体育館及び周辺道路 (3) 種目 10km競技の部、3km競技の部、2km競技の部、3kmジョギングの部 (4) 申込み方法 インターネット、事務局（春日井市総合体育館窓口） (5) 表彰など ア) 競技部門は6位まで表彰と副賞授与 イ) 参加賞の進呈、完走証の交付 ウ) 10km競技最高タイム男女各1名に旅行券を贈呈					
	事業期間	昭和58年～				
過去の経緯、 主な実績等	・平成18年度まで、市体育協会に事業委託をしていたが、他の市内の各スポーツ団体や組織等とも協働して開催できるよう、実行委員会を組織して事業を実施することとした。 ・平成22年度から、小学5・6年生の2km競技、平成26年度から60歳以上男子と50歳以上女子の部門を新設し、より多くの参加者が入賞できるようにした。 ・平成24年度から、競技の部においてネットタイム計測を導入した。 ・平成28年度から、円滑な大会運営を考慮し、10km競技の部に定員制【4,500人】を設けた。 ・平成30年度から、10km競技について、自己申告タイムによりブロック別スタートを導入し、スタート時の円滑化を図った。 ・令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため大会開催を中止した。 ・令和3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため大会開催を中止したが、代替大会として新春春日井リレーマラソン大会を朝宮公園陸上競技場で開催した。【定員500名】 ・令和4年度に参加料を値上げ（10km：2,000円→2,500円、2・3km：500円→800円、ジョギング：300円→500円）【定員4,500人】 ・令和8年度に参加料を値上げ 10km競技の部：【一般3,500円】、【高校生2,500円】 3km・2km競技の部：【800円】 ジョギングの部：【一般800円】、【小学生～高校生500円】					
事業費	事業費		8年度(予算)	7年度(決算)	6年度(決算)	5年度(決算)
			11,500千円	11,479千円	11,427千円	11,358千円
	特定財源	国・県支出金	千円	千円	千円	千円
		その他	8,000千円	6,400千円	8,000千円	6,400千円
	一般財源		3,500千円	5,079千円	3,427千円	4,958千円

7年度の 主な実施内容 (実績)	(実施内容・事業費等) 新春春日井マラソン大会の開催 (1) 期日 令和8年1月11日(日) (2) 会場 春日井市総合体育館及び周辺道路 (3) 種目 10km 競技の部(参加料 2,500 円)、3km 競技の部(参加料 800 円)、2km 競技の部(参加料 800 円)、3km ジョギングの部(参加料 500 円) (4) 申込方法 インターネット、事務局(春日井市総合体育館窓口) (5) 表彰など ア) 競技部門は6位まで表彰 イ) 参加賞の進呈、完走証の交付 ウ) 10km 競技最高タイム男女各1名に旅行券を贈呈					
成果指標	指標名		目標値(年度)	7年度	6年度	5年度
	新春春日井マラソン大会参加者		6,500人(8年度)	5,782人	5,180人	4,765人
これまでの 取組みによる効果 (進捗状況)	◎	判断理由 及び 具体的な 成果や 課題等	【実績】 ・幅広い年齢層の多くの市民が参加し、生涯スポーツの推進に大きく貢献している。 ・市外、県外からも参加があり、市のPRにも貢献している。 ・定員の設定により適切な大会運営ができています。 【課題】 ・交通整理等警備体制の強化、マラソンコース沿道の住民等への配慮及び駐車場や駐輪場の確保等、参加者の増加に伴う円滑な大会運営のための対策。 ・物価高騰に伴う運営費の高騰。			
			◎：期待する又は期待以上の効果があった ○：現状維持 △：期待する効果がなかった ー：評価なし			
今後の 方向性	(課題解決のために必要な方策等) ・安全管理を十分に行うため、引続き、警察及び市スポーツ協会加盟団体等と協力して万全を期していく。 ・参加者ニーズを把握し、必要に応じて部門の再編成や参加費見直し等を検討しながら事業を継続。 ・参加者の安全確保及び走りやすさの向上を踏まえて、平成28年度から10km競技の部に設けた定員制を継続し、適切な運営を行う。 ・令和9年1月開催に向けて参加料の見直しを行う。					
8年度の 主な実施内容	区分	(前年度からの拡充・縮小、変更・改善内容等)				
	継続	新春春日井マラソン大会の開催 (1) 期日 令和9年1月10日(日) (2) 会場 春日井市総合体育館及び周辺道路 (3) 種目 10km競技の部【一般】(参加料3,500円) 10km競技の部【高校生】(参加料2,500円) 3km競技の部(参加料800円) 2km競技の部(参加料800円) ジョギングの部【一般】(参加料800円) ジョギングの部【小学生～高校生】(参加料500円) (4) 申込方法 インターネット、事務局(春日井市総合体育館窓口) (5) 表彰など ア) 競技部門は6位まで表彰 イ) 参加賞の進呈、完走証の交付 ウ) 10km 競技最高タイム男女各1名に旅行券を贈呈				

第六次総合計画 事業点検シート

事業区分	継続	年度	令和8年度	整理番号	4-3-2-3	
事業名	スポーツ・ふれあい財団運営費補助			最終更新日	令和8年5月29日	
実施根拠	春日井市補助金等に関する規則 春日井市スポーツ・ふれあい財団運営費補助金交付要綱			担当課	文化スポーツ振興課	
関連計画	—		関連する 附属機関	—		
総合計画 施策体系	政策分野等	4 市民活動・共生・文化・スポーツ		基本計画 重点方針	—	
	施策等	3 文化・スポーツ・生涯学習の推進				
	基本的な 方向性等	2 身近にスポーツに親しむことができる機会や場を確保し、生涯スポーツやコミュニティスポーツを推進するとともに、スポーツ活動を支える人材の育成を促進し、誰もがいつでもスポーツを楽しむことができる環境づくりを推進します。				
目的・ 事業概要	【目的】 （公財）春日井市スポーツ・ふれあい財団（以下「財団」という。）が事業を進めていくために必要な経費を補助し、その運営の充実及び住民福祉の向上を図る。 【事業概要】 ・人件費補助 ・退職給付金引当金 ・自主事業補助 スポーツ応援事業（全国高等学校剣道選抜大会等） スポーツ振興施策事業（かすがい！スポーツフェスティバル等） ・事務局運営					
	事業期間	—				
過去の経緯、 主な実績等	・平成25年度公益財団法人化 ・市議会の関与（地方自治法第243条の3の規定） 6月議会 経営状況報告（当該年度の事業計画及び収支予算） 9月議会 経営状況報告（前年度の収支決算） ・市監査委員の関与 地方自治法第199条第7項の規定により、監査委員による出納その他の事務の執行について監査を実施 隔年ごとに、出資法人監査が行われる。 ・春日井市出捐金 3,000,000円 ・平成24年度、所管事務を総務課からスポーツ課へ移管 ・平成25年度、スポーツ課所管事務を財団へ移管 かすがい！スポーツフェスティバル 市町村対抗駅伝競走大会事業 スポーツ推進委員連絡協議会事務局事業等 高校野球大会（全国高等学校野球選手権愛知大会等） ※平成26年度から 〔法令〕一般法：一般社団法人及び一般財団法人に関する法律 認定法：公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律 整備法：一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律					
事業費	事業費		8年度(予算)	7年度(決算)	6年度(決算)	5年度(決算)
			756,000千円	774,067千円	721,339千円	699,589千円
	特定財源	国・県支出金	千円	0千円	千円	千円
		その他	7,733千円	10,003千円	10,618千円	8,766千円
	一般財源		748,267千円	764,064千円	710,721千円	690,823千円

7年度の 主な実施内容 (実績)	(実施内容・事業費等) (公財)春日井市スポーツ・ふれあい財団運営費の補助 ・人件費補助 ・退職給付金引当金 ・自主事業補助 スポーツ応援事業 (全国高等学校剣道選抜大会等) スポーツ振興施策事業 (かすがい！スポーツフェスティバル、みんなでラジオ体操会、市町村対抗駅伝競走大会等) ・事務局運営					
成果指標	指標名		目標値(年度)	7年度	6年度	5年度
	かすがい！スポーツ フェスティバル参加者		7,000人(R8)	6,778人	6,565人	6,085人
	みんなでラジオ体操会 参加者		1,000人(R8)	850人	650人	1,020人
これまでの 取組みに よる効果 (進捗状況)	○	判断理由 及び 具体的な 成果や 課題等	【成果】 ・当市のスポーツ振興の推進母体として、また市内スポーツ施設の指定管理者の立場を活かして各種事業を行い、利用者の満足度向上や危機管理強化など、安全安心に活動ができる環境が整えられている。 ・スポーツ協会やスポーツ推進委員連絡協議会を始めとする団体とのつながりや連携を生かした事業展開がなされている。 ・各種研修実施により職員の専門性の維持向上が図られ、専門性の高いサービスの安定的な供給体制が整備されている。 【課題】 ・自主事業の効果検証及び採算性の向上。 ・当該補助対象事業の整理。			
	◎：期待する又は期待以上の効果があった ○：現状維持 △：期待する効果がなかった ー：評価なし					
今後の 方向性	(課題解決のために必要な方策等) ・スポーツ振興基本方針に基づくスポーツ振興事業を進めるため、最小経費で最大効果が得られるよう、補助内容を精査していく。 ・補助対象事業の見直し。 ・必要経費の見直し。 ・自主事業の参加料の見直し。 ・自主事業及び受託事業における協賛金等の確保。					
8年度の 主な実施内容	区分	(前年度からの拡充・縮小、変更・改善内容等)				
	継続	(公財)春日井市スポーツ・ふれあい財団運営費の補助 ・人件費補助 ・退職給付金引当金 ・自主事業補助 スポーツ応援事業(全国高等学校剣道選抜大会等) スポーツ振興施策事業(かすがい！スポーツフェスティバル、みんなでラジオ体操会、市町村対抗駅伝競走大会等) ・事務局運営				

第六次総合計画 事業点検シート

事業区分	継続	年度	令和8年度	整理番号	4-3-2-4	
事業名	スポーツ協会補助			最終更新日	令和8年5月29日	
実施根拠	スポーツ基本法 春日井市スポーツ振興基本条例 春日井市スポーツ協会運営費補助金交付要綱			担当課	文化スポーツ振興課	
関連計画	—		関連する 附属機関	—		
総合計画 施策体系	政策分野等	4 市民活動・共生・文化・スポーツ		基本計画 重点方針	—	
	施策等	3 文化・スポーツ・生涯学習の推進				
	基本的な 方向性等	2 身近にスポーツに親しむことができる機会や場を確保し、生涯スポーツやコミュニティスポーツを推進するとともに、スポーツ活動を支える人材の育成を促進し、誰もがいつでもスポーツを楽しむことができる環境づくりを推進します。				
目的・ 事業概要	【目的】 - 春日井市スポーツ協会（以下「スポーツ協会」という。）の運営及び加盟40団体を育成し、各加盟団体が行うスポーツ教室等を助成し、スポーツの振興を図る。 - 学校区スポーツ振興会18団体を育成し、地域のスポーツ振興を図る。 【事業概要】 - スポーツ協会の運営に関する事業への補助 - 団体主催事業 - 選手育成・派遣事業 - スポーツ教室事業 - 学校区スポーツ振興会活動事業 - スポーツ協会が主催又は共催する事業への補助 - スポーツ協会表彰式の実施 - スポーツ協会への事業委託 - 市民スポーツ大会総合開会式の実施					
	事業期間	平成21年～				
過去の経緯、 主な実績等	- 平成25年度から、体育協会事務局をスポーツ・ふれあい財団に置く。 - 平成25年度に、空手道連盟及びスポーツレクリエーション団体が7団体、体育協会に加盟した。 - 平成26年度から、春日井市学校区体育振興会補助金交付要綱及び春日井市学校区体育振興会用具整備事業費補助金交付要綱を廃止し、春日井市体育協会運営費補助金交付要綱へ一元化した。 - 平成28年度に、ソフトバレーボール連盟が体育協会に加盟した。 - 平成29年度に、藤山台小学校区体育振興会（平成28年度発足）が春日井市体育振興会連絡協議会に加盟した。 - 平成31年4月1日に、春日井市体育協会の名称が「春日井市スポーツ協会」に変更となった。					
事業費	事業費		8年度(予算)	7年度(決算)	6年度(決算)	5年度(決算)
			7,500千円	7,231千円	6,836千円	6,226千円
	特定財源	国・県支出金	千円	千円	千円	千円
		その他	千円	千円	千円	千円
	一般財源		7,500千円	7,231千円	6,836千円	6,266千円

7年度の 主な実施内容 (実績)	(実施内容・事業費等) ・スポーツ協会の運営に関する事業への補助 団体主催事業 選手育成・派遣事業 スポーツ教室事業 学校区スポーツ振興会（令和5年度まで「学校区体育振興会」）活動事業 ・スポーツ協会が主催又は共催する事業への補助 スポーツ協会表彰式の実施 ・スポーツ協会への事業委託 市民スポーツ大会（令和5年度まで「市民体育大会」）総合開会式及びスポーツ協会表彰式の実施					
成果指標	指標名		目標値（R8年度）	7年度	6年度	5年度
	スポーツ協会事業参加者数		35,000人	33,285	32,042人	32,965人
これまでの 取組みに よる効果 (進捗状況)	○	判断理由 及び 具体的な 成果や 課題等	【成果】 ・スポーツ協会加盟団体が提出する各種書類の窓口を同協会事務局に統一化していることにより、迅速で分かりやすい対応ができています。 ・学校区体育振興会（当時）が加盟したことで、事業実施時の協力体制等が強化された。 ・競技団体が構成されていた体育協会（当時）に、スポレク団体が平成25年度7団体、平成28年度1団体加盟し、また平成29年度に春日井市体育振興会連絡協議会加盟団体数が増加し、スポーツ協会の規模拡大化につながった。 【課題】 ・スポーツ協会加盟団体への若い世代の加入者の伸び悩み。 ・次世代指導者の育成・確保や、多様化するニーズに対応できる体制の確立。			
			◎：期待する又は期待以上の効果があった　○：現状維持　△：期待する効果がなかった　―：評価なし			
今後の 方向性	(課題解決のために必要な方策等) ・当市のスポーツ振興において各加盟団体の活動が必要であるため、継続して補助を行っていく。 ・加盟団体への加入者の増加に向けた方策及び多様化するニーズに対応できる体制の確立を検討する。					
8年度の 主な実施内容	区分	(前年度からの拡充・縮小、変更・改善内容等)				
	継続	・スポーツ協会の運営に関する事業への補助 団体主催事業 選手育成・派遣事業 スポーツ教室事業 学校区スポーツ振興会活動事業 スポーツ協会表彰式の実施 ・スポーツ協会が主催又は共催する事業への補助 ・スポーツ協会への事業委託 ・市民スポーツ大会総合開会式の実施				

第六次総合計画 事業点検シート

事業区分	継続	年度	令和8年度	整理番号	4-3-2-5	
事業名	レクリエーションスポーツ祭 (レクスポ普及・振興事業)			最終更新日	令和8年5月29日	
実施根拠	スポーツ基本法 春日井市スポーツ振興基本条例			担当課	文化スポーツ振興課	
関連計画	—		関連する 附属機関	—		
総合計画 施策体系	政策分野等	4 市民活動・共生・文化・スポーツ		基本計画 重点方針	—	
	施策等	3 文化・スポーツ・生涯学習の推進				
	基本的な 方向性等	2 身近にスポーツに親しむことができる機会や場を確保し、生涯スポーツやコミュニティスポーツを推進するとともに、スポーツ活動を支える人材の育成を促進し、誰もがいつでもスポーツを楽しむことができる環境づくりを推進します。				
目的・ 事業概要	【目的】 レクリエーションスポーツを通じて、家族や地域での人の交流を深めるとともに、体力の向上を目指す。 【事業概要】 レクリエーションスポーツ祭の開催 春日井市スポーツ推進委員連絡協議会に事業の実施を委託。 生涯スポーツの普及振興として、市民が自分の体力、年齢、技術等にあったいろいろなレクリエーションスポーツを行い、家族や地域の人達が集い、体力の向上と地域社会の親睦を図る。 (1) 日 に ち 毎年4月の第4日曜日（令和6年度までは6月開催） (2) 会 場 スポーレ春日井（雨天時中止） (3) 実施内容 レクスポチャレンジ等					
	事業期間	平成4年～				
過去の経緯、 主な実績等	- 平成25年度に、従来のソフトバレーボールやグラウンド・ゴルフを中心とした大会（レクリエーションスポーツ大会）から、様々なレクリエーションスポーツの体験を中心としたスポーツ祭に内容の見直しを行った。 - 平成26年度から、「かすがい！スポーツフェスティバル」については公益財団法人春日井市スポーツ・ふれあい財団運営費補助金へ組替えた。 - 令和2年度及び3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催を中止し、令和4年度は事前申込制とした。 - 令和5年度に市制80周年記念事業として、スポーレ春日井をメイン会場とし、ウォーキングを追加する「レクスポ&ウォーク祭」に名称変更し開催。（令和5、6年度が雨天により、総合体育館で開催。） - 令和6年度までは6月開催であったが、令和7年度より4月開催に変更。					
事業費	事業費		8年度(予算)	7年度(決算)	6年度(決算)	5年度(決算)
			1,214千円	1,300千円	1,205千円	1,143千円
	特定財源	国・県支出金	千円	千円	千円	千円
		その他	500千円	500千円	500千円	500千円
	一般財源		714千円	800千円	705千円	643千円

7年度の 主な実施内容 (実績)	(実施内容・事業費等) 2025！レクスボ&ウォーク祭の開催 (1) 日 に ち 令和7年4月27日（日） (2) 会 場 春日井市総合体育館（雨天のためスポーレ春日井から変更） (3) 実施内容 レクスボチャレンジ、カブラで遊ぼう！、昔のおもちゃで遊ぼう！					
成果指標	指標名		目標値（年度）	7年度	6年度	5年度
	レクスボ&ウォーク祭 参加者		1,780人（R8実績）	1,340人	603人	456人
これまでの 取組みに よる効果 (進捗状況)	◎	判断理由 及び 具体的な 成果や 課題等	【成果】 ・生涯に渡って親しむことができるレクリエーションスポーツの紹介・体験の場として、またスポーツ推進委員の活躍の場・市民との交流の場として機能しており、生涯スポーツの推進に貢献している。 【課題】 ・より幅広い年齢層が楽しめる内容にしていく。			
			◎：期待する又は期待以上の効果があった ○：現状維持 △：期待する効果がなかった ー：評価なし			
今後の 方向性	(課題解決のために必要な方策等) ・より多くの市民が参加しやすいイベントとなるよう、必要に応じ実施種目の見直しを検討する。 ・子どもの参加意欲を促進するため競技性がある種目を実施し、参加促進と満足度向上を図る。 ・様々な種目を取り入れることで、レクリエーションスポーツを知る機会を増やし、スポーツに対する潜在意欲を掘り起こす。 ・レクリエーションスポーツ祭を通して、スポーツ推進委員と地域のつながりを強化し、レクリエーションスポーツの指導や紹介を行うなど、地域でスポーツに親しむ環境を整えていく。 ・生涯スポーツ社会の実現に向けた取り組みのひとつとして、レクリエーションスポーツの周知・啓発を実施していく。					
8年度の 主な実施内容	区分	(前年度からの拡充・縮小、変更・改善内容等)				
	継続	2026！レクスボ&ウォーク祭の開催 (1) 日 に ち 令和8年4月26日 (2) 会 場 スポーレ春日井 (3) 実施内容 レクスボチャレンジ、ウォーキング、カブラで遊ぼう！				

第六次総合計画 事業点検シート

事業区分	継続	年度	令和8年度	整理番号	4-3-2-6	
事業名	学校区スポーツ振興			最終更新日	令和8年5月29日	
実施根拠	スポーツ基本法 春日井市スポーツ振興基本条例			担当課	文化スポーツ振興課	
関連計画	—		関連する 附属機関	—		
総合計画 施策体系	政策分野等	4 市民活動・共生・文化・スポーツ		基本計画 重点方針	—	
	施策等	3 文化・スポーツ・生涯学習の推進				
	基本的な 方向性等	2 身近にスポーツに親しむことができる機会や場を確保し、生涯スポーツやコミュニティスポーツを推進するとともに、スポーツ活動を支える人材の育成を促進し、誰もがいつでもスポーツを楽しむことができる環境づくりを推進します。				
目的・ 事業概要	【目的】 コミュニティづくりと健康・体力づくりを目的として、小学校区又は中学校区を単位とする学校区スポーツ振興会（以下「スポーツ振興会」という。令和5年度まで「体育振興会」）を組織し、地域住民のスポーツ・レクリエーションの普及振興を図る。 【事業概要】 ・学校区スポーツ振興会交流大会の開催 春日井市スポーツ振興会連絡協議会に交流大会の運営を委託。 ソフトバレーボール及びグラウンド・ゴルフを通じて市内の18学校区スポーツ振興会の交流を図ることを目的に開催する。 (1) 日時 毎年11月の第3日曜日 (2) 会場 春日井市総合体育館（第1競技場、運動広場） (3) 種目 ソフトバレーボール、グラウンド・ゴルフ					
	事業期間	昭和57年～				
過去の経緯、 主な実績等	・平成25年4月1日付けで学校区体育振興会を総合型地域スポーツクラブとして位置付けた。 ・平成25年度から、連絡協議会事務局をスポーツ・ふれあい財団に置く。 ・平成26年度から、春日井市学校区体育振興会補助金交付要綱及び春日井市学校区体育振興会用具整備事業費補助金交付要綱を廃止し、春日井市体育協会運営費補助金交付要綱へ一元化した。 ・平成27年度は、雨天のためグラウンド・ゴルフ種目の開催を中止した。 ・平成29年度から、藤山台小学校区体育振興会（平成28年度発足）が春日井市体育振興会連絡協議会に加盟した。 ・令和2年度及び3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため大会開催を中止した。 ・令和6年4月1日に、春日井市体育振興会連絡協議会の名称が「春日井市スポーツ振興会連絡協議会」に変更となった。					
事業費	事業費		8年度(予算)	7年度(決算)	6年度(決算)	5年度(決算)
			110千円	110千円	110千円	114千円
	特定財源	国・県支出金	千円	千円	千円	千円
		その他	千円	千円	千円	千円
一般財源		110千円	110千円	110千円	114千円	

	(実施内容・事業費等)				
7年度の 主な実施内容 (実績)	学校区スポーツ振興会交流大会の開催 (1) 日時 令和7年11月16日(日) (2) 会場 春日井市総合体育館(第1競技場、運動広場) (3) 種目 ソフトバレーボール 169人(32チーム) グラウンド・ゴルフ 177人(59チーム)				
成果指標	指標名		目標値(年度)	7年度	6年度
	学校区スポーツ振興会 交流大会参加者数		550人(8年度)	346人	335人
これまでの 取組みに よる効果 (進捗状況)	○	判断理由 及び 具体的な 成果や 課題等	【成果】 ・市内全域から市民が参加しており、生涯スポーツの推進に大きく貢献している。 ・各スポーツ振興会の参加者間で交流が図られている。 【課題】 ・幅広い年代の参加。		
			◎：期待する又は期待以上の効果があった ○：現状維持 △：期待する効果がなかった ー：評価なし		
今後の 方向性	(課題解決のために必要な方策等) ・誰もが気軽に楽しめるレクリエーションスポーツの中で、親睦を図りやすい種目であるか、参加し やすい競技時間であるか等、必要に応じ見直しながら継続していく。				
8年度の 主な実施内容	区分	(前年度からの拡充・縮小、変更・改善内容等)			
	継続	学校区スポーツ振興会交流大会の開催 (1) 日にち 令和8年12月13日(日)(アジア大会開催のため12月に開催) (2) 会 場 春日井市総合体育館(第1競技場、運動広場) (3) 種 目 ソフトバレーボール、グラウンド・ゴルフ			

第六次総合計画 事業点検シート

事業区分	継続	年度	令和8年度	整理番号	4-3-2-7	
事業名	市民スポーツ大会			最終更新日	令和8年5月29日	
実施根拠	春日井市スポーツ振興基本条例			担当課	文化スポーツ振興課	
関連計画	—		関連する 附属機関	—		
総合計画 施策体系	政策分野等	4 市民活動・共生・文化・スポーツ		基本計画 重点方針	—	
	施策等	3 文化・スポーツ・生涯学習の推進				
	基本的な 方向性等	2 身近にスポーツに親しむことができる機会や場を確保し、生涯スポーツやコミュニティスポーツを推進するとともに、スポーツ活動を支える人材の育成を促進し、誰もがいつでもスポーツを楽しむことができる環境づくりを推進します。				
目的・ 事業概要	【目的】 市民が広くスポーツに接する機会を提供し、健康の増進・体力の向上を目指しながらスポーツ人口の拡大を図る。 【事業概要】 - 市民スポーツ大会及び総合開会式の開催 - 春日井市スポーツ協会に各種目の大会開催を委託 (1) 開催期間 4月1日～3月31日 (2) 会場 春日井市総合体育館始めスポーツ施設等 (3) 種目 軟式野球、サッカーを始めとする39種目（※年度により変動あり） (4) 委託料 2,800,000円 - 内訳 - 各競技団体 @60,000円×34団体 - スポーツ少年団 @89,000円×1団体 - スポーツ傷害保険 361,000円 - スキー場借上料 310,000円					
	事業期間	昭和27年～				
過去の経緯、 主な実績等	- 平成25年度から、体育協会事務局をスポーツ・ふれあい財団に置く。 - 平成25年度に、空手道連盟及びスポーツレクリエーション団体が7団体、体育協会に加盟した。 - 平成28年度に、ソフトバレーボール連盟が体育協会に加盟した。 - 平成31年4月1日に、春日井市体育協会の名称が「春日井市スポーツ協会」に変更となった。 - 令和8年4月1日現在、計38団体加盟					
事業費	事業費		8年度(予算)	7年度(決算)	6年度(決算)	5年度(決算)
			2,800千円	2,065千円	2,181千円	2,516千円
	特定財源	国・県支出金	千円	千円	千円	千円
		その他	千円	千円	千円	千円
	一般財源		2,800千円	2,065千円	2,181千円	2,516千円

7年度の 主な実施内容 (実績)	(実施内容・事業費等) 各加盟団体による市民大会の開催 (1) 開催期間 4月1日～3月31日 (2) 会場 春日井市総合体育館始めスポーツ施設等 (3) 種目 軟式野球、サッカーを始めとする35 種目					
成果指標	指標名		目標値（年度）	7年度	6年度	5年度
	市民スポーツ大会参加者		8,000人（R8）	7,026人	7,264人	8,485人
これまでの 取組みに よる効果 (進捗状況)	○	判断理由 及び 具体的な 成果や 課題等	【成果】 ・毎年多くの市民の参加があり、競技スポーツやレクリエーションスポーツの振興のみならず健康増進に大きく貢献している。 【課題】 ・各競技団体の大会運営能力の向上。 ・さらなる参加者の増加。			
◎：期待する又は期待以上の効果があった ○：現状維持 △：期待する効果がなかった ー：評価なし						
今後の 方向性	(課題解決のために必要な方策等) ・スポーツ協会事務局である春日井市スポーツ・ふれあい財団と引き続き連携しながら事業を進める。 ・競技スポーツの振興においては、スポーツ団体の活動や選手の育成を支援するとともに、スポーツのすそ野を広げ、スポーツに接する機会を増やしていくことが重要である。市民スポーツ大会はその中心的な事業であるため引き続き支援していく。					
8年度の 主な実施内容	区分	(前年度からの拡充・縮小、変更・改善内容等)				
	継続	各加盟団体による市民大会の開催 (1) 開催期間 4月1日～3月31日 (2) 会場 春日井市総合体育館始めスポーツ施設等 (3) 種目 軟式野球、サッカーを始めとする 34 種目				

第六次総合計画 事業点検シート

事業区分	継続	年度	令和8年度	整理番号	4-3-2-8	
事業名	文化スポーツ応援団 (スポーツ応援事業)			最終更新日	令和8年5月29日	
実施根拠	春日井市スポーツ振興基本条例 春日井市文化スポーツイベント補助金交付要綱			担当課	文化スポーツ振興課	
関連計画	—		関連する 附属機関	—		
総合計画 施策体系	政策分野等	4 市民活動・共生・文化・スポーツ		基本計画 重点方針	—	
	施策等	3 文化・スポーツ・生涯学習の推進				
	基本的な 方向性等	2 身近にスポーツに親しむことができる機会や場を確保し、生涯スポーツやコミュニティスポーツを推進するとともに、スポーツ活動を支える人材の育成を促進し、誰もがいつでもスポーツを楽しむことができる環境づくりを推進します。				
目的・ 事業概要	【目的】 当市を広くPRし参加者と市民の交流が図られる全国的規模等のスポーツ大会の開催及び全国的規模等で開催されるスポーツ大会への市民の出場に対し、市が文化スポーツ応援団となり、補助金を交付する。 【事業概要】 (1) 国際大会、全国大会又は地区大会の開催に対する補助金の交付 ア) 補助対象経費の2分の1以内を補助。ただし上限は1,000,000円 イ) スポーツ拠点づくり推進事業として、(一財)地域活性化センターからの承認を受けた全国高等学校剣道選抜大会の開催に対し助成。平成28年度大会から令和7年度大会までが助成対象。助成額は令和4年度まで4,000,000円、令和5年度は3,500,000円、令和6年度は3,000,000円、令和7年度は2,500,000円。 (2) 国際大会又は全国大会への出場に対する補助金の交付 ア) 国際大会の場合 個人20,000円、団体1人20,000円。ただし上限は400,000円 イ) 全国大会の場合 個人5,000円、団体1人5,000円。ただし上限は100,000円					
	事業期間	平成10年～				
過去の経緯、 主な実績等	- 平成28年度大会より、全国高等学校剣道選抜大会が、スポーツ拠点づくり推進事業として、(一財)地域活性化センターからの承認を受け、同センターからの助成を開始した。 - 令和元年度は、全国大会(全国高等学校剣道選抜大会)の開催支援について、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため大会開催が中止となったが、大会準備等に係る対象経費の補助を実施した。また、国際大会、全国大会出場者への補助について、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和元年度末から令和2年度初頭に開催予定の全国大会等が中止となり、令和2年3月の補助金申請がなかった。 - 令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和2年度秋頃までの開催予定の全国大会等が中止となり、令和2年4月から9月まで補助金申請がなかった。 - 令和7年度に文化スポーツイベント補助金の申請書の見直しを行い、令和8年度より新様式を使用開始。					
事業費	事業費		8年度(予算)	7年度(決算)	6年度(決算)	5年度(決算)
			3,850千円	5,765千円	6,105千円	6,795千円
	特定財源	国・県支出金	千円	千円	千円	千円
		その他	0千円	2,500千円	3,000千円	3,500千円
一般財源		3,850千円	3,265千円	3,105千円	3,295千円	

7年度の 主な実施内容 (実績)	(実施内容・事業費等)					
	・全国大会（全国高等学校剣道選抜大会）の開催支援 ・国際大会、全国大会出場者への補助					
成果指標	指標名		目標値（年度）	7年度	6年度	5年度
	補助金交付人数 （全国大会等出場）		230人（R8）	189人	158人	177人
	補助金交付団体数 （全国大会等出場）		15団体（R8）	12団体	15団体	14団体
	補助金交付大会数 （全国大会等開催）		1大会（R8）	1大会	1大会	1大会
これまでの 取組みに よる効果 （進捗状況）	○	判断理由 及び 具体的な 成果や 課題等	【成果】 ・全国高等学校剣道選抜大会が毎年当市で開催され、全国に向けた市のPRや観戦を通じた競技スポーツの振興に貢献している。 ・スポーツ大会出場に対し補助金を交付することで、競技者の意欲向上に貢献している。 【課題】 ・全国高等学校剣道選抜大会に対するスポーツ拠点づくり推進事業助成金は、助成期間が10年間（平成28～令和7年度）であり、助成額が令和5年度から50万円ずつ減額される。また、助成期間終了後3年間（令和8～令和10年度）の大会継続が助成条件となるが、文化スポーツイベント補助金（100万円）以外の補助がない。 ・補助内容の妥当性の検証。			
	◎：期待する又は期待以上の効果があった ○：現状維持 △：期待する効果がなかった ー：評価なし					
今後の 方向性	（課題解決のために必要な方策等） ・全国高等学校剣道選抜大会実行委員会に、大会協賛企業をさらに募るなど市の補助金に大きく依存しない運営方法等の検討を引き続き求めていく。 ・当該事業について、他市町村の内容を調査し、比較検証を行い、当該事業の見直しに繋げていく。					
8年度の 主な実施内容	区分	（前年度からの拡充・縮小、変更・改善内容等）				
	継続	・全国大会（全国高等学校剣道選抜大会）の開催支援 ・国際大会、全国大会出場者への補助				

第六次総合計画 事業点検シート

事業区分	継続	年度	令和8年度	整理番号	4-3-2-9	
事業名	スポーツ賞表彰・全国大会等支援			最終更新日	令和8年5月29日	
実施根拠	春日井市スポーツ振興基本条例 春日井市スポーツ表彰要綱 春日井市スポーツ表彰要領			担当課	文化スポーツ振興課	
関連計画	—		関連する 附属機関	春日井市スポーツ表彰審査会		
総合計画 施策体系	政策分野等	4 市民活動・共生・文化・スポーツ		基本計画 重点方針	—	
	施策等	3 文化・スポーツ・生涯学習の推進				
	基本的な 方向性等	2 身近にスポーツに親しむことができる機会や場を確保し、生涯スポーツやコミュニティスポーツを推進するとともに、スポーツ活動を支える人材の育成を促進し、誰もがいつでもスポーツを楽しむことができる環境づくりを推進します。				
目的・ 事業概要	【目的】 スポーツ選手及びその指導者の栄誉をたたえ、優秀な成績・功績に対し顕彰するとともに、全国的規模の大会等に対する支援を実施することにより、市民のスポーツに対する意欲・関心を高めることを目的とする。 【事業概要】 (1) 春日井市スポーツ賞表彰 ア) 被表彰者 全国大会以上の大会で優秀な成績を収めた個人又は団体 イ) 選定方法 春日井市スポーツ表彰審査会（毎年2月頃開催）により選定 ウ) 表彰式 毎年3月 エ) 表彰式会場 文化フォーラム春日井 (2) 全国的規模の大会等への支援 ア) 支援を実施している大会 ・全日本女子学生剣道優勝大会（平成21年～） ・全国高等学校剣道選抜大会（平成4年～） ・都市対抗野球大会 ※大会出場時のみ イ) 支援内容 賞の交付、参加校への記念品の贈呈、都市対抗野球大会に係る市紹介ビデオ制作等					
	事業期間	昭和57年～				
過去の経緯、 主な実績等	・平成21年度から、春日井市スポーツ賞表彰式を文化フォーラム春日井視聴覚ホールで開催（平成20年度以前は総合体育館で開催）。 ・平成29年度から、より市民に開かれた表彰式とするため、文化フォーラム春日井交流アトリウムで開催。 ・平成29年度から、従来広報広聴課で実施していた都市対抗野球大会に係る市紹介ビデオ制作を文化スポーツ振興課で実施することとなり、当業務に係る委託料予算を当課予算に計上。ただし、平成29年度は都市対抗野球大会への出場がなかったため、平成30年度が初の実施となった。 ・令和元年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、スポーツ賞表彰式の開催を中止した。 ・令和2年度は、文化フォーラム春日井改修工事のためスポーツ賞表彰式を総合体育館で開催した。 ・令和4年度からスポーツ賞受賞者のパネルを作成し、総合体育館に掲示している。					
事業費	事業費		8年度(予算)	7年度(決算)	6年度(決算)	5年度(決算)
			1,173千円	807千円	862千円	870千円
	特定財源	国・県支出金	千円	千円	千円	千円
		その他	千円	千円	千円	千円
一般財源		1,173千円	807千円	862千円	870千円	

7年度の 主な実施内容 (実績)	(実施内容・事業費等) 春日井市スポーツ賞表彰 (1) 表彰式 令和8年3月20日(金・祝) (2) 表彰式会場 文化フォーラム春日井交流アトリウム (3) 表彰者数 特別賞 個人40人、団体1団体 一般賞 個人11人、団体1団体 全国的規模大会等への支援 (1) 全日本女子学生剣道優勝大会 (2) 全国高等学校剣道選抜大会 (3) 都市対抗野球大会					
	指標名		目標値(年度)	7年度	6年度	5年度
	スポーツ賞特別賞 被表彰者		45件(R8)	41件	35件	41件
	スポーツ賞一般賞 被表彰者		30件(R8)	12件	15件	33件
	全国的規模大会等へ支援		3大会(R8)	3大会	3大会	2大会
これまでの 取組みに よる効果 (進捗状況)	○	判断理由 及び 具体的な 成果や 課題等	【成果】 ・スポーツ賞表彰は被表彰者が増加傾向にあり、被表彰者を始めとする競技者の意欲向上につながるとともに、市の競技スポーツの振興に貢献している。 ・毎年当市で開催される全日本女子学生剣道優勝大会及び全国高等学校剣道選抜大会への支援、また都市対抗野球大会への市内チーム出場支援は、全国に向けた市のPRに貢献している。			
			◎：期待する又は期待以上の効果があった ○：現状維持 △：期待する効果がなかった ー：評価なし			
今後の 方向性	(課題解決のために必要な方策等) ・競技力の向上、競技スポーツの普及振興を図る上で表彰制度は有効であり、表彰基準のあり方について他市の類似制度を調査する他、県、市及びスポーツ協会等他の表彰制度の関係を整理しながら継続していく。 ・全日本女子学生剣道優勝大会及び全国高等学校剣道選抜大会への支援や、都市対抗野球大会への市内チーム出場支援は、全国に向けた市のPRに貢献しており、スポーツ・ふれあい財団、スポーツ協会、商工会議所、観光コンベンション協会等の市内各団体と連携を図りながら、全市的な支援を実施していく。					
8年度の 主な実施内容	区分	(前年度からの拡充・縮小、変更・改善内容等)				
	継続	春日井市スポーツ賞表彰 (1) 表彰式 令和9年3月21日(日) (2) 表彰式会場 文化フォーラム春日井交流アトリウム 全国的規模大会等への支援 (1) 全日本女子学生剣道優勝大会 (2) 全国高等学校剣道選抜大会 (3) 都市対抗野球大会				

第六次総合計画 事業点検シート

事業区分	継続	年度	令和8年度	整理番号	4-3-2-10	
事業名	総合体育館等体育施設管理			最終更新日	令和8年5月29日	
実施根拠	春日井市スポーツ振興基本条例			担当課	文化スポーツ振興課	
関連計画	—		関連する 附属機関	—		
総合計画 施策体系	政策分野等	4 市民活動・共生・文化・スポーツ		基本計画 重点方針	—	
	施策等	3 文化・スポーツ・生涯学習の推進				
	基本的な 方向性等	2 身近にスポーツに親しむことができる機会や場を確保し、生涯スポーツやコミュニティスポーツを推進するとともに、スポーツ活動を支える人材の育成を促進し、誰もがいつでもスポーツを楽しむことができる環境づくりを推進します。				
目的・ 事業概要	【目的】 利用者の安全の確保を図るとともに、安心して利用できるよう、総合体育館、落合公園体育館、温水プール、市民球場及び朝宮公園の維持管理を行うもの。 【事業概要】 - 施設の修繕、指定管理料の支払い、土地の賃借料の支払い等を行う。 - 修繕計画に基づいて予算要求、修繕を行う。 - 令和8年4月1日現在、指定管理を行っている公の施設は、以下の5施設 - 春日井市総合体育館（昭和61年建設） - 春日井市落合公園体育館（平成25年建設） - 春日井市温水プール（平成5年建設） - 春日井市民球場（昭和56年建設） - 春日井市朝宮公園（平成29年4月1日愛知県から移管） ※指定期間：令和8年4月1日から令和13年3月31日までの5年間（期間更新） - E S C O事業 平成23年度4月から令和7年度末まで、総合体育館及び温水プールを対象に実施 - 駐車場等用地借上 総合体育館、温水プール、市民球場及び朝宮公園に係る駐車場等用地の借上を実施					
	事業期間	—				
過去の経緯、 主な実績等	- 平成26年度から、「総合体育館・温水プール管理費」、「市民球場管理費」及び「落合公園体育館管理費」を本事業に一元化した。 - 令和3年度から、春日井市朝宮公園について指定管理者による管理運営を開始した。また、令和7年度に陸上競技場の第3種公認を更新した。					
事業費	事業費		8年度(予算)	7年度(決算)	6年度(決算)	5年度(決算)
			489,306千円	531,144千円	520,013千円	491,648千円
	特定財源	国・県支出金	千円	千円	千円	千円
		その他	136,140千円	145,570千円	136,413千円	121,892千円
一般財源		353,166千円	385,574千円	383,600千円	369,756千円	

7年度の 主な実施内容 (実績)	(実施内容・事業費等)				
	- 指定管理者による総合体育館を始めとする施設の維持管理 - ESCO事業の実施によるコストの削減 - 施設利用者用駐車場の確保 - 指定管理を更新（令和8年4月1日～令和13年3月31日） - 業務委託 都市構造再編集集中支援事業等事後評価業務委託 他 - 修繕の実施 (1) 総合体育館：ホワイエ及びエントランスホール付近照明修繕 (2) 温水プール：プールサイド柱脚等修繕 他 (3) 落合公園体育館：自家発電設備燃料ポンプ等取替修繕 他 (4) 市民球場：屋外トイレ汚水桟取替修繕 (5) 朝宮公園：朝宮公園陸上競技場第3種公認検定更新修繕 - 備品購入 (1) 総合体育館：柔道畳、新体操マット、空手マット、おむつ交換台、授乳用イス（2台） (2) 朝宮公園：スターター用拡声ワイヤレスメガホン（2台）、フレキハードル中学校用（10台）				
	指標名	目標値（年度）	7年度	6年度	5年度
	成果指標				
これまでの 取組みに よる効果 (進捗状況)	○	判断理由 及び 具体的な 成果や 課題等	【成果】 - 指定管理者による施設管理により、安全で効率的な施設運営がなされている。 - ESCO事業の導入により、市及び指定管理者の、省エネに対する意識が向上している。 - 必要な施設修繕（緊急のものも含む）が計画的に実施できている。 - 状況に応じた土地の賃借ができており、不必要な経費の支出が抑制されている。 - 総合体育館、市民球場についてオンラインによる施設予約を導入したことにより、利便性が向上した。 【課題】 - 総合体育館、温水プール、市民球場では、老朽化が原因の破損が数多く発生している。また、各施設の備品の経年劣化が進み、更新が必要となっている。 - 駐車場用地としての土地の借上又は購入を検討する。		
	◎：期待する又は期待以上の効果があった ○：現状維持 △：期待する効果がなかった ー：評価なし				
今後の 方向性	(課題解決のために必要な方策等) - 施設運営に支障をきたさないよう計画的に予算要求を行い、将来を見据えた設備更新をしていく。 - 予防保全に努め、施設の延命を図るとともに、コスト抑制の観点を常に意識する。 - 指定管理者、施設管理課及び公園緑地課等他課と情報を共有し、利用者が安全に安心して利用できるよう、複数年で更新を行う計画を立て対応する。 - ESCO事業終了後の使用エネルギー状況等について、今後の施設運営、改修・修繕計画等の参考にする。 - 駐車場用地について、買い取り可能な土地は必要に応じて買い取るなど、担当課と調整しながら借地を行う。				
8年度の 主な実施内容	区分	(前年度からの拡充・縮小、変更・改善内容等)			
	継続	- 指定管理者による総合体育館を始めとする施設等の維持管理 - 施設利用者用駐車場の確保 - 修繕の実施 (1) 温水プール：送風機更新修繕 他 (2) 朝宮公園：グラスランドウェーブ修繕 他 - 備品購入 (1) 総合体育館：自動体外式除細動器、卓球台、公用車 (2) 落合公園体育館：自動体外式除細動器、ノートパソコン及びレーザープリンタ			

第六次総合計画 事業点検シート

事業区分	継続	年度	令和8年度	整理番号	4-3-2-11	
事業名	屋外体育施設管理			最終更新日	令和8年5月29日	
実施根拠	春日井市スポーツ振興基本条例			担当課	文化スポーツ振興課	
関連計画	—		関連する 附属機関	—		
総合計画 施策体系	政策分野等	4 市民活動・共生・文化・スポーツ		基本計画 重点方針	—	
	施策等	3 文化・スポーツ・生涯学習の推進				
	基本的な 方向性等	2 身近にスポーツに親しむことができる機会や場を確保し、生涯スポーツやコミュニティスポーツを推進するとともに、スポーツ活動を支える人材の育成を促進し、誰もがいつでもスポーツを楽しむことができる環境づくりを推進します。				
目的・ 事業概要	【目的】 屋外スポーツ施設（グラウンド及びテニスコート）に係る施設管理を行う。 【事業概要】 ・屋外スポーツ施設維持管理業務委託 市内グラウンドの維持管理業務を委託（16施設） ・雑草等除去委託 単価契約：上田楽運動広場、前高グラウンド、牛山運動広場、白山運動広場 指名競争入札：繁田公園グラウンド ・グラウンドトイレ清掃業務委託（毎週水曜日） グラウンドに設置しているトイレの清掃を委託 ・冠水時トイレ・ネット移動委託 庄内川増水時に、河川敷グラウンドに設置している仮設トイレ・ネットの撤去及び復旧を委託 ・夜間照明施設電気保安業務委託（4月～10月） ・夜間照明施設管理業務委託（4月～10月） ・その他（緊急修繕を含む。） グラウンド内の樹木について、必要に応じ剪定を行う。 各グラウンドの水道料金及び照明の電気料金の支払いを行う。					
	事業期間	—				
過去の経緯、 主な実績等	《管理施設》 地蔵ヶ池公園グラウンド 昭和42年2月開設 美濃町公園グラウンド 昭和42年3月開設 中央公園グラウンド 昭和42年6月開設（令和7年4月 夜間照明設備更新） 篠木公園グラウンド 昭和42年8月開設 繁田公園グラウンド 昭和42年11月開設（令和8年3月 夜間照明設備撤去） 松河戸グラウンド 昭和48年6月開設 高森山公園テニスコート 昭和52年5月開設 牛山運動広場 昭和52年10月開設 上条グラウンド 昭和53年6月開設 熊野グラウンド 昭和57年10月開設 白山運動広場 昭和59年4月開設 上田楽運動広場 昭和59年4月開設 高蔵寺運動広場 昭和63年4月開設 前高グラウンド 平成10年10月開設 牛山公園グラウンド 平成11年4月開設 大池緑地グラウンド 平成13年5月開設					
事業費	事業費		8年度(予算)	7年度(決算)	6年度(決算)	5年度(決算)
			49,547千円	46,137千円	45,439千円	45,519千円
	特定財源	国・県支出金	千円	千円	千円	千円
		その他	2,767千円	1,081千円	2,507千円	2,609千円
一般財源		46,780千円	45,056千円	42,932千円	42,910千円	

7年度の 主な実施内容 (実績)	(実施内容・事業費等) 《主な事業費》 屋外スポーツ施設の維持管理 ・屋外スポーツ施設維持管理業務委託（16施設） ・雑草等除去委託（単価契約、指名競争入札、5グラウンド） ・グラウンドトイレ清掃業務委託 ・冠水時トイレ・ネット移動委託 ・夜間照明施設電気保安業務委託 ・夜間照明施設管理業務委託 ※高森山公園改修工事（ニュータウン創生課事業）でのテニスコート改修に伴い、8月～8年3月末まで高森山公園テニスコート利用休止（8年4月1日供用開始）。					
成果指標	指標名		目標値（年度）	7年度	6年度	5年度
これまでの 取組みに よる効果 (進捗状況)	○	判断理由 及び 具体的な 成果や 課題等	【成果】 ・専門業者に委託することで、適切かつ迅速な対応ができ、利用者の安全安心が維持されている。 ・各委託者からの報告により、市内に点在する各グラウンドの情報をより早く知ることができる。 ・繁田公園夜間照明設備の解体を施工した。 【課題】 ・燃料費、処分費及び労務単価の上昇に係る草刈委託費、トイレ・ネット移動費の増大			
			◎：期待する又は期待以上の効果があった ○：現状維持 △：期待する効果がなかった ー：評価なし			
今後の 方向性	(課題解決のために必要な方策等) ・現地調査を適宜行い、施設状況を的確に判断し、安全安心に利用できるよう管理を徹底する。 ・雑草等除去委託については、地元区や利用者の要望等を参考にしながら、予算の範囲内で最大の成果を達成できるよう、施工回数及び面積について検討を重ねる。					
8年度の 主な実施内容	区分	(前年度からの拡充・縮小、変更・改善内容等)				
	継続	屋外スポーツ施設の維持管理 ・屋外スポーツ施設維持管理業務委託(16施設) ・雑草等除去委託（単価契約、指名競争入札） ・グラウンドトイレ清掃業務委託 ・冠水時トイレ・ネット移動委託 ・夜間照明施設管理業務委託 ・施設予約システム更新に伴う利用者登録事務				

第六次総合計画 事業点検シート

事業区分	継続	年度	令和8年度		整理番号	4-3-2-12
事業名	アジア競技大会関連事業				最終更新日	令和8年5月29日
実施根拠	春日井市スポーツ振興基本条例				担当課	文化スポーツ振興課
関連計画	—		関連する 附属機関	—		
総合計画 施策体系	政策分野等	4 市民活動・共生・文化・スポーツ			基本計画 重点方針	—
	施策等	3 文化・スポーツ・生涯学習の推進				
	基本的な 方向性等	2 身近にスポーツに親しむことができる機会や場を確保し、生涯スポーツやコミュニティスポーツを推進するとともに、スポーツ活動を支える人材の育成を促進し、誰もがいつでもスポーツを楽しむことができる環境づくりを推進します。				
目的・ 事業概要	【目的】 第20回アジア競技大会（2026/愛知・名古屋）の開催にあたり本市はハンドボール及びゴルフの開催が決定している。その競技会場として予定されている総合体育館について、国際大会の開催に適した水準になるよう必要な整備を行う。 【事業概要】 令和4年度 基本設計策定 令和5年度 実施設計策定 令和6～7年度 改修工事実施 令和7年度 プレ大会開催 令和8年度 シティドレッシング実施 本大会開催（9月19日～10月4日） ※ハンドボール（9月20日～9月26日） ※ゴルフ（9月30日～10月3日） シティドレッシング実施					
	事業期間	令和4年～令和8年				
過去の経緯、 主な実績等	・平成28年9月 アジア・オリンピック評議会（OCA）総会において2026年開催予定の第20回アジア競技大会の開催都市が愛知・名古屋に決定 ・令和元年7月 総合体育館がハンドボール、近代五種（フェンシング）、温水プールが水球、近代五種（水泳）の競技会場として仮決定 ・令和元年7月～ 大会組織委員会との調整、担当者会議への出席 ・令和4年度 総合体育館改修に係る基本設計を策定 ・令和5年度 総合体育館改修に係る実施設計を策定 ※R5.6 温水プールでの水球の仮決定が取消し ※R5.9 近代五種（フェンシング：総合体育館、水泳：温水プール）の仮決定が取消し ・令和6年度 総合体育館改修に係る工事の契約を締結 ※R6.12 市内ゴルフ場がゴルフの競技会場として仮決定 ・令和7年度 総合体育館の改修工事を施工					
事業費	事業費		8年度(予算)	7年度(決算)	6年度(決算)※	5年度(決算)
			11,000千円	439,397千円	0千円	9,915千円
	特定財源	国・県支出金	0千円	148,354千円	0千円	4,602千円
		その他	0千円	225,975千円	0千円	3,851千円
	一般財源		11,000千円	65,068千円	0千円	1,462千円

※6年度は工事出来高なしのため支出なし。令和7年度予算に20,300千円を繰越。

7年度の 主な実施内容 (実績)	(実施内容・事業費等) 令和7年4月 総合体育館改修工事 着工 令和7年9月 総合体育館改修工事 しゅん工 令和7年12月 県補助金受給					
成果指標	指標名		目標値（年度）	6年度	5年度	4年度
これまでの 取組みに よる効果 (進捗状況)	○	判断理由 及び 具体的な 成果や 課題等	【成果】 ・市工事担当部署や指定管理者等と連携・協力しつつ、総合体育館改修に係る工事を施工し、予定通りしゅん工した。また、当該工事に関する国及び県の補助金を受給した。 ・国や県の補助金等手続きを適正に実施した。 【課題】 ・当市では同様の事業の開催事例がなく、大会組織委員会を始めとした各組織との綿密な連携や調整が必要となる。 ・大会開催にあたり、施設の近隣住民の理解を求めるとともに、利用者への休館期間の事前周知方法や指定管理者による適切な維持管理と自主事業運営への影響について、十分に検討する必要がある。 ・大会開催を啓発する。 ・当該大会を機として、スポーツ振興の発展を図る。			
	◎：期待する又は期待以上の効果があった ○：現状維持 △：期待する効果がなかった ー：評価なし					
今後の 方向性	(課題解決のために必要な方策等) ・大会組織委員会等の動向を注視し、積極的な情報収集、意見交換に努め、関係団体等との情報共有に努める。 ・大会に向けた市民の機運醸成に努める。 ・当該大会が当市のスポーツ振興にどのような効果があったか検証を行う。					
8年度の 主な実施内容	区分	(前年度からの拡充・縮小、変更・改善内容等)				
	拡充	・シティドレッシングの実施（市役所6階北側壁面に横断幕設置、JR高蔵寺駅にのぼり設置、JR春日井駅に柱巻きバナー設置） ・市町村担当者会議等への出席 ・競技会場及び練習会場調整 ・大会PR及びチケット販促 ・宿泊、練習会場、輸送、医事等に関する相談、協力 ・住民への対応 ・効果検証				

第六次総合計画 事業点検シート

事業区分	継続	年度	令和7年度	整理番号	4-3-2-13	
事業名	大学と連携したスポーツの推進			最終更新日	令和8年5月29日	
実施根拠	春日井市スポーツ振興基本条例			担当課	文化スポーツ振興課	
関連計画	—		関連する 附属機関	—		
総合計画 施策体系	政策分野等	4 市民活動・共生・文化・スポーツ		基本計画 重点方針	—	
	施策等	3 文化・スポーツ・生涯学習の推進				
	基本的な 方向性等	2 身近にスポーツに親しむことができる機会や場を確保し、生涯スポーツやコミュニティスポーツを推進するとともに、スポーツ活動を支える人材の育成を促進し、誰もがいつでもスポーツを楽しむことができる環境づくりを推進します。				
目的・ 事業概要	【目的】 優れた学生アスリートや多様なスポーツ施設を有する中部大学の資源を活用し、市と大学の互いの長所を活かした仕組みを構築することで、さらなるスポーツ振興や子どもの運動能力の低下などの課題の解決を目指す。 【事業概要】 (1) 子ども向けスポーツ教室の開催 運動能力の向上や、スポーツを「楽しい」と思うきっかけづくりとして実施。開催場所を中部大学のスポーツ施設とし、各部活の部員を講師とする。応募型のスポーツ教室とフリー参加の体験型イベントで構成。 (2) 地域住民向けイベントの企画、参加 地域との連携の向上、信頼関係の醸成を目的として実施。地域が企画、運営する事業への部員の参加や地域向けの事業を部員が企画、運営。					
	事業期間					
過去の経緯、 主な実績等	・新春マラソン大会におけるAED班として生命健康科学部が参加（平成25年度から） ・松村亜矢子准教授協力のもと、温水プールにてリズムシンクロ・水中運動教室を開催 ・青少年剣道錬成「春跳会」における剣道部の協力（平成26年度から） ・ラグビーフェスティバルにおけるラグビー部の協力（令和3年度から） ・渡辺武弘教授、松村亜矢子准教授協力のもと、自宅で気軽にストレッチができる「ストレッチDVD」を作成し、指定管理者が販売（令和3年度） ・令和6年度に中部大学キッズ・スポーツフェスタを初開催（野球、ラグビー、サッカー、ハンドボール、バスケットボール） ・令和7年度に2回目となる中部大学キッズ・スポーツフェスタを開催（野球・ラグビー・サッカー・ハンドボール・バスケットボール・陸上・チアリーディング・水泳・卓球）					
事業費	事業費		8年度(予算)	7年度(決算)	6年度(決算)	5年度(決算)
			千円	千円	千円	千円
	特定財源	国・県支出金	千円	千円	千円	千円
		その他	千円	千円	千円	千円
	一般財源		千円	千円	千円	千円

7年度の 主な実施内容 (実績)	(実施内容・事業費等) 中部大学キッズ・スポーツフェスタ 2025の開催 (1) 参加者 愛知県・岐阜県の小学1～6年生 (2) 開催日 12月20日(土) (3) 会 場 中部大学 (4) 内 容 9種目(野球・ラグビー・サッカー・ハンドボール・バスケットボール・陸上・チアリーディング・水泳・卓球)体験					
成果指標	指標名		目標値(年度)		7年度	6年度
	中部大学キッズ・スポーツフェスタ参加者		400名(R8)		316名	151名
これまでの 取組みに よる効果 (進捗状況)	◎	判断理由 及び 具体的な 成果や 課題等	【成果】 ・様々なスポーツを体験する機会を創出することにより、体を動かすことの楽しさやスポーツの魅力を体感してもらうことができた。 ・参加者が増加している。 【課題】 ・事業の継続、発展に向けた連携体制の構築 ・各部活動の大会予定の調整が必要だが、開催時期の見直し			
			◎：期待する又は期待以上の効果があった ○：現状維持 △：期待する効果がなかった ー：評価なし			
今後の 方向性	(課題解決のために必要な方策等) ・他市の取り組みについて調査、研究を進める。 ・事業効果を高めるため双方で率直で積極的な意見交換を行う。 ・大学と協議のうえ、今後の方向性、方針を決定する。 ・方向性等に基づき事業の企画等を行い、市・大学の連携による春日井市としてのブランド価値を高める事業を展開していく。					
8年度の 主な実施内容	区分	(前年度からの拡充・縮小、変更・改善内容等)				
	継続	中部大学キッズ・スポーツフェスタの開催 開催日未定。				

第六次総合計画 施策点検シート

政策分野等	4 市民活動・共生・文化・スポーツ	更新日	令和8年6月1日
施策等	3 文化・スポーツ・生涯学習の推進	担当部	いきがい創生部
基本的な方向性等	3 公民館、図書館などの施設を活用した学びと交流の機会や場の提供と参加しやすい環境づくりを推進するほか、学びの成果が地域の活力や自らの心の豊かさにつながるよう支援し、市民の自発的な学びと多様な交流を促進します。		

施策を構成する事業						
番号	事業名	8年度 事業区分	事業費（千円）		継続 評価	担当課
			7年度 （決算）	8年度 （予算）		
1	かすがいいいきアカデミー	継続	1,437	1,641	○	いきがい推進課
2	二十歳の成人式	継続	5,672	5,986	○	いきがい推進課
3	家庭教育推進事業	新規	2,452	280	○	いきがい推進課
4	生涯学習情報発信	継続	0	0	○	いきがい推進課
5	講師発掘・登用事業	継続	80	87	○	いきがい推進課
6	大学連携講座	継続	377	363	○	いきがい推進課
7	生涯学習出前講座	継続	242	323	○	いきがい推進課
8	障がい者の生涯学習支援	継続	433	300	○	いきがい推進課
9	グリーンパレス春日井施設管理	継続	102,179	109,940	○	いきがい推進課
10	青年の家講座	継続	563	575	○	青年の家
11	公民館講座	継続	4,434	5,048	○	中央公民館 始め4館
12	ふれあいセンター講座 （南部・西部ふれあいセンター）	継続	2,064	2,087	○	南部・西部ふれあい センター
13	ふれあいセンター講座 （味美ふれあいセンター）	継続	804	828	○	味美ふれあいセンター
14	ふれあいセンター講座 （高蔵寺ふれあいセン ター）	継続	723	726	○	高蔵寺ふれあいセン ター
15	東部市民センター講座	継続	1,507	1,508	○	東部市民センター
16	ニュータウンきずな事 業	継続	2,177	2,184	○	東部市民センター
17	図書資料等購入・管理	継続	42,997	43,000	○	図書館
18	読書啓発	継続	2,666	1,903	○	図書館
19	障がい者図書サービス	継続	642	743	○	図書館
事業費合計			171,449	177,522		

関連する 総合計画 成果指標	指標名	直近値（年度）	目標
	文化・スポーツ活動や生涯学習に関する団体の会員数（人）	47,095 (2025 年度)	60,300 (2026 年度)

総合計画成果指標や施策を構成する事業の成果に基づく効果検証			
効果 (進捗状況)	○	◎：期待する又は期待以上の成果があった ○：現状維持 △：期待する成果がなかった	
理由 (主な成果 や課題を踏 まえた効果 検証等)		• いきいきアカデミーでは、オンライン配信を実施し幅広い世代に学習機会を提供するとともに、オンデマンドの利点を生かして欠席受講者も配信講座を受講できるようにし、学ぶ機会を提供できた一方、オンライン配信の需要が少ない現状が明らかとなった。 • ふれあい教育セミナーでは、性教育やメンタルヘルス、子どものほめ方・しかり方講座など、セミナー委員会が実施する様々な講座に対して補助することで、家庭、学校、地域の交流・連携を深める機会を提供することができた一方、セミナー委員会によって実施内容、回数に差があることや、近年のPTA活動のあり方の変化や補助金利用団体の減少・固定化など補助金交付の効果が限定的である現状が明らかとなった。 • 障がい者の生涯学習支援事業において、文化スポーツ講座など障がい者のための生涯学習活動の場を提供することができた一方、障がい者が主体となる居場所づくりについては、参加メンバーの固定化傾向があるため、今後の運営方法の検討をする必要がある。 • 公民館等が主催する講座について、前年度までの講座の申し込み数や受講者へのアンケートの結果を踏まえて、人気の高い講座を企画・実施することができた。シニア向け ICT 講座（スマートフォン講座、生成 AI）を開催したところ、定員を超える応募があるなどニーズが高いことが伺え、引き続き市民の多様なニーズを把握し、気軽に参加しやすい環境や学習内容の充実を図るとともに、新たな分野の講座の発掘が必要である。 • 図書館資料の継続的な充実が図られているとともに、不要資料を除籍するなど、書庫・書棚の適正管理が行われている。 • 読書啓発に関する事業の実施により、乳幼児から児童に本や読書についての興味を喚起する機会が提供できている。 • ボランティアの協力により、対面読書やデジター図書・点字データの製作など、障がい者が読書に親しむ環境の整備が行われている。	
今後の 方向性 (課題解決 の方策等)	施策の取組方針	○	◎重点・強化 ○維持 △縮小
	• いきいきアカデミーは、オンライン講座を廃止し、対面で複数（最大4）コースを受講可とすることにより、異なる分野を並行して学ぶことによる知識の習得や機会損失の防止等を図る。 • ふれあい教育セミナー補助金を廃止。PTA等への講師派遣や公民館、ふれあいセンターと連携した親子のふれあいを目的とした講座、保護者対象の家庭教育講座等を開催する家庭教育推進事業を実施する。 • 障がい者の生涯学習のために有効で、継続して実施可能な内容を検討するため、春日井市障がい者の生涯学習支援連携協議会で出た意見をもとに方向性を決めていくとともに、公民館等の施設が主体的に実施できるよう障がい者向けに講座ができる講師の情報収集を行う。また、障がい者が主体となる居場所づくりについては、障がい福祉課と連携して実施していく。 • 公民館、ふれあいセンターにおいては、各世代のライフステージに応じた学習機会を提供するため、講座終了後に満足度調査を行い、その結果を踏まえ、市民のニーズに応えることができるよう企画していく。また、働く世代が、働き方改革の推進によりできた余暇時間を自らの学びの時間として活用できるような休日や夜間の講座、子育て世代が参加しやすいような託児付き講座を実施するなど、学習環境の整備に努める。 • 講座、イベント等の周知について、市公式LINEやホームページ等に写真を掲載するなど、より市民の興味関心を高められるよう、また、視覚的にわかりやすく伝わるよう工夫する。また、近隣の商業施設へのチラシ及びポスターの設置や、駅のデジタルサイネージを活用するなど、各種催しなどの積極的なPRを行う。 • 東部市民センターでは、音響性能を高めたホールは、著名な音楽家を招聘したコンサートやホールを貸し切りにしたピアノ体験会を開催するなどして、多くの方に新しくなったホールの周知利用を進める。 • 図書館資料の充実を継続的に図るとともに、不要資料を除籍するなど、書庫・書棚の適正管理を行っていく。 • 新たな利用者の獲得や利用者の利便性の向上を図っていく上で、図書館システムの更新に合わせ、新たなサービスを提供できるシステムを構築するため、他自治体の図書館を調査する。 • 学校図書館教育研究会と協力関係を構築し、学校や学校図書館の要望に応じた支援を行う。 • 図書館事業の充実のため、ボランティアの育成やスキルアップを図る。		

関連する附属機関の意見等

第六次総合計画 事業点検シート

事業区分	継続	年度	令和8年度	整理番号	4-3-3-1																																									
事業名	かすがいいいききアカデミー			最終更新日	令和8年5月13日																																									
実施根拠	—			担当課	いきがい推進課																																									
関連計画	第2次春日井市生涯学習推進計画		関連する 附属機関	生涯学習審議会																																										
総合計画 施策体系	政策分野等	4 市民活動・共生・文化・スポーツ		基本計画 重点方針	—																																									
	施策等	3 文化・スポーツ・生涯学習の推進																																												
	基本的な 方向性等	3 公民館、図書館などの施設を活用した学びと交流の機会や場の提供と参加しやすい環境づくりを推進するほか、学びの成果が地域の活力や自らの心の豊かさにつながるよう支援し、市民の自発的な学びと多様な交流を促進します。																																												
目的・ 事業概要	【目的】 人生100年時代において、誰もがいきがいをもち、充実した生活が送ることができるよう、あらゆる世代に向け学習の場を提供する。 【事業概要】 18歳以上の市民を対象に、生活科学、歴史、文学、芸術文化の4コースの講座を開催する。 会場 文化フォーラム春日井、総合体育館 定員 生活科学・文化・芸術文化コース、歴史コース各180人 講座 各コース全15回（合同講座2回を含む） 受講料 4,000円 その他 複数コース受講可																																													
	事業期間	平成5年度 ～																																												
過去の経緯、 主な実績等	【事業の経緯】 平成5年 かすがい熟年大学開設 平成16年 コース名称変更（生活・歴史・文学） 平成19年 健康科学コースを追加 平成28年 芸術文化コースを追加 令和2年 新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止 令和3年 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、定員・会場を一部変更、開講式と各コース各5回中止 令和6年 かすがいいいききアカデミーに改編（生活コースと健康科学コースを統合して4コースとした。対象を60歳以上から18歳以上に拡大） オンライン配信開始 令和8年 オンライン配信を廃止。複数コース受講可能とした。 【事業実績】※()は内オンライン数																																													
	<table><tr><td colspan="2"></td><td>7年度</td><td>6年度</td><td>5年度</td><td>4年度</td></tr><tr><td rowspan="7">受講者数 (人)</td><td>生活科学</td><td>107(8)</td><td>121(10)</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>生活</td><td>—</td><td>—</td><td>122</td><td>63</td></tr><tr><td>健康科学</td><td>—</td><td>—</td><td>42</td><td>46</td></tr><tr><td>歴史</td><td>129(5)</td><td>156(12)</td><td>170</td><td>141</td></tr><tr><td>文学</td><td>64(3)</td><td>95(8)</td><td>72</td><td>68</td></tr><tr><td>芸術文化</td><td>140(9)</td><td>159(12)</td><td>147</td><td>133</td></tr><tr><td>合計</td><td>440(25)</td><td>531(42)</td><td>553</td><td>451</td></tr></table>							7年度	6年度	5年度	4年度	受講者数 (人)	生活科学	107(8)	121(10)	—	—	生活	—	—	122	63	健康科学	—	—	42	46	歴史	129(5)	156(12)	170	141	文学	64(3)	95(8)	72	68	芸術文化	140(9)	159(12)	147	133	合計	440(25)	531(42)	553
		7年度	6年度	5年度	4年度																																									
受講者数 (人)	生活科学	107(8)	121(10)	—	—																																									
	生活	—	—	122	63																																									
	健康科学	—	—	42	46																																									
	歴史	129(5)	156(12)	170	141																																									
	文学	64(3)	95(8)	72	68																																									
	芸術文化	140(9)	159(12)	147	133																																									
	合計	440(25)	531(42)	553	451																																									
事業費	事業費		8年度(予算)	7年度(決算)	6年度(決算)	5年度(決算)																																								
			1,641千円	1,437千円	1,629千円	1,750千円																																								
	特定財源	国・県支出金	千円	千円	千円	千円																																								
		その他	1,641千円	1,437千円	1,629千円	1,750千円																																								
一般財源		千円	千円	千円	千円																																									

7年度の 主な実施内容 (実績)	(実施内容・事業費等) ・開講式・合同講座 5月22日(木)「蔦屋重三郎がプロデュースした浮世絵」 徳川美術館 副館長 神谷 浩 ・閉講式・合同講座 12月17日(水)「映画『国宝』と歌舞伎の世界」 元情報科学芸術大学院大学 教授 小林 昌廣 ・4コース(生活科学、歴史、文学、芸術文化)、年間各13回講座を実施。					
成果指標	指標名		目標値(8年度)	7年度	6年度	5年度
	受講者数		550人	440人	531人	553人
	アンケート調査による 満足度		90.0%	89.9%	80.7%	87.5%
これまでの 取組みに よる効果 (進捗状況)	○	判断理由 及び 具体的な 成果や 課題等	・オンライン配信を実施したことで幅広い世代に学習の機会を提供することができた。また、オンデマンドの利点を生かし、欠席した受講者に対しても配信講座を受講できるようにし、学ぶ機会を提供できた一方、オンライン配信の需要が少ない現状が明らかとなった。			
	◎：期待する又は期待以上の効果があった ○：現状維持 △：期待する効果がなかった ー：評価なし					
今後の 方向性	(課題解決のために必要な方策等) ・他市での講座実施例等も参考に魅力ある講座を企画する。 ・受講後、さらなる学習活動やいきがいくりにつながるよう、庁内他課が実施する各アカデミー等と連携を図る。					
8年度の 主な実施内容	区分	(前年度からの拡充・縮小、変更・改善内容等)				
	継続	複数(最大4)コースを受講可とすることにより、異なる分野を並行して学ぶことによる知識の習得や機会損失の防止等を図る。				

第六次総合計画 事業点検シート

事業区分	継続	年度	令和8年度	整理番号	4-3-3-2														
事業名	二十歳の成人式			最終更新日	令和8年5月13日														
実施根拠	—			担当課	いきがい推進課														
関連計画	—		関連する 附属機関	—															
総合計画 施策体系	政策分野等	4 市民活動・共生・文化・スポーツ		基本計画 重点方針	—														
	施策等	3 文化・スポーツ・生涯学習の推進																	
	基本的な 方向性等	3 公民館、図書館などの施設を活用した学びと交流の機会や場の提供と参加しやすい環境づくりを推進するほか、学びの成果が地域の活力や自らの心の豊かさにつながるよう支援し、市民の自発的な学びと多様な交流を促進します。																	
目的・ 事業概要	【目的】 将来を担う 20 歳の成人を祝い励ますとともに、20 歳になる人がこれまで育ててくれた人々や地域に感謝し、社会的責任を自覚して大人としての行動をとっていくためのきっかけの場とする。																		
	【事業概要】 日時 毎年1月第2月曜日（成人の日）午前 10 時 30 分～正午 会場 総合体育館 概要 ・式典では国歌斉唱、主催者あいさつ、来賓あいさつ等を行うとともに、20 歳の成人の思い出に残るアトラクション、催し物を行う。 ・20 歳の成人自らが主体的に実施する記念行事とするため、春日井市二十歳の成人式実行委員会に式典の企画立案及び運営を委託する。 ・春日井市二十歳の成人式実行委員会は、市内各中学校からの推薦と公募により委員を選出する。																		
	事業期間																		
過去の経緯、 主な実績等	【事業の経緯】 ・平成24年成人式（23年度）から新成人代表による成人式実行委員会に企画・運営を委託 ・平成25年成人式（24年度）で式典の妨害行為があったため、妨害行為対策マニュアルを作成し、職員の配置や座席レイアウト等を変更し、式典妨害対策を強化した。 ・平成29年成人式（28年度）から成人式案内はがきに広告を掲載 ・令和3年成人式は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和3年1月11日から令和3年5月3日に延期した。（3部制） ・令和4年、令和5年は、新型コロナウイルス感染対策として、2部制で実施した。 ・令和4年4月から成年年齢が18歳に引き下げられたが、式典は引き続き20歳を対象として実施することとし、名称を「春日井市二十歳の成人式」に変更した。																		
	<table><tr><td></td><td>R8成人式 （7年度）</td><td>R7成人式 （6年度）</td><td>R6成人式 （5年度）</td><td>R5成人式 （4年度）</td></tr><tr><td>該当者数（人）</td><td>3,070</td><td>3,205</td><td>3,190</td><td>3,235</td></tr><tr><td>出席者数（人）</td><td>2,319</td><td>2,424</td><td>2,504</td><td>2,687</td></tr></table>						R8成人式 （7年度）	R7成人式 （6年度）	R6成人式 （5年度）	R5成人式 （4年度）	該当者数（人）	3,070	3,205	3,190	3,235	出席者数（人）	2,319	2,424	2,504
	R8成人式 （7年度）	R7成人式 （6年度）	R6成人式 （5年度）	R5成人式 （4年度）															
該当者数（人）	3,070	3,205	3,190	3,235															
出席者数（人）	2,319	2,424	2,504	2,687															
事業費	事業費		8年度(予算)	7年度(決算)	6年度(決算)	5年度(決算)													
			5,986千円	5,672千円	5,404千円	5,224千円													
	特定財源	国・県支出金	千円	千円	千円	千円													
		その他	千円	千円	千円	千円													
一般財源		5,986千円	5,672千円	5,404千円	5,224千円														

7年度の 主な実施内容 (実績)	(実施内容・事業費等) 【令和8年春日井市二十歳の成人式】 開催日時 令和8年1月12日(月・祝) 午前10時00分～正午 会 場 総合体育館 該 当 者 3,070人(平成16年4月2日～平成17年4月1日生まれ) 実施方法 式典、アトラクション、催し物を開催					
成果指標	指標名		目標値(8年度)	7年度	6年度	5年度
	式典出席率		80%	75.5%	75.6%	78.5%
これまでの 取組みに よる効果 (進捗状況)	○	判断理由 及び 具体的な 成果や 課題等	・式典、アトラクションともに問題なく実施できた。 【課題】 ・周辺道路や駐車場警備体制			
			◎：期待する又は期待以上の効果があった ○：現状維持 △：期待する効果がなかった ー：評価なし (課題解決のために必要な方策等)			
今後の 方向性	・二十歳の成人自らが主体的に実施する記念行事とするため、春日井市二十歳の成人式 実行委員会に式典の企画立案及び運営を委託して行う。 ・実施内容などを見直し、経費削減に努める。					
8年度の 主な実施内容	区分	(前年度からの拡充・縮小、変更・改善内容等)				
	継続	日 時 令和9年1月11日 会 場 総合体育館 該 当 者 3,045人(平成18年4月2日～平成19年4月1日生まれの人)				

第六次総合計画 事業点検シート

事業区分	新規	年度	令和8年度	整理番号	4-3-3-3																				
事業名	家庭教育推進事業			最終更新日	令和8年5月18日																				
実施根拠	—			担当課	いきがい推進課																				
関連計画	第2次春日井市生涯学習推進計画		関連する 附属機関	—																					
総合計画 施策体系	政策分野等	4 市民活動・共生・文化・スポーツ			基本計画 重点方針																				
	施策等	3 文化・スポーツ・生涯学習の推進																							
	基本的な 方向性等	3 公民館、図書館などの施設を活用した学びと交流の機会や場の提供と参加しやすい環境づくりを推進するほか、学びの成果が地域の活力や自らの心の豊かさにつながるよう支援し、市民の自発的な学びと多様な交流を促進します。																							
目的・ 事業概要	【目的】 子どもたちの社会性や思いやりの心など豊かな人間性を育むため、家庭教育に関する講座等を実施する。 【事業概要】 対 象 幼稚園、私立保育園、認定こども園、小学校、中学校の各PTA等 内 容 (1) 保育園、幼稚園、PTA等で開催する家庭教育事業への講師派遣 (2) 子育て講座・家庭教育支援講座 (3) オンライン配信による学習コンテンツの提供 (4) 子育て支援部局、学校教育部局と連携した情報発信																								
	事業期間	令和8年度 ～																							
過去の経緯、 主な実績等	【事業経緯】 平成16年度～令和7年度 ふれあい教育セミナー事業としてセミナー実施に対して補助金を交付 令和7年度末 ふれあい教育セミナー事業を廃止 【事業実績（ふれあい教育セミナー事業）】 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>7年度</th><th>6年度</th><th>5年度</th><th>4年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>団体数</td><td>38</td><td>47</td><td>50</td><td>47</td></tr> <tr> <td>開催数（回）</td><td>169</td><td>213</td><td>214</td><td>172</td></tr> <tr> <td>延参加者数（人）</td><td>10,902</td><td>11,593</td><td>13,146</td><td>11,594</td></tr> </tbody> </table>						7年度	6年度	5年度	4年度	団体数	38	47	50	47	開催数（回）	169	213	214	172	延参加者数（人）	10,902	11,593	13,146	11,594
		7年度	6年度	5年度	4年度																				
	団体数	38	47	50	47																				
	開催数（回）	169	213	214	172																				
	延参加者数（人）	10,902	11,593	13,146	11,594																				
事業費	事業費		8年度(予算)	7年度(決算)	6年度(決算)	5年度(決算)																			
			280千円	2,452千円	3,093千円	2,827千円																			
	特定財源	国・県支出金	千円	千円	千円	千円																			
		その他	千円	千円	千円	千円																			
	一般財源		280千円	2,452千円	3,093千円	2,827千円																			

7年度の 主な実施内容 (実績)	(実施内容・事業費等) ふれあい教育セミナー事業 (1) 実施団体数 38 団体 (認定こども園 1 園、私立保育園 3 園、幼稚園 9 園、小学校 21 校、中学校 4 校) (2) 開催回数 169 回 (うち託児付き 41 回) (中止 7 回) (3) 延参加者数 10,902 人 (託児人数延べ 161 人) (4) 事業内容 セミナー委員会が実施した講座等に対し補助金を交付した。また、企画内容を充実させ、家庭教育力や地域教育力の向上を図るため、各委員会で実施した講座や講演会等の優良事例の紹介、愛知県が行う家庭教育関連事業や生涯学習情報サイトに登録されている講師等の情報提供を行うなどの支援をした。 《補助対象とした主な講座等》 「お料理教室～子どもの身体に優しいおやつについて学ぼう～」 「おこづかいの使い方を学ぶ」 「防災セミナー」 「性教育講座」 ほか				
成果指標	指標名		目標値 (8 年度)		
	講座実施回数		25回		
これまでの 取組みによる効果 (進捗状況)	○	判断理由 及び 具体的な 成果や 課題等	・芸術鑑賞会やスポーツ教室のほか、性教育やメンタルヘルス、子どものほめ方・しかり方講座など、セミナー委員会が実施する様々な講座に対して補助することで、家庭、学校、地域の交流・連携を深める機会を提供することができた。 【課題】 ・セミナー委員会により実施内容、回数に差がある。 ・近年の P T A 活動のあり方の変化や補助金利用団体の減少・固定化など補助金交付の効果が限定的である。		
		◎：期待する又は期待以上の効果があった ○：現状維持 △：期待する効果がなかった ー：評価なし			
今後の 方向性	(課題解決のために必要な方策等) ・ふれあい教育セミナー事業を廃止し、家庭教育推進事業を実施する。 ・出前講座の家庭教育版メニューを作成し、P T A 等に講師を派遣する。 ・公民館、ふれあいセンターと連携し、各施設で親子のふれあいを目的とした講座、保護者対象の家庭教育講座等を実施する。				
8年度の 主な実施内容	区分	(前年度からの拡充・縮小、変更・改善内容等)			
	継続	家庭教育推進事業を実施する。			

第六次総合計画 事業点検シート

事業区分	継続	年度	令和8年度	整理番号	4-3-3-4	
事業名	生涯学習情報発信			最終更新日	令和8年5月18日	
実施根拠	春日井市生涯学習情報サイトの設置及び運営に関する要綱			担当課	いきがい推進課	
関連計画	第2次春日井市生涯学習推進計画		関連する 附属機関	生涯学習審議会		
総合計画 施策体系	政策分野等	4 市民活動・共生・文化・スポーツ			基本計画 重点方針	—
	施策等	3 文化・スポーツ・生涯学習の推進				
	基本的な 方向性等	3 公民館、図書館などの施設を活用した学びと交流の機会や場の提供と参加しやすい環境づくりを推進するほか、学びの成果が地域の活力や自らの心の豊かさにつながるよう支援し、市民の自発的な学びと多様な交流を促進します。				
目的・ 事業概要	○生涯学習情報サイト 市民の学習活動を支援するため、講座やさまざまなジャンルの講師、生涯学習活動団体等の情報をインターネット上で発信する。 ※令和7年度より、業者委託からキントーンでの自主製作とした。					
	事業期間	平成5年度 ～				
過去の経緯、 主な実績等	【事業実績】					
		7年度	6年度	5年度	4年度	
	講師登録者数（人）	190	347	323	301	
	団体登録数（人）	45	123	122	123	
	アクセス件数（件）	12,244	72,210	40,529	31,107	
※令和7年度は講師登録の一斉更新を実施し、活動実績がなく、登録のみとなっていた講師を削除した。						
事業費	事業費		8年度(予算)	7年度(決算)	6年度(決算)	5年度(決算)
			0千円	0千円	913千円	4,153千円
	特定財源	国・県支出金	千円	千円	千円	千円
		その他	千円	千円	千円	千円
	一般財源		0千円	0千円	913千円	4,153千円

7年度の 主な実施内容 (実績)	(実施内容・事業費等) ○生涯学習情報サイト 講師登録件数：190人 団体登録件数：45団体					
成果指標	指標名		目標値（8年度）	7年度	6年度	5年度
	講師登録者数		200人	189人	347人	323人
	サイトアクセス件数		15,000件	12,244件	72,210件	40,529件
これまでの 取組みに よる効果 (進捗状況)	○	判断理由 及び 具体的な 成果や 課題等	・生涯学習サイトへのアクセスがあり、周知されている。 【課題】 ・サイトの更新が年に1回で、講師情報がアップデートされていないことがある。			
	◎：期待する又は期待以上の効果があった ○：現状維持 △：期待する効果がなかった ー：評価なし					
今後の 方向性	(課題解決のために必要な方策等) ・情報サイトについて、掲載内容を年1回の更新時にのみ修正を行っているため、登録者自身が更新できるなど、最新情報をアップできるよう運用を変更していく。 ・文字情報だけでなく、講師の作品や講座の写真、受講者のコメント等を掲載するなど、利用者にわかりやすく情報を提供する。					
8年度の 主な実施内容	区分	(前年度からの拡充・縮小、変更・改善内容等)				
	継続	・情報サイトについては、現在の文字情報だけでなく、講師の作品や講座風景の写真等を掲載するなど、利用者にわかりやすく情報を提供できるよう、各登録講師・団体に働きかける。 ・サイトの登録情報をメールにて確認し、情報のアップデートを行う。				

第六次総合計画 事業点検シート

事業区分	継続	年度	令和8年度	整理番号	4-3-3-5																																			
事業名	講師発掘・登用事業			最終更新日	令和8年5月18日																																			
実施根拠	—			担当課	いきがい推進課																																			
関連計画	第2次春日井市生涯学習推進計画		関連する 附属機関	生涯学習審議会																																				
総合計画 施策体系	政策分野等	4 市民活動・共生・文化・スポーツ			基本計画 重点方針																																			
	施策等	3 文化・スポーツ・生涯学習の推進																																						
	基本的な 方向性等	3 公民館、図書館などの施設を活用した学びと交流の機会や場の提供と参加しやすい環境づくりを推進するほか、学びの成果が地域の活力や自らの心の豊かさにつながるよう支援し、市民の自発的な学びと多様な交流を促進します。																																						
目的・ 事業概要	【目的】 知識や技術を持った市民を公募し、応募者が自ら企画した講座の講師として活躍できる場を提供し、「教える」いきがいを創生する。 【事業概要】 対象 生涯学習情報サイトに登録がある個人 選考 講座企画書により面接及び書類選考 採用 対面講座：年間15件程度、オンライン講座 謝礼 1講座5,000円																																							
	事業期間	平成21年度 ～																																						
過去の経緯、 主な実績等	【講座実績】 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>7年度</th><th>6年度</th><th>5年度</th><th>4年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>講師応募数（件）</td><td>34</td><td>32</td><td>22</td><td>27</td></tr> <tr> <td>採用者数（人）</td><td>16</td><td>15</td><td>16</td><td>15</td></tr> <tr> <td>開催講座数（講座）</td><td>16</td><td>12</td><td>12</td><td>11</td></tr> <tr> <td>回数（回）</td><td>24</td><td>20</td><td>19</td><td>18</td></tr> <tr> <td>受講者（人）</td><td>241</td><td>132</td><td>131</td><td>119</td></tr> <tr> <td>延受講者（人）</td><td>344</td><td>201</td><td>186</td><td>174</td></tr> </tbody> </table>						7年度	6年度	5年度	4年度	講師応募数（件）	34	32	22	27	採用者数（人）	16	15	16	15	開催講座数（講座）	16	12	12	11	回数（回）	24	20	19	18	受講者（人）	241	132	131	119	延受講者（人）	344	201	186	174
	7年度	6年度	5年度	4年度																																				
講師応募数（件）	34	32	22	27																																				
採用者数（人）	16	15	16	15																																				
開催講座数（講座）	16	12	12	11																																				
回数（回）	24	20	19	18																																				
受講者（人）	241	132	131	119																																				
延受講者（人）	344	201	186	174																																				
事業費	事業費		8年度(予算)	7年度(決算)	6年度(決算)	5年度(決算)																																		
			87千円	80千円	64千円	64千円																																		
	特定財源	国・県支出金	千円	千円	千円	千円																																		
		その他	87千円	13千円	48千円	48千円																																		
	一般財源		千円	67千円	16千円	16千円																																		

7年度の 主な実施内容 (実績)	(実施内容・事業費等)					
	【講座実績】 ・応募件数 34件 ・採用件数 16件 ・開催講座数 16講座 ・受講者数 241人					
成果指標	指標名		目標値（8年度）	7年度	6年度	5年度
	講師応募件数		35人	34人	32人	22人
これまでの 取組みに よる効果 (進捗状況)	○	判断理由 及び 具体的な 成果や 課題等	・知識や能力を生かしたい市民に活躍の場を提供できた。 ・講座募集の際に、講師から提供を受けた写真などを活用し、講座内容がわかりやすく伝わるよう周知を図った。			
	◎：期待する又は期待以上の効果があった ○：現状維持 △：期待する効果がなかった ー：評価なし					
今後の 方向性	(課題解決のために必要な方策等) ・受講者が集まらず中止となる講座がないように、各施設と連絡を密にして、講座タイトルや内容について講師と十分に調整するよう促す。 ・受講者を募集する際に、講座の内容がより分かりやすくなるよう写真や動画をホームページに掲載するなど視覚的にわかりやすい情報発信を行うよう、各施設と協働実施していく。 ・市民ニーズに即したものやアンケートで好評であった講座については、講師が引き続き活躍する場を確保できるよう、出前講座講師として採用していく。 ・講師の今後の活躍の場に繋がるよう、また、各施設の新規講座開拓の機会となるよう、各施設と連携して実施する。					
8年度の 主な実施内容	区分	(前年度からの拡充・縮小、変更・改善内容等)				
	継続	・企画募集に係る事務はいきがい推進課が実施し、講師採用～講座運営を各施設に関わってもらい実施する ・受講者が集まらず中止となる講座がないよう、採用講座のタイトルや実施方法について、講師と十分な調整を図る。 ・出前講座のメニューに掲載するなど講師の活躍の場を提供する。				

第六次総合計画 事業点検シート

事業区分	継続	年度	令和8年度		整理番号	4-3-3-6
事業名	大学連携講座				最終更新日	令和8年5月13日
実施根拠	春日井市と中部大学との相互協力の強化に関する協定 春日井市と名城大学との連携・協力に関する協定書 名城大学農学部と春日井市との連携講座に関する覚書				担当課	いきがい推進課
関連計画	第2次春日井市生涯学習推進計画			関連する 附属機関	生涯学習審議会	
総合計画 施策体系	政策分野等	4 市民活動・共生・文化・スポーツ			基本計画 重点方針	—
	施策等	3 文化・スポーツ・生涯学習の推進				
	基本的な 方向性等	3 公民館、図書館などの施設を活用した学びと交流の機会や場の提供と参加しやすい環境づくりを推進するほか、学びの成果が地域の活力や自らの心の豊かさにつながるよう支援し、市民の自発的な学びと多様な交流を促進します。				
目的・ 事業概要	【目的】 市民の学習ニーズに応えるため、大学と連携し、その優れた人材と設備を活用した高度な内容の講座を実施する。 【事業概要】 ・名城大学及び中部大学と連携して講座を実施する。 ・名城大学連携講座は、農作物等の栽培技術に関する基礎的な知識と体験学習を中心とした講座で、土と緑に親しみ、栽培技術に関心を持つ市民の学習ニーズに応えるため開始。「名城大学農学部と春日井市との連携講座に関する覚書」を締結し講座を実施している。 ・中部大学については、地域連携センターを通じて、講座の企画、運営を委託している。					
	事業期間	平成5年度 ～				
過去の経緯、 主な実績等	【講座実績】					
		7年度	6年度	5年度	4年度	
	講座数（講座）	12	10	18	18	
	回数（回）	18	15	49	41	
	受講者数（人）	444	149	553	229	
	延受講者数（人）	537	247	852	371	
	令和6年度から大学教授等を講師とするかすがいいいきいアカデミーを幅広い年代に学習の機会を提供する目的で、18歳以上を対象に実施することとしたため、類似する大学連携講座は事業規模を縮小した。					
事業費	事業費		8年度(予算)	7年度(決算)	6年度(決算)	5年度(決算)
			363千円	377千円	322千円	519千円
	特定財源	国・県支出金	千円	千円	千円	千円
		その他	93千円	84千円	62千円	118千円
	一般財源		270千円	293千円	260千円	401千円

7年度の 主な実施内容 (実績)	(実施内容・事業費等) 連携大学：中部大学、名城大学、愛知大学 講座内容：「子どもの心と土台を育てる自己肯定感と非認知能力」「野菜づくりとサイエンス」「映画を楽しむには原作を読んでおく必要があるのか」等 実施数：12講座18回					
成果指標	指標名		目標値（8年度）	7年度	6年度	5年度
	実施講座数 (うちオンライン講座)		12講座 (1講座)	12講座 (1講座)	10講座	18講座 (5講座)
	受講者数 (うちオンライン講座)		500人 (250人)	444人 (218人)	149人	553人 (274人)
これまでの 取組みに よる効果 (進捗状況)	○	判断理由 及び 具体的な 成果や 課題等	・大学と連携し、その優れた人材と設備を活用した高度な内容の講座を実施することにより、市民へ学習の場を提供することができた。 【課題】 ・市民の学習ニーズを踏まえた講座を企画・実施する必要がある。 ・市と大学側との情報共有、連携の強化			
	◎：期待する又は期待以上の効果があった ○：現状維持 △：期待する効果がなかった ー：評価なし					
今後の 方向性	(課題解決のために必要な方策等) ・他市の実施状況なども参考に、市民ニーズを把握するとともに、大学側との連絡、調整を密にし、連携講座ならではの内容、設備を活かした講座を大学とともに検討する。					
8年度の 主な実施内容	区分	(前年度からの拡充・縮小、変更・改善内容等)				
	縮小	令和8年度は名城大学及び中部大学と連携し実施。大学教授等を講師とするかすがいいいきアカデミー実施により、その他近隣大学との連携は無し。				

第六次総合計画 事業点検シート

事業区分	継続	年度	令和8年度	整理番号	4-3-3-7	
事業名	生涯学習出前講座			最終更新日	令和8年5月13日	
実施根拠	春日井市生涯学習まちづくり出前講座要綱 春日井市出前公民館講座要綱			担当課	いきがい推進課	
関連計画	第2次春日井市生涯学習推進計画		関連する 附属機関	生涯学習審議会		
総合計画 施策体系	政策分野等	4 市民活動・共生・文化・スポーツ		基本計画 重点方針	—	
	施策等	3 文化・スポーツ・生涯学習の推進				
	基本的な 方向性等	3 公民館、図書館などの施設を活用した学びと交流の機会や場の提供と参加しやすい環境づくりを推進するほか、学びの成果が地域の活力や自らの心の豊かさにつながるよう支援し、市民の自発的な学びと多様な交流を促進します。				
目的・ 事業概要	【目的】 身近な場所での学習機会の充実を図るため、地域の集会施設等で生涯学習講座を開催する。					
	【事業概要】 対 象 市内に在住・在勤・在学の10人以上の団体（町内会、会社、PTA、老人クラブなど） 実施方法 いきがい推進課が受付し、関係各課、登録講師と調整を行い、出前講座を実施 費 用 職員の派遣は無料、登録講師は1回あたり2,500円					
	事業期間	平成5年度 ～				
過去の経緯、 主な実績等	【講座実績】					
			7年度	6年度	5年度	4年度
	まちづくり 出前講座	件数（件）	17	7	11	11
		受講者（人）	623	214	310	295
	出前公民館 講座	件数（件）	30	37	34	25
		受講者（人）	787	1,026	844	673
事業費	事業費		8年度(予算)	7年度(決算)	6年度(決算)	5年度(決算)
			323千円	242千円	298千円	173千円
	特定財源	国・県支出金	千円	千円	千円	千円
		その他	75千円	43千円	58千円	45千円
	一般財源		248千円	199千円	240千円	128千円

7年度の 主な実施内容 (実績)	(実施内容・事業費等) 申請者：町内会、地区社会福祉協議会、子ども会 等 実施講座： ・まちづくり出前講座 件数：17件 受講者数：623人 内容：「遺跡発掘から見た春日井の歴史」 「相続税、贈与税の基礎知識について」等 ・出前公民館講座 件数：30件 受講者数：787人 内容：「笑って楽しく認知症予防！」 「謎解き・宝さがしゲーム」等					
成果指標	指標名		目標値（8年度）	7年度	6年度	5年度
	講座件数		47件	47件	44件	45件
これまでの 取組みに よる効果 (進捗状況)	○	判断理由 及び 具体的な 成果や 課題等	・地区社会福祉協議会や老人クラブ、子ども会を中心に申請団体が増加傾向であり、出前講座が認知され、身近な施設での学ぶ機会を提供することができた。 【課題】 ・同じ講師への依頼が多いため、実施メニューの充実が必要である。 ・団体の自主的な生涯学習活動につながるような働きかけが必要である。			
			◎：期待する又は期待以上の効果があった ○：現状維持 △：期待する効果がなかった ー：評価なし			
今後の 方向性	(課題解決のために必要な方策等) ・講師発掘・登用事業で採用した講師や生涯学習情報サイト「まなびゃ選科」に登録のある講師の活動の場となるよう、講座メニューに組み込む。 ・各団体が自主的な生涯学習活動として継続して実施できるよう、講師の紹介などの支援を行う。					
8年度の 主な実施内容	区分	(前年度からの拡充・縮小、変更・改善内容等)				
	継続	町内会、地区社会福祉協議会、子ども会等へ講師を派遣し、生涯学習の機会を提供する。				

第六次総合計画 事業点検シート

事業区分	継続	年度	令和8年度	整理番号	4-3-3-8																											
事業名	障がい者の生涯学習支援			最終更新日	令和8年5月18日																											
実施根拠	春日井市障がい者の生涯学習支援連携協議会設置要綱			担当課	いきがい推進課																											
関連計画	第2次春日井市生涯学習推進計画		関連する 附属機関	春日井市障がい者の生涯学習支援連携協議会																												
総合計画 施策体系	政策分野等	4 市民活動・共生・文化・スポーツ			基本計画 重点方針	—																										
	施策等	3 文化・スポーツ・生涯学習の推進																														
	基本的な 方向性等	3 公民館、図書館などの施設を活用した学びと交流の機会や場の提供と参加しやすい環境づくりを推進するほか、学びの成果が地域の活力や自らの心の豊かさにつながるよう支援し、市民の自発的な学びと多様な交流を促進します。																														
目的・ 事業概要	【目的】 障がいの有無にかかわらず、学びたいときに学ぶことができ、いきがいを持って豊かな人生を送ることができるよう、障がい者のための生涯学習講座を開催するなど多様な学習活動の充実を図る。 【事業概要】 (1) 公民館等における講座の拡充 (2) 慣れ親しんだいつもの場所での生涯学習活動（講師派遣事業） (3) 関係部署等との連携強化による事業展開 (4) 春日井市障がい者の生涯学習支援連携協議会設置要綱に基づき、協議会を開催する。																															
	事業期間	令和6年度 ～																														
過去の経緯、 主な実績等	・ 令和3～5年 文部科学省の委託事業「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業」として、受託したNPO法人と連携し、関係団体等とともに、研究及び各種事業を実施。 ・ 令和6年 上記事業を市が引き継ぎ、市の事業として関係団体等と連携し、各種事業を実施。 【事業実績】 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th></th><th>7年度</th><th>6年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">障がい者を主体としたサークル活動</td><td>実施回数（回）</td><td>12</td><td>12</td></tr> <tr> <td>参加者数（人）</td><td>-</td><td>25</td></tr> <tr> <td>延参加者数（人）</td><td>243</td><td>122</td></tr> <tr> <td rowspan="4">文化・スポーツ講座</td><td>講座数（回）</td><td>2</td><td>2</td></tr> <tr> <td>実施回数（回）</td><td>3</td><td>6</td></tr> <tr> <td>参加者数（人）</td><td>13</td><td>22</td></tr> <tr> <td>延参加者数（人）</td><td>18</td><td>52</td></tr> </tbody> </table> ※7年度延参加者数：ファッションショー観覧者を含む							7年度	6年度	障がい者を主体としたサークル活動	実施回数（回）	12	12	参加者数（人）	-	25	延参加者数（人）	243	122	文化・スポーツ講座	講座数（回）	2	2	実施回数（回）	3	6	参加者数（人）	13	22	延参加者数（人）	18	52
		7年度	6年度																													
障がい者を主体としたサークル活動	実施回数（回）	12	12																													
	参加者数（人）	-	25																													
	延参加者数（人）	243	122																													
文化・スポーツ講座	講座数（回）	2	2																													
	実施回数（回）	3	6																													
	参加者数（人）	13	22																													
	延参加者数（人）	18	52																													
事業費	事業費		8年度(予算)	7年度(決算)	6年度(決算)	5年度(決算)																										
			300千円	433千円	412千円	千円																										
	特定財源	国・県支出金	千円	千円	千円	千円																										
		その他	千円	千円	千円	千円																										
一般財源		300千円	433千円	412千円	千円																											

7年度の 主な実施内容 (実績)	(実施内容・事業費等) ・障がい者を主体としたサークル活動 (文科省の事業を行ってきた NPO 法人「春日井子どもサポート KIDS COLOR」に委託し、「わくわくサークルエンジョイ+」として活動) 実施回数 12 回、延参加者数 243 人(ファッションショー観覧者含む) ・文化・スポーツ講座 2講座3回、参加者数13人(延べ参加者数18人) 内容:「チーズケーキと豆腐チョコムース作り」 「ゼンタングル講座」 ・連携協議会: 会議2回					
成果指標	指標名		目標値(8年度)	7年度	6年度	5年度
	公民館講座開催回数		6回			
	講師派遣回数		12回			
これまでの 取組みによる効果 (進捗状況)	○	判断理由 及び 具体的な 成果や 課題等	・令和3年度から令和5年度まで文部科学省の委託事業として実施した「学校卒業後における障害者の学びの支援推進」を令和6年度から市が「障がい者の生涯学習支援事業」として継続することにより、障がい者のための生涯学習活動の場を提供することができた。 【課題】 ・障がい者が主体となる居場所づくり「わくわくサークルエンジョイ+」について、参加メンバーの固定化傾向があるため、今後の運営方法の検討をする。			
			◎: 期待する又は期待以上の効果があった ○: 現状維持 △: 期待する効果がなかった ー: 評価なし			
今後の 方向性	(課題解決のために必要な方策等) ・障がい者の生涯学習のために有効で、継続して実施可能な内容を検討する。 ・春日井市障がい者の生涯学習支援連携協議会で出た意見をもとに方向性を決めていく。 ・公民館等の施設が主体的に実施できるよう障がい者向けに講座ができる講師の情報収集を行う。 ・障がい者が主体となる居場所づくり「わくわくサークルエンジョイ+」については、事業委託を取りやめ、障がい福祉課所管の「障がい者の居場所・交流づくり事業助成」を利用してもらう。					
8年度の 主な実施内容	区分	(前年度からの拡充・縮小、変更・改善内容等)				
	継続	・公民館等における講座を拡充して実施 ・事業所やグループホーム等が実施するイベント等へ講師を派遣し、いつもの仲間、場所での生涯学習の機会を提供する。 ・連携協議会: 会議1～2回				

第六次総合計画 事業点検シート

事業区分	継続		年度	令和8年度		整理番号	4-3-3-9			
事業名	グリーンパレス春日井施設管理（グリーンパレス春日井管理費）					最終更新日	令和8年5月13日			
実施根拠	グリーンパレス春日井条例					担当課	いきがい推進課			
関連計画	—			関連する 附属機関	—					
総合計画 施策体系	政策分野等	4 市民活動・共生・文化・スポーツ				基本計画 重点方針	—			
	施策等	3 文化・スポーツ・生涯学習の推進								
	基本的な 方向性等	3 公民館、図書館などの施設を活用した学びと交流の機会や場の提供と参加しやすい環境づくりを推進するほか、学びの成果が地域の活力や自らの心の豊かさにつながるよう支援し、市民の自発的な学びと多様な交流を促進します。								
目的・ 事業概要	【目的】 ・市民交流の場を提供するとともに、事業活動を支援することを目的とする。									
	【施設概要】 ・施設の管理について、市民ニーズを反映したサービスの向上と効率的な施設運営を図るため、指定管理者制度を導入している。 （1）開館日 毎月第2月曜日及び年末年始を除く毎日 （2）受付時間 午前8時30分～午後9時 （3）会議室等 11室、4名～153名収容（談話室含む） （4）体育施設 体育館、プレイルーム、テニスコート2面 （5）宿泊施設 洋室8室、和室9室、計17室 74名 （6）宴会施設 広間（和室）1室、ホール（洋室）1室 （7）その他 図書室、多目的室、レストラン、浴場 （指定管理の状況）指定期間 令和8年4月1日～令和13年3月31日 指定管理者 （公財）春日井市スポーツ・ふれあい財団									
	事業期間	令和8年度 ～ 令和13年度								
過去の経緯、 主な実績等	・4年度利用者数 会議室等 件数 5,405件 人数 72,034人 利用率 47.1% 体育施設 件数 15,539件 人数 60,272人 利用率 78.6% 宿泊施設 件数 3,007件 人数 5,899人 利用率 48.1%									
	・5年度利用者数 会議室等 件数 6,386件 人数 86,062人 利用率 55.5% 体育施設 件数 14,322件 人数 59,225人 利用率 79.3% 宿泊施設 件数 3,442件 人数 7,610人 利用率 55.1%									
	・6年度利用者数 会議室等 件数 6,220件 人数 91,583人 利用率 54.2% 体育施設 件数 15,944件 人数 62,820人 利用率 81.3% 宿泊施設 件数 4,061件 人数 8,845人 利用率 65.2%									
事業費	事業費		8年度(予算)		7年度(決算)		6年度(決算)		5年度(決算)	
			109,940千円		102,179千円		110,216千円		97,920千円	
	特定財源	国・県支出金	千円		千円		0千円		0千円	
		その他	44,676千円		44,626千円		44,857千円		39,659千円	
		一般財源	65,264千円		57,553千円		65,359千円		58,261千円	

7年度の 主な実施内容 (実績)	(実施内容・事業費等)																									
	・7年度利用者数 <table><tr><td>会議室等</td><td>件数</td><td>5,963件</td><td>人数</td><td>87,817人</td><td>利用率</td><td>51.9%</td></tr><tr><td>体育施設</td><td>件数</td><td>16,852件</td><td>人数</td><td>69,545人</td><td>利用率</td><td>85.9%</td></tr><tr><td>宿泊施設</td><td>件数</td><td>4,024件</td><td>人数</td><td>8,804人</td><td>利用率</td><td>64.6%</td></tr></table>					会議室等	件数	5,963件	人数	87,817人	利用率	51.9%	体育施設	件数	16,852件	人数	69,545人	利用率	85.9%	宿泊施設	件数	4,024件	人数	8,804人	利用率	64.6%
会議室等	件数	5,963件	人数	87,817人	利用率	51.9%																				
体育施設	件数	16,852件	人数	69,545人	利用率	85.9%																				
宿泊施設	件数	4,024件	人数	8,804人	利用率	64.6%																				
成果指標	指標名		目標値（8年度）	7年度	6年度	5年度																				
	利用者数		170,000人	166,166人	167,672人	157,584人																				
	利用件数		29,000件	26,839件	28,496件	26,106件																				
これまでの 取組みに よる効果 (進捗状況)	○	判断理由 及び 具体的な 成果や 課題等	【成果】 ・利用者数、利用率ともに安定した数値を維持している。 【課題】 ・大規模改修工事を行い施設の一部はリニューアルされたが、改修エリア外の宿泊棟などについては建築から30年以上が経過しているため、宿泊事業の廃止及び廃止に伴う空き施設の有効活用等を検討していく。																							
			◎：期待する又は期待以上の効果があった　○：現状維持　△：期待する効果がなかった　―：評価なし																							
今後の 方向性	(課題解決のために必要な方策等)																									
	・市民交流の場を提供するとともに、事業活動を支援するための施設として利便性が確保されるよう指定管理者を指導していくとともに、防災拠点施設としての機能も維持していく。 ・宿泊事業の廃止及び廃止に伴う空き施設の有効活用等を検討していく。																									
8年度の 主な実施内容	区分	(前年度からの拡充・縮小、変更・改善内容等)																								
	継続	・引き続き、市民交流の場を提供するとともに、事業活動を支援することを目的とする施設としてサービスの向上と効率的な施設運営を図るため、施設管理業務について指定管理者制度により運営する。																								

第六次総合計画 事業点検シート

事業区分	継続	年度	令和8年度	整理番号	4-3-3-10	
事業名	青年の家講座			最終更新日	令和8年5月7日	
実施根拠	春日井市青年の家条例、春日井市青年の家条例施行規則			担当課	いきがい推進課	
関連計画	第2次春日井市生涯学習推進計画		関連する 附属機関	生涯学習審議会		
総合計画 施策体系	政策分野等	4 市民活動・共生・文化・スポーツ		基本計画 重点方針	—	
	施策等	3 文化・スポーツ・生涯学習の推進				
	基本的な 方向性等	3 公民館、図書館などの施設を活用した学びと交流の機会や場の提供と参加しやすい環境づくりを推進するほか、学びの成果が地域の活力や自らの心の豊かさにつながるよう支援し、市民の自発的な学びと多様な交流を促進します。				
目的・ 事業概要	【目的】 音楽を中心とした施設の特色を活かした講座を開催し、青少年の健全育成と音楽の振興を図る。 【事業概要】 実施講座：初心者のためのウクレレ入門講座、ピアノ入門講座、 小学生を対象とした体験講座など 講座受講料：講座1回当たり250円を基本として算出する					
	事業期間	平成5年度 ～				
過去の経緯、 主な実績等	【事業実績】					
		7年度	6年度	5年度	4年度	
	講座数（講座）	11	12	14	11	
	回数（回）	62	65	85	63	
	受講者（人）	138	135	173	109	
	延受講者（人）	612	683	981	525	
事業費	事業費		8年度(予算)	7年度(決算)	6年度(決算)	5年度(決算)
			575千円	563千円	606千円	758千円
	特定財源	国・県支出金	千円	千円	千円	千円
		その他	122千円	148千円	149千円	242千円
	一般財源		453千円	415千円	457千円	516千円

7年度の 主な実施内容 (実績)	(実施内容・事業費等)					
			R7			
	講座数・回数	11講座62回	ウィンターコンサート (1回開催)			
	受講者	138人	48人			
	延受講者	612人	－			
成果指標	指標名		目標値(8年度)	7年度	6年度	5年度
	実施講座数		10講座	10講座	12講座	14講座
	受講者数		120人	120人	135人	173人
これまでの 取組みに よる効果 (進捗状況)	○	判断理由 及び 具体的な 成果や 課題等	・施設の特色を活かし、音楽を中心とした初心者向けの講座を実施することができ、多くの市民の参加を得られた。 【課題】 ・新規の音楽関連講座を開催するにあたり、新たな市民ニーズを把握し、そのニーズに応えることができる講師を獲得する必要がある。			
		◎：期待する又は期待以上の効果があった　○：現状維持　△：期待する効果がなかった　－：評価なし				
今後の 方向性	(課題解決のために必要な方策等) ・いきがいつくりのきっかけとなるよう、初心者向けの音楽関連講座を開催する。 ・人気のある講座を確実に提供するほか、受講者へのアンケート調査等により新たなニーズを把握し、新規講座の企画につなげる。 ・講師発掘・登用事業等を活用し、新たな講師の獲得に努める。					
8年度の 主な実施内容	区分	(前年度からの拡充・縮小、変更・改善内容等)				
	継続	・施設の特色を活かした音楽関連の初心者向け講座を開催し、いきがいつくりのきっかけを提供する。 ・アンケートの結果や講師発掘・登用事業等を活用し、新規講座を企画・開催していく。				

第六次総合計画 事業点検シート

事業区分	継続	年度	令和8年度	整理番号	4-3-3-11	
事業名	公民館講座 (中央・知多・鷹来・坂下公民館)			最終更新日	令和8年5月21日	
実施根拠	社会教育法、春日井市公民館の設置及び管理に関する条例			担当課	いきがい推進課	
関連計画	第2次春日井市生涯学習推進計画		関連する 附属機関	生涯学習審議会		
総合計画施策体系	政策分野等	4 市民活動・共生・文化・スポーツ			基本計画 重点方針	—
	施策等	3 文化・スポーツ・生涯学習の推進				
	基本的な 方向性等	3 公民館、図書館などの施設を活用した学びと交流の機会や場の提供と参加しやすい環境づくりを推進するほか、学びの成果が地域の活力や自らの心の豊かさにつながるよう支援し、市民の自発的な学びと多様な交流を促進します。				
目的・ 事業概要	【目的】 市民の生涯学習の場として、幼児期から高齢期までの幅広い層の学習ニーズに応えられるよう学習機会を提供する。 【事業概要】 ①市民講座：年間を前期・後期に分け、多様な学習意欲に応えられるような学習プログラムを立案し、より多くの市民に学習の機会を提供する。 ②短期講座：市民講座を補うものとして、季節・時期に合った短期の講座・教室などを開催する。 ③公民館まつり：地域住民に親しまれる「公民館」として、同好会等の成果発表、交流を支援する。 ④展示の実施など ※講座受講料 講座1回当たり250円を基本として算出する。					
	事業期間	昭和39年度 ～				
過去の経緯、 主な実績等	【事業実績】					
			7年度	6年度	5年度	4年度
	市民 講座	講座数(講座)	44	48	60	59
		回数(回)	302	320	415	394
		受講者(人)	1,243	985	1,188	1,226
		延受講者(人)	5,674	5,651	7,025	6,830
	短期 講座	講座数(講座)	97	77	137	140
		回数(回)	182	143	251	239
		受講者(人)	1,616	1,343	2,169	2,439
		延受講者(人)	2,636	2,030	3,375	2,983
合 計	講座数(講座)	141	125	197	199	
	回数(回)	484	463	666	633	
	受講者(人)	2,859	2,328	3,357	3,665	
	延受講者(人)	8,310	7,681	10,400	9,813	
事業費	事業費		8年度(予算)	7年度(決算)	6年度(決算)	5年度(決算)
			5,048千円	4,434千円	4,358千円	6,130千円
	特定財源	国・県支出金	千円	千円	千円	千円
		その他	1,447千円	1,782千円	1,699千円	2,206千円
	一般財源		3,601千円	2,652千円	2,659千円	3,924千円

7年度の 主な実施内容 (実績)	(実施内容・事業費等)						
			中央	知多	鷹来	坂下	合計
	市民 講座	講座数・回数	15講座104回	12講座88回	3講座20回	14講座90回	44講座302回
		受講者	391人	254人	352人	246人	1,243人
		延べ受講者	2,351人	1,532人	415人	1,376人	5,674人
	短期 講座	講座数・回数	28講座59回	35講座72回	11講座11回	23講座40回	97講座182回
		受講者	580人	503人	166人	367人	1,616人
		延べ受講者	1,020人	946人	166人	504人	2,636人
	合計	講座数・回数	43講座163回	47講座160回	14講座31回	37講座130回	141講座484回
		受講者	971人	757人	518人	613人	2,859人
延べ受講者		3,371人	2,478人	581人	1,880人	8,310人	
成果指標	指標名		目標値（8年度）	7年度	6年度	5年度	
	実施講座数		160講座	141講座	146講座	197講座	
	受講者数		2,900人	2,859人	2,560人	3,357人	
これまでの 取組みに よる効果 (進捗状況)	○	判断理由 及び 具体的な 成果や 課題等	・多様な内容の講座を実施することができ、多くの市民の参加が得られた。 ・経験のない講師を採用した講座を実施し、教えるいきがづくりに貢献することができた。 【課題】 ・受講者の様々なニーズに対応した講座を企画していく必要がある。				
		◎：期待する又は期待以上の効果があった　○：現状維持　△：期待する効果がなかった　―：評価なし					
今後の 方向性	(課題解決のために必要な方策等) ・いきがづくりをサポートする魅力ある講座実施のために、各講座でのアンケート調査を実施し、満足度や新たなニーズを把握し、今後の企画につなげる。 ・市民講座等連続講座は、最終回に次の講座の案内を配付し、次の受講へ繋げる。 ・他館に講座案内のポスター掲示を依頼するなど、周知の場を増やす。 ・子どもを対象とした講座は、土日の開催が多くなるため、講師、参加者ともに人員の確保をする。 ・休日や夜間、託児付きといった、働く世代や子育て世代などが受講しやすい講座を実施する。 ・スマートフォンを活用できる人とそうでない人との格差解消につながるような基礎的な使い方講座を実施する。 ・市民の交流や地域の活力、さらには地域の絆につながるよう、作品展示や館内装飾等を行うなど、施設ごとに特色ある事業を実施する。						
8年度の 主な実施内容	区分	(前年度からの拡充・縮小、変更・改善内容等)					
	継続	・休日や夜間、託児付きといった、働く世代や子育て世代などが受講しやすい講座を実施する。 ・アンケート結果等を積極的に活用して、市民のニーズを把握するとともに、実現可能なものについては、それに応えることができるような内容の講座を企画・実施していく。 ・ホームページ等に写真や受講者の声などを掲載し、講座の内容や魅力が分かりやすく伝わるようPRをしていく。 ・生涯学習活動団体の応援及び活動を広く周知するため、団体を講師とした講座を実施する。					

第六次総合計画 事業点検シート

事業区分	継続	年度	令和8年度	整理番号	4-3-3-12																																																																				
事業名	ふれあいセンター講座 (南部・西部ふれあいセンター)			最終更新日	令和8年5月21日																																																																				
実施根拠	春日井市ふれあいセンター条例			担当課	いきがい推進課																																																																				
関連計画	第2次春日井市生涯学習推進計画		関連する 附属機関	生涯学習審議会																																																																					
総合計画 施策体系	政策分野等	4 市民活動・共生・文化・スポーツ		基本計画 重点方針	—																																																																				
	施策等	3 文化・スポーツ・生涯学習の推進																																																																							
	基本的な 方向性等	3 公民館、図書館などの施設を活用した学びと交流の機会や場の提供と参加しやすい環境づくりを推進するほか、学びの成果が地域の活力や自らの心の豊かさにつながるよう支援し、市民の自発的な学びと多様な交流を促進します。																																																																							
目的・ 事業概要	【目的】 市民の生涯学習の場として、幼児期から高齢期までの幅広い層の学習ニーズに応えられるよう学習機会を提供する。 【事業概要】 ①市民講座：年間を前期・後期に分け、多様な学習意欲に応えられるような学習プログラムを立案し、より多くの市民に学習の機会を提供する。 ②短期講座：市民講座を補うものとして、季節・時期に合った短期の講座・教室などを開催する。 ③芸能発表会：地域住民に親しまれる「ふれあいセンター」として、認定団体や地域団体等の成果発表、交流を支援する。 ④その他：コンサート、地域交流ルーム、展示など 講座受講料：講座1回当たり250円を基本として算出する。																																																																								
	事業期間	平成5年度 ～																																																																							
過去の経緯、 主な実績等	【事業実績】																																																																								
	<table><tr><td colspan="2"></td><td>7年度</td><td>6年度</td><td>5年度</td><td>4年度</td></tr><tr><td rowspan="4">市民講座</td><td>講座数(講座)</td><td>19</td><td>19</td><td>19</td><td>18</td></tr><tr><td>回数(回)</td><td>122</td><td>119</td><td>119</td><td>118</td></tr><tr><td>受講者(人)</td><td>378</td><td>376</td><td>433</td><td>402</td></tr><tr><td>延受講者(人)</td><td>2,038</td><td>1,881</td><td>2,335</td><td>2,141</td></tr><tr><td rowspan="4">短期講座</td><td>講座数(講座)</td><td>37</td><td>33</td><td>32</td><td>27</td></tr><tr><td>回数(回)</td><td>103</td><td>96</td><td>105</td><td>95</td></tr><tr><td>受講者(人)</td><td>556</td><td>519</td><td>460</td><td>388</td></tr><tr><td>延受講者(人)</td><td>1,223</td><td>1,202</td><td>1,185</td><td>1,130</td></tr><tr><td rowspan="4">合 計</td><td>講座数(講座)</td><td>56</td><td>52</td><td>51</td><td>45</td></tr><tr><td>回数(回)</td><td>225</td><td>215</td><td>224</td><td>213</td></tr><tr><td>受講者(人)</td><td>934</td><td>895</td><td>893</td><td>790</td></tr><tr><td>延受講者(人)</td><td>3,261</td><td>3,083</td><td>3,520</td><td>3,271</td></tr></table>							7年度	6年度	5年度	4年度	市民講座	講座数(講座)	19	19	19	18	回数(回)	122	119	119	118	受講者(人)	378	376	433	402	延受講者(人)	2,038	1,881	2,335	2,141	短期講座	講座数(講座)	37	33	32	27	回数(回)	103	96	105	95	受講者(人)	556	519	460	388	延受講者(人)	1,223	1,202	1,185	1,130	合 計	講座数(講座)	56	52	51	45	回数(回)	225	215	224	213	受講者(人)	934	895	893	790	延受講者(人)	3,261	3,083	3,520
		7年度	6年度	5年度	4年度																																																																				
市民講座	講座数(講座)	19	19	19	18																																																																				
	回数(回)	122	119	119	118																																																																				
	受講者(人)	378	376	433	402																																																																				
	延受講者(人)	2,038	1,881	2,335	2,141																																																																				
短期講座	講座数(講座)	37	33	32	27																																																																				
	回数(回)	103	96	105	95																																																																				
	受講者(人)	556	519	460	388																																																																				
	延受講者(人)	1,223	1,202	1,185	1,130																																																																				
合 計	講座数(講座)	56	52	51	45																																																																				
	回数(回)	225	215	224	213																																																																				
	受講者(人)	934	895	893	790																																																																				
	延受講者(人)	3,261	3,083	3,520	3,271																																																																				
事業費	事業費		8年度(予算)	7年度(決算)	6年度(決算)	5年度(決算)																																																																			
			2,087千円	2,064千円	1,969千円	2,108千円																																																																			
	特定財源	国・県支出金	千円	千円	千円	千円																																																																			
		その他	694千円	713千円	717千円	707千円																																																																			
	一般財源		1,393千円	1,351千円	1,252千円	1,401千円																																																																			

7年度の 主な実施内容 (実績)	(実施内容・事業費等)					
			南部ふれあい	西部ふれあい	合計	
	市民講座	講座数・回数	8講座54回	11講座68回	19講座122回	
		受講者	194人	184人	378人	
		延べ受講者	1,072人	966人	2,038人	
	短期講座	講座数・回数	16講座37回	21講座66回	37講座103回	
		受講者	226人	330人	556人	
		延べ受講者	436人	787人	1,223人	
	合計	講座数・回数	24講座91回	32講座134回	56講座225回	
		受講者	420人	514人	934人	
延べ受講者		1,508人	1,753人	3,261人		
成果指標	指標名		目標値(8年度)	7年度	6年度	5年度
	講座数		57講座	56講座	52講座	51講座
	受講者数		950人	934人	895人	893人
これまでの取組みに よる効果 (進捗状況)	○	判断理由 及び 具体的な 成果や 課題等	・多様な内容の講座を実施することができ、多くの市民の参加が得られた。 ・芸能発表会では、地元の中学校の吹奏楽部や地域活動団体に参加を呼びかけ、多くの市民の参加が得られた。 【課題】 ・受講者の様々なニーズに対応した講座を企画していく必要がある。 ・料理系の講座については、欠席の場合に発生する材料費の徴収や成果物の受け渡し等に苦慮している。			
		◎：期待する又は期待以上の効果があった ○：現状維持 △：期待する効果がなかった —：評価なし				
今後の方向性	(課題解決のために必要な方策等) ・各講座でのアンケート調査を実施し、満足度や新たなニーズを把握し、今後の企画につなげる。 ・他館に講座案内のポスター掲示を依頼するなど、周知の場を増やす。 ・休日の講座といった、働く世代や子育て世代なども参加しやすい学習環境の整備、生涯学習を始めるきっかけとなるような講座の充実を図る。 ・デジタル機器を利用できる人とそうでない人との格差解消につながるよう基礎的なパソコンやスマートフォンの使い方講座を実施する。 ・市民の交流や地域の活力、さらには地域の絆につながるよう、季節に合わせたミニコンサートや作品展示、館内装飾等を行うなど、施設ごとに特色ある事業を実施する。					
8年度の 主な実施内容	区分	(前年度からの拡充・縮小、変更・改善内容等)				
	継続	・休日の講座、働く世代や子育て世代なども参加しやすい講座を企画し、生涯学習を始めるきっかけとなるような講座を充実させる。 ・アンケート結果等を積極的に活用して、市民のニーズを把握するとともに、実現可能なものについては、それに応えることができるような内容の講座を企画・実施していく。 ・ホームページ等に写真や受講者の声などを掲載し、講座の内容や魅力が分かりやすく伝わるようPRをしていく。				

第六次総合計画 事業点検シート

事業区分	継続	年度	令和8年度	整理番号	4-3-3-13				
事業名	味美ふれあいセンター講座			最終更新日	令和8年5月29日				
実施根拠	春日井ふれあいセンター条例			担当課					
関連計画	第2次春日井市生涯学習推進計画		関連する 附属機関	—					
総合計画 施策体系	政策分野等	4 市民活動・共生・文化・スポーツ			基本計画 重点方針	③子どもと学びが つなぐ未来			
	施策等	3 文化・スポーツ・生涯学習の推進							
	基本的な 方向性等	3 公民館、図書館などの施設を活用した学びと交流の機会や場の提供と参加しやすい環境づくりを推進するほか、学びの成果が地域の活力や自らの心の豊かさにつながるよう支援し、市民の自発的な学びと多様な交流を促進します。							
目的・ 事業概要	【目的】 地域住民のために、実際生活に即する教育、学術及び文化に関する各種の事業を行い、もって住民の教養の向上、健康の増進、情操の純化を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与することを目的とする。 【事業概要】 ① 市民講座（軽運動室講座含む） ② 短期講座 ③ 展示 受講料 講座1回当たり250円（基本料金）								
	事業期間	昭和62年 ～							
過去の経緯、 主な実績等	過去5年間の開催実績								
		① 市民講座（軽運動室講座含む）			② 短期講座		③ 展示		
		講座数	実施回数	延受講者数	講座数	実施回数	延受講者数	実施回数	出品点数
	令和3年度	6	36	260	28	68	683	8	200
	令和4年度	5	30	363	30	68	711	14	380
	令和5年度	5	30	358	30	70	1,046	21	384
	令和6年度	6	36	419	34	68	883	17	318
	令和7年度	5	30	358	30	70	1,046	21	384
事業費	事業費		8年度(予算)	7年度(決算)	6年度(決算)	5年度(決算)			
			828千円	804千円	835千円	917千円			
	特定財源	国・県支出金	千円	千円	千円	千円			
		その他	232千円	256千円	256千円	217千円			
	一般財源		596千円	548千円	579千円	700千円			

7年度の 主な実施内容 (実績)	(実施内容・事業費等) 【令和7年度実施講座】 ① 市民講座 前期講座 開催数24回、参加者数307人 (軽運動室講座 開催数18回、参加者数217人 を含む) 後期講座 開催数24回、参加者数279人 (軽運動室講座 開催数18回、参加者数215人 を含む) ② 短期講座 開催数59回、 参加者数881人 ③ 展示 295点					
成果指標	指標名		目標値(年度)	7年度	6年度	5年度
	受講者数		1,467人 (令和7年度)	1,302人	1,302人	1,310人
これまでの 取り組みによる効果 (進捗状況)	○	判断理由 及び 具体的な 成果や 課題等	【成果】幅広い層の市民に講座を受講してもらえるよう、夜間講座、土日講座、子ども向け講座、シニア向け講座、ファミリー向け講座等を開催しました。 また、講座のアンケート結果からも満足度が高いことがわかりました。 【課題】将来、受講率が低下するなど、講座を更新する必要がある場合に備え、夜間・土日講座、子ども・高齢者・ファミリー向け講座を開催しながら、市民のニーズを把握し、受講率の高い講座を増やすことを目指します。受講率が低くなった分野の講座については、受講率の改善策を検討し対応していきます。			
			◎：期待する又は期待以上の効果があった ○：現状維持 △：期待する効果がなかった ー：評価なし			
今後の 方向性	(課題解決のために必要な方策等) 受講者から提出いただいたアンケートを講師に閲覧してもらい、講座内容の改善に役立てていただくとともに、企画側は、申込み人数等から市民のニーズを把握して、講座の企画立案に役立てていきます。 受講率の高い講座を継続しながら、新しい講座を開催して受講率の高い講座を増やすことを目指します。					
8年度の 主な実施内容	区分	(前年度からの拡充・縮小、変更・改善内容等)				
	継続	夜間、土日などで普段、講座を受講出来ない市民に向けた講座を開催します。また、子ども向け、シニア向け、ファミリー向け講座等を開催し、幅広い年齢層に講座を提供します。広報、ホームページ、SNS等を活用し、講座を受講する機会を多くの市民の方に提供し、春日井市民の利用を増やすことを目指します。				

第六次総合計画 事業点検シート

事業区分	継続	年度	令和8年度	整理番号	4-3-3-14				
事業名	高蔵寺ふれあいセンター講座			最終更新日	令和8年5月30日				
実施根拠	春日井市ふれあいセンター条例			担当課	高蔵寺ふれあいセンター				
関連計画	第2次春日井市生涯学習推進計画		関連する 附属機関	—					
総合計画 施策体系	政策分野等	4 市民活動・共生・文化・スポーツ		基本計画 重点方針	③子どもと学びが つなぐ未来				
	施策等	3 文化・スポーツ・生涯学習の推進							
	基本的な 方向性等	3 公民館、図書館などの施設を活用した学びと交流の機会や場の提供と参加しやすい環境づくりを推進するほか、学びの成果が地域の活力や自らの心の豊かさにつながるよう支援し、市民の自発的な学びと多様な交流を促進します。							
目的・ 事業概要	【目的】 地域住民のために、实际生活に即する教育、学術及び文化に関する各種の事業を行い、もって住民の教養の向上、健康の増進、情操の純化を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与することを目的とする。 【事業概要】 ① 市民講座 ② 短期講座 ③ 展示 受講料 ①②1回あたり250円（基本料金）								
	事業期間								
過去の経緯、 主な実績等	過去5年間の開催実績								
		① 市民講座		② 短期講座		③ 展示			
		講座数	実施回数	延受講者数	講座数	実施回数	延受講者数	実施回数	出品点数
	令和3年度	6	36	503	22	38	443	10	372
	令和4年度	5	30	511	23	40	484	18	607
	令和5年度	6	36	623	29	48	650	22	721
	令和6年度	6	36	515	31	58	671	25	711
	令和7年度	6	36	563	33	48	446	18	722
事業費	事業費		8年度(予算)	7年度(決算)	6年度(決算)	5年度(決算)			
			726千円	723千円	814千円	833千円			
	特定財源	国・県支出金	千円	千円	千円	千円			
		その他	325千円	266千円	264千円	333千円			
	一般財源		401千円	457千円	550千円	550千円			

7年度の 主な実施内容 (実績)	(実施内容・事業費等)					
	実施講座等					
	① 市民講座					
	前期3講座 開催数18回 参加者数275人 後期3講座 開催数18回 参加者数288人					
成果指標	② 短期講座					
	33講座 開催数48回 参加者数446人					
	展 示 722点					
成果指標	指標名		目標値（年度）	7年度	6年度	5年度
	受 講 者 数		1,100人 (令和8年度)	1,009人	1,186人	1,273人
これまでの 取組みに よる効果 (進捗状況)	○	判断理由 及び 具体的な 成果や 課題等	(成果) デジタル社会をより身近に感じてもらう生涯学習の場として新たに、シニア向け生成AI活用講座を企画・開催した。また、昨年度始めて開催した障がいのある人を対象とした講座を今年度も開催した。 生成AI活用講座は、受講を希望する方が多いことから、令和8年度も開催する。			
			【課題】			
◎：期待する又は期待以上の効果があった ○：現状維持 △：期待する効果がなかった ―：評価なし						
今後の 方向性	(課題解決のために必要な方策等)					
	【施設を利用した、学びと交流の機会・場の提供、地域に親しまれる活動拠点となる施設づくり】 ・障がいのある方や、シニアの方を対象とした各講座の充実に努めていく。 ・障がい者向け講座については、社会福祉協議会に協力を依頼し、周知に努める。 ・2階交流スペースの書作品の展示は年2回の入替を実施し、「書のまち春日井」の継続的な発信をしていく。 ・ふれあいセンターの情報が届くように、広報、チラシ・ポスター、ホームページ、LINEセグメントや「公民館だより」などを通じて情報発信強化に努める。					
8年度の 主な実施内容	区分	(前年度からの拡充・縮小、変更・改善内容等)				
	継続	気軽に学べる場として関心を持ってもらえるよう、多種多様な講座を企画・実施し、学習機会の提供をしていく。 市民のニーズに応えられるよう色々なジャンルの講師を探すため、講師登録や、他市、他施設等の講座・講師情報収集に努めていく。				

第六次総合計画 事業点検シート

事業区分	継続	年度	令和8年度	整理番号	4-3-3-15																																																																
事業名	東部市民センター講座			最終更新日	令和8年5月19日																																																																
実施根拠	社会教育法第22条 春日井市立公民館の設置及び管理に関する条例			担当課	東部市民センター																																																																
関連計画	第2次春日井市生涯学習推進計画		関連する 附属機関	—																																																																	
総合計画 施策体系	政策分野等	4 市民活動・共生・文化・スポーツ		基本計画 重点方針	—																																																																
	施策等	3 文化・スポーツ・生涯学習の推進																																																																			
	基本的な 方向性等	3 公民館、図書館などの施設を活用した学びと交流の機会や場の提供と参加しやすい環境づくりを推進するほか、学びの成果が地域の活力や自らの心の豊かさにつながるよう支援し、市民の自発的な学びと多様な交流を促進します。																																																																			
目的・ 事業概要	【目的】 身近な地域での交流活動や生涯学習の場として、東部公民館での講座を開催する。また、多様な集会室等を活用して、音楽や芸能、軽運動などに親しむ機会をさらに増やし、受講者のいきがづくりを支援する。 【事業概要】 ●市民講座（前期・後期） ・講座数 8～10講座（実施月 4～8月・10～3月） ・講座回数 1講座につき6～8回 ・定員 10～30人 ●市民講座（年間講座『友遊セカンドライフ』） ・講座回数 10回（5～2月） ・定員 45人 ●短期講座 ・講座数 20～30講座 ・実施回数 1講座につき1～6回 ・定員 6～30人																																																																				
	事業期間	昭和58年度 ～																																																																			
過去の経緯、 主な実績等	過去の開催実績																																																																				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th><th>7年度</th><th>6年度</th><th>5年度</th><th>4年度</th><th>3年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">市民 講座</td><td>講座数（講座）</td><td>12</td><td>13</td><td>14</td><td>13</td><td>12</td></tr> <tr> <td>回数（回）</td><td>90</td><td>97</td><td>109</td><td>101</td><td>89</td></tr> <tr> <td>延受講者（人）</td><td>1,567</td><td>1,528</td><td>1,830</td><td>1,777</td><td>1,309</td></tr> <tr> <td rowspan="3">短期 講座</td><td>講座数（講座）</td><td>34</td><td>39</td><td>35</td><td>35</td><td>19</td></tr> <tr> <td>回数（回）</td><td>84</td><td>85</td><td>82</td><td>87</td><td>66</td></tr> <tr> <td>延受講者（人）</td><td>1,391</td><td>1,168</td><td>985</td><td>1,175</td><td>757</td></tr> <tr> <td rowspan="3">合計</td><td>講座数（講座）</td><td>46</td><td>52</td><td>49</td><td>48</td><td>31</td></tr> <tr> <td>回数（回）</td><td>174</td><td>182</td><td>191</td><td>188</td><td>155</td></tr> <tr> <td>延受講者（人）</td><td>2,958</td><td>2,696</td><td>2,815</td><td>2,952</td><td>2,066</td></tr> </tbody> </table>								7年度	6年度	5年度	4年度	3年度	市民 講座	講座数（講座）	12	13	14	13	12	回数（回）	90	97	109	101	89	延受講者（人）	1,567	1,528	1,830	1,777	1,309	短期 講座	講座数（講座）	34	39	35	35	19	回数（回）	84	85	82	87	66	延受講者（人）	1,391	1,168	985	1,175	757	合計	講座数（講座）	46	52	49	48	31	回数（回）	174	182	191	188	155	延受講者（人）	2,958	2,696	2,815	2,952
		7年度	6年度	5年度	4年度	3年度																																																															
市民 講座	講座数（講座）	12	13	14	13	12																																																															
	回数（回）	90	97	109	101	89																																																															
	延受講者（人）	1,567	1,528	1,830	1,777	1,309																																																															
短期 講座	講座数（講座）	34	39	35	35	19																																																															
	回数（回）	84	85	82	87	66																																																															
	延受講者（人）	1,391	1,168	985	1,175	757																																																															
合計	講座数（講座）	46	52	49	48	31																																																															
	回数（回）	174	182	191	188	155																																																															
	延受講者（人）	2,958	2,696	2,815	2,952	2,066																																																															
事業費	事業費		8年度(予算)	7年度(決算)	6年度(決算)	5年度(決算)																																																															
			1508千円	1507千円	1,571千円	1,560千円																																																															
	特定財源	国・県支出金	千円	千円	千円	千円																																																															
		その他	千円	千円	千円	千円																																																															
	一般財源		1508千円	1507千円	1571千円	1560千円																																																															

7年度の 主な実施内容 (実績)	(実施内容・事業費等) 前頁「過去の経緯・主な実績等」に同じ					
成果指標	指標名		目標値（年度）	7年度	6年度	5年度
	講座数（講座）		50（8年度）	46	52	49
	講座回数（回）		180（8年度）	174	182	191
	受講者数（人）		3,000（8年度）	2,958	2,696	2,815
これまでの 取組みに よる効果 (進捗状況)	○	判断理由 及び 具体的な 成果や 課題等	・前年度までの講座の申し込み数や、受講者へのアンケートの結果などを踏まえて、おおむねニーズの高い講座を企画・実施できた。 ・市民ニーズの多様化と受講者の高齢者の割合が高いことを踏まえ、的確にニーズを把握することで、新たな分野の講座を開拓するとともに既存講座の取捨選択を図る必要がある。			
	◎：期待する又は期待以上の効果があった ○：現状維持 △：期待する効果がなかった ー：評価なし					
今後の 方向性	(課題解決のために必要な方策等) ・引き続き、多様な集会室等を活用して、音楽や芸能、軽運動などに親しむ機会を提供するとともに、受講者のレベルアップに取り組む。 ・人気の高い短期講座を市民講座に格上げし、より長い期間講座を受講してもらえるようにする。 ・初心者向けの講座は、新規の受講生が気軽に参加できるため、様々な分野での初心者向け講座を企画していく。 ・受講経験者からの“もっとスキルを伸ばしたい”という意見もあるため、中級・上級者向けの講座も企画する必要があると考えられる。 ・様々な分野での講座を企画できるよう、講師を探すとともに情報収集に努める。 ・より多くの市民に周知できるよう、近隣の商業施設へのチラシ及びポスターの設置や、各駅のデジタルサイネージを活用するなど、積極的なPRを行う。					
8年度の 主な実施内容	区分	(前年度からの拡充・縮小、変更・改善内容等)				
	継続	市民講座（前期・後期）：前期6講座を実施、後期6講座を実施予定 年間講座（年間講座）：『友遊セカンドライフ』を開講 短期講座：約30講座を実施予定				

第六次総合計画 事業点検シート

事業区分	継続		年度	令和8年度		整理番号	4-3-3-16
事業名	ニュータウンきずな事業					最終更新日	令和8年5月19日
実施根拠	社会教育法第22条 春日井市立公民館の設置及び管理に関する条例					担当課	東部市民センター
関連計画	—			関連する 附属機関	—		
総合計画 施策体系	政策分野等	4 市民活動・共生・文化・スポーツ				基本計画 重点方針	—
	施策等	3 文化・スポーツ・生涯学習の推進					
	基本的な 方向性等	3 公民館、図書館などの施設を活用した学びと交流の機会や場の提供と参加しやすい環境づくりを推進するほか、学びの成果が地域の活力や自らの心の豊かさにつながるよう支援し、市民の自発的な学びと多様な交流を促進します。					
目的・ 事業概要	【目的】 東部市民センターを高蔵寺ニュータウン地区の「地域の拠点」として位置づけ、文化事業による住民の「出会い」と「きずな」づくりの場として、地域交流や世代間交流の活性化を図る機会を創り出す。 【事業概要】 ●地域住民の再生と誇りの象徴である「どんぐり」をキーワードとした2つの事業と囲碁大会 ・「どんぐり東部公民館まつり」 東部公民館の活動団体の作品展示や芸能発表を通じて、地域住民に生涯学習の機会を紹介する。 また、様々な方法で集客し、地域住民の「出会い」の場を提供する。 ・「どんぐりキッズ公民館」 全館を会場として、主に小学生やその保護者を対象に、楽しみながら体験して学ぶ機会を子どもたちに提供するとともに、地域住民の交流の場の底辺づくりを創出する。 ・「高蔵寺クラシック・シリーズ（年3回）」 老若男女問わず質の高い芸術文化を鑑賞する機会を提供する。 ・「囲碁大会」 趣味を通じた地域住民の相互の出会いと交流の機会を提供するため、東部公民館を会場として、地域の協力者とともに囲碁大会を開催する。 ・ホールイベント より良質な文化や芸術を提供するため、豊富な知識や経験を有する公益財団法人かすがい市民文化財団に委託し、コンサート等のイベントを実施する。						
	事業期間	～					
過去の経緯、 主な実績等	・どんぐり東部公民館まつり 東部公民館の活動団体が、ホールや公民館各室を会場として、2日間の日程で日ごろの成果を発表し、より多くの人の「出会い」の場が創出できている。 ・どんぐりキッズ公民館 東部公民館の集会室やホールを会場として、子どもたちが楽しめる体験型催事や展示などを開催し、将来を見据えた地域交流の「芽」を育て、大人との交流の場や世代間のふれあう機会を提供できている。 ・「高蔵寺クラシック・シリーズ（年3回）」 老若男女問わず質の高い芸術文化を鑑賞する機会を定期的に提供している。 ・囲碁大会 東部公民館が地域の拠点施設となり、参加者の生涯学習活動の場を提供できている。 ・ピアノ体験会の開催 令和3年に導入したスタインウェイピアノの体験会を通じて、ピアノの音の良さやホールの響きの良さ等を身近に感じていただき、将来利用したいと思われるよう実施している。						
事業費	事業費		8年度(予算)	7年度(決算)	6年度(決算)	5年度(決算)	
			2,184千円	2,177千円	2,379千円	5,526千円	
	特定財源	国・県支出金	千円	千円	千円	千円	
		その他	千円	千円	千円	千円	
	一般財源		2,184千円	2,177千円	2,379千円	5,526千円	

7年度の 主な実施内容 (実績)	(実施内容・事業費等) ・どんぐり東部公民館まつり ・どんぐりキッズ公民館 ・高蔵寺クラシック・シリーズ ・囲碁大会					
成果指標	指標名		目標値(年度)	7年度	6年度	5年度
	どんぐり東部公民館まつり		3,400人(8年度)	3,367人	2,743人	3,193人
	どんぐりキッズ公民館		1,200人(8年度)	1,106人	1,594人	1,947人
	高蔵寺クラシック・シリーズ		1,000人(8年度)	970人	—	—
	囲碁大会		56人(8年度)	52人	51人	51人
これまでの 取組みによる効果 (進捗状況)	○	判断理由 及び 具体的な 成果や 課題等	・「出会い」と「ぎすな」づくりの場を推進する事業は、内容がマンネリ化し停滞することないように、新たな企画を取り入れた事業としていく必要がある。 ・「囲碁大会」が出会いや交流の機会の場として、参加が関係者に偏らないよう、新たな一般市民の参加が求められる。			
◎：期待する又は期待以上の効果があった　○：現状維持　△：期待する効果がなかった　—：評価なし						
今後の 方向性	(課題解決のために必要な方策等) ・どんぐり東部公民館まつりの参加団体を増やすため、認定団体に対し参加を呼びかける。 ・どんぐりキッズ公民館は、新たな出し物の企画、開拓をする。 ・スタインウェイピアノを多くの人に知っていただくため、年に4回程度ピアノ体験会を実施する。 ・東部地域における文化芸術の拠点施設として、ホールをより多くの人々が気軽に足を運んでもらえる機会を提供していく。また、ホールに一流のアーティストを招聘するなど、施設を有効活用できるよう新たな事業を開催していく。 ・公益財団法人かすがい市民文化財団にホール運営業務を委託していることに伴い、各種イベントの開催について連携し、事業の改善を図る。 ・より多くの市民に周知できるよう、近隣の商業施設へのチラシ及びポスターの設置や、各駅のデジタルサイネージを活用するなど、積極的なPRを行う。					
8年度の 主な実施内容	区分	(前年度からの拡充・縮小、変更・改善内容等)				
	継続	・どんぐり東部公民館まつり、どんぐりキッズ公民館、高蔵寺クラシック・シリーズ、囲碁大会を実施 ・4月、7月、11月に高蔵寺クラシック・シリーズを開催予定				

第六次総合計画 事業点検シート

事業区分	継続	年度	令和8年度	整理番号	4-3-3-17																
事業名	図書資料等購入・管理（図書購入）			最終更新日	令和8年5月17日																
実施根拠	図書館法 春日井市図書館条例			担当課	図書館																
関連計画	—		関連する 附属機関	春日井市図書館協議会																	
総合計画 施策体系	政策分野等	4 市民活動・共生・文化・スポーツ		基本計画 重点方針	③子どもと学びが つなぐ未来																
	施策等	3 文化・スポーツ・生涯学習の推進																			
	基本的な 方向性等	3 公民館、図書館などの施設を活用した学びと交流の機会や場の提供と参加しやすい環境づくりを推進するほか、学びの成果が地域の活力や自らの心の豊かさにつながるよう支援し、市民の自発的な学びと多様な交流を促進します。																			
目的・ 事業概要	【目的】 市民の教育と文化の発展に寄与し、生涯学習の拠点として、図書館がその機能を一層発揮するため、広範囲な図書資料等の収集に努める。 【事業概要】 図書資料等購入 ・日本十進分類法に基づき、総記・哲学・歴史・社会科学・自然科学・技術・工学・産業・芸術・スポーツ・言語・文学や参考書・郷土地域資料・児童書など幅広く選書 ・毎月、資料選定会議において購入図書を決定 図書資料等の適正管理 ・毎年一定期間休館し、各図書館・図書室の蔵書点検、資料整理作業を実施 ・資料は概ね10年を目途に廃棄を検討し、蔵書数を適正に管理																				
	事業期間	平成11年度 ～																			
過去の経緯、 主な実績等	社会環境の変化や、市民ニーズをよりの確に把握し、蔵書構成については特定のものに偏ることがないように留意し幅広く図書を選定し、図書資料等の継続的な充実を図っている。 また、特色のある蔵書構成となるよう、郷土や書道に関する資料については積極的に収集、所蔵している。 図書の蔵書数の推移 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>令和7年度</th><th>令和6年度</th><th>令和5年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>春日井市図書館</td><td>588,338冊</td><td>587,558冊</td><td>590,838冊</td></tr> <tr> <td>グループふじとう図書館及び 9図書室</td><td>169,864冊</td><td>179,997冊</td><td>185,352冊</td></tr> <tr> <td>合計</td><td>758,202 冊</td><td>767,555冊</td><td>776,190冊</td></tr> </tbody> </table>						令和7年度	令和6年度	令和5年度	春日井市図書館	588,338冊	587,558冊	590,838冊	グループふじとう図書館及び 9図書室	169,864冊	179,997冊	185,352冊	合計	758,202 冊	767,555冊	776,190冊
	令和7年度	令和6年度	令和5年度																		
春日井市図書館	588,338冊	587,558冊	590,838冊																		
グループふじとう図書館及び 9図書室	169,864冊	179,997冊	185,352冊																		
合計	758,202 冊	767,555冊	776,190冊																		
事業費	事業費		8年度(予算)	7年度(決算)	6年度(決算)	5年度(決算)															
			43,000千円	42,997千円	42,979千円	42,986千円															
	特定財源	国・県支出金	0千円	0千円	0千円	0千円															
		その他	0千円	0千円	0千円	0千円															
	一般財源		43,000千円	42,997千円	42,979千円	42,986千円															

7年度の 主な実施内容 (実績)	(実施内容・事業費等)					
	・一般書、郷土資料、児童書等の図書資料16,455冊を購入 ・視聴覚資料（DVD125点、CD58点）183点を購入 ・紙芝居 166 巻を購入 ・鷹来公民館改修に伴い、蔵書を見直し図書室を再開					
成果指標	指標名		目標値（年度）	7年度	6年度	5年度
	図書の蔵書数		750,000冊（R10）	758,202冊	767,555冊	776,190冊
	DVD、CD数		9,500点（R10）	9,082点	10,049点	9,895点
これまでの取組による効果 (進捗状況)	○	判断理由 及び 具体的な 成果や 課題等	【成果】 ・一般書、郷土資料、児童書を始め、幅広く図書資料等が選定され継続的な充実が図られている。 【課題】 ・読書離れが進む10代に図書館・図書室を利用してもらえるよう、10代に魅力のある資料の充実を図っていく必要がある。合わせて、家庭での読書習慣が形成しやすくなるよう、保護者にとっても魅力のある資料を充実させる必要がある。 ・利用者ニーズを踏まえたうえで図書館・図書室の資料を更新していく必要がある。 ・資料的価値を失った資料を見極め、除籍を行い、書庫及び書棚の適正な管理を行う必要がある。			
			◎：期待する又は期待以上の効果があった　○：現状維持　△：期待する効果がなかった　―：評価なし			
今後の 方向性	(課題解決のために必要な方策等) ・10代向けの資料を積極的に収集し、資料の充実を進める。 ・図書館・図書室における資料の新規購入・更新を計画的に進める。 ・資料的価値を失った資料を見極め、除籍を進め、書庫・書棚の適正な管理を行う。					
8年度の 主な実施内容	区分	(前年度からの拡充・縮小、変更・改善内容等)				
	継続	・各図書館・図書室を包括した蔵書計画に基づき資料選定を行い、図書資料等の充実を進める。 ・利用者ニーズを踏まえ、新規購入する等資料の収蔵を進める。 ・資料を更新するとともに書庫の適正な管理を行うため、資料的価値を失った資料の除籍を行い、書庫・書棚の適正な管理に努める。 ・中央公民館図書室閉室に伴い、所蔵資料の除籍及び再配本を行う。 ・市民の要求を反映し、より豊かで実質的な内容の蔵書とするため、資料収集方針を改定する。				

第六次総合計画 事業点検シート

事業区分	継続	年度	令和8年度	整理番号	4-3-3-18																
事業名	読書啓発			最終更新日	令和8年5月16日																
実施根拠	子どもの読書活動の推進に関する法律			担当課	図書館																
関連計画	第4次春日井市子ども読書活動推進計画		関連する 附属機関	春日井市図書館協議会																	
総合計画 施策体系	政策分野等	4 市民活動・共生・文化・スポーツ		基本計画 重点方針	③子どもと学びが なく未来																
	施策等	3 文化・スポーツ・生涯学習の推進																			
	基本的な 方向性等	3 公民館、図書館などの施設を活用した学びと交流の機会や場の提供と参加しやすい環境づくりを推進するほか、学びの成果が地域の活力や自らの心の豊かさにつながるよう支援し、市民の自発的な学びと多様な交流を促進します。																			
目的・ 事業概要	【目的】 子どもや子育て世代が読書の大切さを認識するとともに、子どもの年齢に応じて読書を楽しむことができるように機会を提供する。 【事業概要】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>事業名</th><th>対象者</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ブックスタート事業</td><td>4か月児と保護者（4か月児健康診査時）</td></tr> <tr> <td>にこにこおはなし会</td><td>0歳から3歳くらいの乳幼児と保護者</td></tr> <tr> <td>紙芝居とお話を聞く会</td><td>幼児、児童</td></tr> </tbody> </table>					事業名	対象者	ブックスタート事業	4か月児と保護者（4か月児健康診査時）	にこにこおはなし会	0歳から3歳くらいの乳幼児と保護者	紙芝居とお話を聞く会	幼児、児童								
	事業名	対象者																			
ブックスタート事業	4か月児と保護者（4か月児健康診査時）																				
にこにこおはなし会	0歳から3歳くらいの乳幼児と保護者																				
紙芝居とお話を聞く会	幼児、児童																				
事業期間	昭和41年度 ～																				
過去の経緯、 主な実績等	・令和3年3月に第4次子ども読書活動推進計画を策定（令和8年3月に計画期間を2年間延長） 事業実績 <table border="1"> <thead> <tr> <th>事業名</th><th>令和7年度</th><th>令和6年度</th><th>令和5年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ブックスタート事業</td><td>1,850組</td><td>2,005組</td><td>2,084組</td></tr> <tr> <td>にこにこおはなし会</td><td>863人</td><td>946人</td><td>786人</td></tr> <tr> <td>紙芝居とお話を聞く会</td><td>1,433人</td><td>1,370人</td><td>1,184人</td></tr> </tbody> </table> ・ブックスタート事業は、絵本と啓発パンフレットを手渡し、希望者に読み聞かせ体験を実施。 ・「にこにこおはなし会」等の読み聞かせ事業は、定期的に行っている効果があり、令和5年度の実績（計1,970人）から計2,296人に増加した。					事業名	令和7年度	令和6年度	令和5年度	ブックスタート事業	1,850組	2,005組	2,084組	にこにこおはなし会	863人	946人	786人	紙芝居とお話を聞く会	1,433人	1,370人	1,184人
	事業名	令和7年度	令和6年度	令和5年度																	
ブックスタート事業	1,850組	2,005組	2,084組																		
にこにこおはなし会	863人	946人	786人																		
紙芝居とお話を聞く会	1,433人	1,370人	1,184人																		
事業費	事業費		8年度(予算)	7年度(決算)	6年度(決算)	5年度(決算)															
			1,903千円	2,666千円	3,424千円	3,157千円															
	特定財源	国・県支出金	0千円	0千円	0千円	0千円															
		その他	0千円	0千円	0千円	0千円															
	一般財源		1,903千円	2,666千円	3,424千円	3,157千円															

7年度の 主な実施内容 (実績)	(実施内容・事業費等)				
	・にこにこおはなし会を始め子どもの年齢に応じた読み聞かせの場を提供した。 ・読み聞かせ事業の担い手確保のため、「図書館読み聞かせボランティア養成講座」を実施し、講座の受講生がボランティアに加入した。 ・子どもや子育て世代が楽しく本に親しむことができるように、定評がある絵本を紹介する「読み継がれる絵本」の選書を見直し、配布用のブックリストを作成した。				
成果指標	指標名	目標値（8年度）	7年度	6年度	5年度
	ブックスタート事業	1,800組	1,850組	2,005組	2,084組
	にこにこおはなし会	900人	863人	946人	786人
	紙芝居とお話を聞く会	1,450人	1,433人	1,370人	1,184人
これまでの 取組みに よる効果 (進捗状況)	○	判断理由 及び 具体的な 成果や 課題等	【成果】 ・各読み聞かせ事業の合計参加者数が、令和5年度より増加した。 ・ブックスタート事業では、絵本のプレゼントだけではなく、職員による読み聞かせを体験してもらい、乳幼児期から読み聞かせの意義を啓発することができた。 【課題】 ・子育て世代に読書に関心を持ってもらうことで、子どもの将来の読書活動を豊かなものにするため、読み聞かせへの理解を深め、図書館の利用を促すような取り組みが必要である。 ・小中学生が本に親しみ、図書館を活用してもらえよう、学校と連携した取り組みが必要である。 ・読み聞かせ事業の推進や図書館ボランティアグループの活動充実のため、引き続き、読み聞かせボランティアの養成を継続する必要がある。		
	◎：期待する又は期待以上の効果があった　○：現状維持　△：期待する効果がなかった　―：評価なし				
今後の 方向性	(課題解決のために必要な方策等) ・子どもや子育て世代が楽しく本に親しむことができるように、定評がある絵本を紹介する「読み継がれる絵本」のブックリストを様々な機会に配布し、読書の啓発を行う。 ・学校や学校図書館の要望に応じた支援を行う。 ・読み聞かせ事業の持続性を図るため、新規ボランティアの育成や既存ボランティアのスキルアップを促す講座を実施する。				
8年度の 主な実施内容	区分	(前年度からの拡充・縮小、変更・改善内容等)			
	継続	・ブックスタート事業において、読み聞かせ体験を継続し、乳幼児期から読み聞かせの意義を引き続き啓発していく。 ・子どもや子育て世代が楽しく本に親しむことができるよう、各読み聞かせ事業を継続して実施する。 ・小中学校に対して、図書館見学や職場体験を受入れ、学校図書館で活動するボランティア向けに読み聞かせや本の修理の講座を実施するなど、学校や学校図書館からの要望に応じた支援を継続して実施する。 ・文化フォーラム春日井で開催されるイベントにあわせて、図書館や読み聞かせをPRする機会を設けるなど、新たな利用者を獲得する取り組みを行っていく。			

第六次総合計画 事業点検シート

事業区分	継続	年度	令和8年度	整理番号	4-3-3-19	
事業名	障がい者図書サービス			最終更新日	令和8年5月16日	
実施根拠	春日井市図書館障がい者サービス実施要綱			担当課	図書館	
関連計画	－		関連する 附属機関	春日井市図書館協議会		
総合計画 施策体系	政策分野等	4 市民活動・共生・文化・スポーツ		基本計画 重点方針	③子どもと学びが つなぐ未来	
	施策等	3 文化・スポーツ・生涯学習の推進				
	基本的な 方向性等	3 公民館、図書館などの施設を活用した学びと交流の機会や場の提供と参加しやすい環境づくりを推進するほか、学びの成果が地域の活力や自らの心の豊かさにつながるよう支援し、市民の自発的な学びと多様な交流を促進します。				
目的・ 事業概要	【目的】 読書バリアフリー法の趣旨に則り、障害の有無に関わらず、読書することのできる環境を整備し、読書の機会を提供する。 【事業概要】 ・サビエ図書館（全国視覚障害者情報提供施設協会が運営しているネットワーク）に加入し、当該サービスの利用を希望する市民を支援する。 ・対面読書（音訳ボランティアが2名ずつが交代で実施） ・点字データ、デイジー図書の製作（ボランティアに作成依頼） ・障がい者を対象に図書等の無料郵送貸出 ・音訳技術講習会、音訳デジタル技術講習会 （音訳図書製作の知識及び技術を学び、音訳ボランティアを育成する。） ※デイジー図書とは、視覚障がい等により活字による読書が困難な方のために作成されたデジタル録音図書の国際標準規格（DAISY=Digital Accessible Information System）。 音声デイジー、マルチメディアデイジー、テキストデイジーなどがある。 春日井市図書館でボランティアに依頼して作成しているのは音声デイジー図書。					
	事業期間	昭和41年度 ～				
過去の経緯、 主な実績等	・読書バリアフリー法（「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律」）が令和元年に施行					
	事業実績					
		令和7年度	令和6年度	令和5年度		
	対面読書	25回（14回）	32回（0回）	49回（5回）		
	デイジー図書・点字データ製作	108タイトル	108タイトル	101タイトル		
	図書等の無料郵送貸出	251冊	153冊	168冊		
音訳技術講習会（修了者）	12人	3人	8人			
事業費	・対面読書は、令和4年度から高蔵寺まなびと交流センター図書館でも実績あり。 ※カッコ内は、春日井市図書館での実施回数 ・点字データ、デイジー図書は、音訳ボランティアと点訳ボランティアの協力を得て、例年と同程度の製作ができた。 ・音訳技術講習会（全12回講座）を開催し、音訳ボランティアの養成を行った。					
	事業費		8年度(予算)	7年度(決算)	6年度(決算)	5年度(決算)
			743千円	642千円	579千円	531千円
	特定財源	国・県支出金	253千円	217千円	226千円	203千円
		その他	0千円	0千円	0千円	0千円
	一般財源		490千円	425千円	490千円	349千円

7年度の 主な実施内容 (実績)	(実施内容・事業費等)					
	・対面読書、図書の無料郵送貸出等の障がい者図書サービスを実施 ・サピエ図書館（全国視覚障害者情報提供施設協会が運営しているネットワーク）に加入して、当該サービスの利用を希望する市民の利用支援を行った。 ・音訳ボランティアを養成する音訳技術講習会のPRに努め、12名が修了した。					
成果指標	指標名		目標値（8年度）	7年度	6年度	5年度
	サピエ図書館登録者		15人	9人	—	—
	デージー図書・点字データ製作		110タイトル	108タイトル	108タイトル	101タイトル
	図書等の無料郵送貸出		260冊	251冊	153冊	168冊
	音訳技術講習会（修了者）		12人	12人	3人	8人
これまでの 取組みによる効果 (進捗状況)	○	判断理由 及び 具体的な 成果や 課題等	【成果】 ・障がい者向けの図書サービスのPRを行い、サピエ図書館の登録者が9名となった。 ・ボランティアの協力により、対面読書やデージー図書、点字データの製作など、障がい者の利便性の向上が図られている。 【課題】 ・障がい者図書サービス事業の実施には、ボランティアの協力が不可欠であり、事業の安定した実施のため、ボランティアの育成を継続する必要がある。 ・サピエ図書館や対面読書など、障がい者の希望に応じられる体制を備えるとともに、市の障がい福祉部門と連携するなどして、利用対象者への広報等を工夫し、広く認知されるよう努めた。			
	◎：期待する又は期待以上の効果があった　○：現状維持　△：期待する効果がなかった　—：評価なし					
今後の 方向性	(課題解決のために必要な方策等)					
	・サピエ図書館加入によって得られるサービスなど、障がい者図書サービスについて積極的に広報し、利用者を獲得するよう努める。 ・利用者の求めに応じ、対面読書や図書の無料郵送貸出を実施する。 ・音訳ボランティアの育成及びスキルアップを図る講座を継続的に実施する。					
8年度の 主な実施内容	区分	(前年度からの拡充・縮小、変更・改善内容等)				
	継続	・各種事業を継続して実施する。				